



平成30年度
グローバル人材の育成に向けた
ESDの推進事業

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム 成果報告書2017



国立大学法人
信州大学

ごあいさつ

長野県はユネスコエコパーク“志賀高原”をはじめとした豊かな自然に恵まれ、学校現場では教員のみならず地域のさまざまな組織が主体となって、環境教育の取り組みが盛んに行われています。

信州大学教育学部においても、全学で取り組む「環境マインドをもつ人材育成」の理念のもと、信州の素晴らしい自然に触れ合う授業を通して、子どもに自然環境の重要性を伝えられる人間性豊かな教員の育成に努めております。

こうした中、わたしたちは「信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成」を目指し、長野県内に広がりつつあるユネスコスクールのさらなる拡大と、ESDの普及に向け、平成28年2月に「信州ESDコンソーシアム」を立ち上げ、活動を進めてまいりました。

次期学習指導要領で取り上げられるなど、いま世界的に注目されるESD (Education for Sustainable Development) は、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくことができるよう、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

設立から2年を経て、「信州ESDコンソーシアム」は、ユネスコスクールや地域のさまざまな組織、そして先行する他地域のコンソーシアムとの連携も進めながら、より大きく羽ばたこうとしております。

わたしたちの2年目の活動をまとめたこの成果報告書が、今後の長野県をはじめとする我が国のESD推進の一助となれば幸いです。

平成30年8月

信州大学教育学部長
永松 裕希



目次

ごあいさつ 信州大学教育学部長 永松 裕希 1

I 信州 ESD コンソーシアムの概要

信州ESDコンソーシアムの概要	4
信州ESDコンソーシアム規約	7
構成団体名簿	9
役員名簿	10
事業実績	11
コーディネーター・運営委員活動記録	13

II 社会教育主事講習

日程表	16
ESD特論①ESDとは何か 安達仁美	17
ESD特論②地球時代の環境教育とESD 渡辺隆一	19
ESD特論③地域文化遺産を活用した社会教育活動 西 一夫	21
ESD特論④ESDの視点から見た社会教育 地域の資源を生かした地域学習 水谷瑞希	24
ESD特論④ESDの視点から見た社会教育 地域の資源を生かした地域学習 山本岩雄	26
<研究の成果>	
社会教育課題の実際研究の成果①新潟A班	27
社会教育課題の実際研究の成果②新潟B班	29
社会教育課題の実際研究の成果③新潟C班	31
社会教育課題の実際研究の成果④長野A班	32
社会教育課題の実際研究の成果⑤長野B班	33

III 通常総会

次第	36
基調講演 「ユネスコスクールのまちおおむた」 大牟田市教育長 安田昌則氏	39
信州ESDコンソーシアム概要説明	46

IV 成果発表 & 交流会

当日の様子	49
次第	51

<成果発表>

①山ノ内町立西小学校	52
②高山村立高山中学校	55
③山ノ内町立山ノ内中学校	56
④信州大学教育学部附属松本中学校	60
⑤長野県長野西高等学校	61
⑥山ノ内町立東小学校	63
⑦山ノ内町立南小学校	64
⑧高山村立高山小学校	66
⑨長野県中野西高等学校	70
⑩文化学園長野中学・高等学校	72

V ユネスコスクール全国大会参加 その他活動

ユネスコスクール全国大会参加	76
<参加報告書>	
①茅野市立永明小学校	78
②山ノ内町立東小学校	80
③山ノ内町立西小学校	83
④山ノ内町立南小学校	85
⑤山ノ内町立山ノ内中学校	86
⑥信州大学教育学部附属長野中学校	87
⑦長野県中野西高等学校	88
⑧長野県長野西高等学校	89
⑨文化学園長野中学・高等学校	90
⑩諏訪ユネスコ協会	91
5月12日 大牟田コンソーシアム訪問	92
その他の事業の概要	93
平成29年度信州ESDコンソーシアム活動報告	
平成30年1月26日名古屋	98

VI ESD 通信

No.1	100
No.2	102
No.3	104
No.4	106
No.5	109
No.6	111
No.7	113
No.8	115
No.9	117
No.10	120
No.11	122
No.12	124

I

信州 ESD コンソーシアムの概要

信州 ESD コンソーシアムの概要

1 背景と課題

ESD の理念の一つである環境教育の分野において、信州大学教育学部は全国の教員養成系学部単独では初となる ISO14001 の認証取得を受けている。そして学部での環境教育の授業の必修化に取り組み、1 年生全員が環境監査資格を取得する等、環境マインドを身につけ、環境教育を指導できる卒業生を長野県内の教育現場に送り出してきた。

また、長野県はユネスコエコパーク「志賀高原」・「南アルプス」を抱え、豊かな生物多様性を有する日本でも稀な恵まれた自然環境の中にある。こうした立地から、県内の環境保護に対する意識は高く、行政のみならず、企業や NPO 法人等において様々な取組が恒常的に行われている。

こうした背景があるものの、ESD の推進拠点と位置付けられたユネスコスクールは県内に浸透しておらず、平成 28 年 2 月 1 日現在でユネスコスクール加盟校は 4 校（高校 1 校・中学校 1 校・小学校 2 校）に止まっている。この要因として、学校現場の教員による ESD の実践や情報提供および研修の機会の不足、さらには、ESD に携わる人材と触れる機会が不足していることが考えられる。また、ユネスコエコパークとの連携もなされず、学校教育と企業や地域のユネスコ協会や NPO 法人等とが個別的に活動している。

こうした現状から、コンソーシアムの形成を通じた、長野県内の優れた取組と学校現場を橋渡しし、教員養成と連携する仕組みの構築が求められている。

2 目的

信州大学教育学部を核としたコンソーシアムを設立し、長野県全域への ESD 活動の普及と定着を最終的な目的とする。コンソーシアムでは、ユネスコスクールとユネスコエコパークの活動を連携させながら、長野県の地理的特性を活かした ESD 活動として国際的にも提唱していくことを目指す。

コンソーシアムの立ち上げに当たる本事業期間においては、スムーズで実効性のある連携体制構築のため、本学部が核となって、長野県内で既に実績がある環境教育をはじめとする ESD 活動の情報を共有し、相互交流のコーディネートを進め、大学、地域のユネスコ協会、NPO 法人等が持つ知識・ノウハウ・人材と学校現場と連携を進める。同時に、ユネスコエコパーク「志賀高原」にある本学部附属志賀自然教育研究施設を中心に、ユネスコエコパークに関わる行政、企業、NPO 法人等との情報共有・連携を進め、ユネスコスクールとユネスコエコパークの活動の連携を図るコンソーシアムへと展開をしていく。

3 3年間の事業構想

(1) 国内外のユネスコスクールとの交流

初年度は、既存のユネスコスクール同士での交流を概ね秋頃を中心に実施する。また、例年秋～初冬に開催されるユネスコスクール全国大会への県内複数校の参加と、そこを通じた県外ユネスコスクールとの交流のきっかけ作りを目指す。

また、コンソーシアムに参加する各 NPO 法人及び一般社団法人長野県環境保全協会は、各学校における ESD 研修会の講師派遣や教材の貸出といった人的・物的な支援に加え、イベント企画を通じた実践発表や交流の場の提供や、優良実践事例の顕彰や報道を通じた広報活動といった様々な形で、ユネスコスクールとの交流を図っていく。信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設では、他のユネスコエコパークにおけるユネスコスクールとの交流や、ESD 活動に関する検討・調整を開始する。

2 年目は、引き続き県内のユネスコスクール間の交流活動を進めるとともに、ユネスコエコパーク地域を含む県外の学校との交流も積極的に進めて行く。

他のコンソーシアムメンバーは、前年度に続きユネスコスクールの活動支援を実施していくとともに、主に大学が主体となって、小・中・高を繋ぐ ESD カレンダーなど独自の環境教育プログラムの構築に向けた検討・調整を開始する。またコンソーシアム間（三重大学、金沢大学、宮城教育大学等）の連携によって国内外のユネスコスクールとの交流を推進する。

3 年目は 2 年目までの取り組みを継続するとともに、複数のコンソーシアムとの連携によって海外のユネスコスクールとの交流を検討し、長野県の環境教育の取組を国際的に発信する。

また、学内制度を活用した海外ユネスコスクール等の視察について検討を行う。

(2) ユネスコスクール以外の学校での ESD 活動の実施

初年度は、信州大学教育学部と山ノ内町教育委員会、長野県教育委員会が中心となり、信州大学教育学部附属学校園、山ノ内町立学校、長野西高等学校をはじめとする県立高校の ESD 活動支援やユネスコスクール登録支援を実施する。

また、信州大学教育学部が中心となって、現場の教員向けに ESD 研究会を開催し、ユネスコスクール登録校における実践事例を広く紹介するとともに、ユネスコスクール加盟校拡大に向けたネットワーク作りを進める。

2 年目以降は、長野県内全域への ESD 活動の普及とユネスコスクール登録校の更なる拡大を目指し、前年度の ESD 研究会で築いたネットワークをきっかけとして、複数の学校の ESD 活動支援とユネスコスクール登録支援を実施する。また、ESD 研究会も継続的に開催し、その中では新規登録校における実践を積極的に紹介していく。さらに、ユネスコスクールおよびそれ以外の学校等において、担当教員のみならず学校教員全体の ESD に対する理解の促進と意識の醸成を図るため、ESD 活動支援センターおよび中部 ESD 活動支援センター等と連携し、「ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引（平成 28 年 3 月 文部科学省）」をテキストとした一般教員向けの出前研修会を複数回開催する。また、このような活動を中南信地区で推進するため、コーディネーターを新規に配置し ESD の普及啓発をおこなう。

(3) 社会教育施設、青少年教育施設等との連携

信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設（博物館相当施設）は、全国で唯一ユネスコエコパークの核心地域に隣接して立地するユニークな研究施設であり、志賀高原ユネスコエコパークにおいて学術的研究支援機能を中核的に担っている。

対象地域のなかにあるレジデント型研究機関としての特性を活かし、ESD の実践と支援を 3 年間継続的に実施する。その際、内容に人と自然との共生という視点を持たせ、ユネスコエコパークを活用した ESD のモデル構築を目指す。

また、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟や長野県内にある各地域のユネスコ協会、一般社団法人長野県環境保全協会およびその 7 支部と連携をはかり、学校のみならず社会教育の場においても ESD の推進をめざし、県内におけるユネスコスクールの拡大にもつなげていく。初年度は、長野県内のユネスコ協会に対して ESD コンソーシアム事業に関する理解促進と協力体制の構築をはかる。2 年目、3 年目は、各ユネスコ協会の物的資源や人的資源を活かしてユネスコスクールをサポートするとともに、社会教育主事講習を通じた社会教育関係者への ESD の普及をおこなう。

さらに、グローバルな視点から ESD について議論できる機会を設ける。また、3 年間を通して、長野ユネスコ協会青年部や、国際ユース環境会議等の ESD 活動に取り組む多様なユースを対象としたワークショップを開催し、ユースによる ESD プラットフォームの構築に寄与する。また、最終年度は持続的発展的なコンソーシアムの構築に向けて議論をおこなう。

信州 ESD コンソーシアム規約

(4) コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」

初年度はコンソーシアムの立ち上げのための準備を始め,11月頃に正式な設立を目指す。また年度内に,各学校現場等でのESDの取り組みを報告する活動事例発表会を開催する。

活動事例発表会は,2年目以降も定期的に開催する。各学校でのESD活動の目標となる発表の機会を定期的に提供することにより,学校現場でのESD実践を促進するとともに,関係者の交流を促進する。活動事例発表会にはユネスコスクールだけでなく,信州大学教育学部がこれまで防災教育や国際理解といったESD関連分野で培ってきた県内の教員や学校とのネットワークを活かし,ユネスコスクール以外の学校にも広く参加を呼びかける。

この活動を通じてESDの普及を図るとともに,それをきっかけとしたユネスコスクールの登録拡大を目指す。また,活動事例は一般の学校等においても有意義であり,実践事例集としての研究報告書として広く配布,活用する。

(5) 都道府県教育委員会との連携

長野県教育委員会とは,NPO法人みどりの市民,一般社団法人長野県環境保全協会といったコンソーシアムメンバーが企画・実施する各種イベントへの後援や,信州大学が企画・実施するESD研究会への助言といった形での連携を行う。

第1章 総則

(名称)

第1条 この団体は,信州ESDコンソーシアム(以下「本団体」という。)と称する。

(事務局)

第2条 本団体の事務局は,信州大学教育学部内に置くものとする。

(目的)

第3条 本団体は,様々なESD関係者が協力して長野県を中心としたESDを推進することを目的とする。

(活動)

第4条 本団体は,前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) ユネスコスクールをはじめとする教育機関でのESDの推進と国内外のESD推進校との交流促進
- (2) 公民館,図書館をはじめとする社会教育施設,青少年教育施設を通じた社会教育におけるESDの推進
- (3) ウェブサイトや成果報告会等を通じたESD関連情報の共有
- (4) ESDに関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
- (5) 企業,NGOを含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
- (6) その他本団体の目的を達成するために有益と考えられる活動

第2章 会員

(会員)

第5条 本団体の会員は,第3条の目的に賛同して入会する各種団体,教育関係機関及び任意団体(以下「団体等」という。)とする。

(入会及び退会)

第6条 入会を希望する団体等は,所定の入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2 団体等の入会は,会長が許可する。

3 退会を希望する会員は,所定の退会申込書を事務局に提出し,任意に退会することができる。

(会費)

第7条 本団体の会費は,当面徴収しないものとする。

第3章 役員

(役員)

第8条 本団体に,次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名以上3名以内
- (3) 運営委員 会長が必要と認める定数

(役員の実務)

第9条 役員は,役員会を構成し,本団体の業務の執行を決定する。

2 会長は,本団体を統括し,本会を代表する。

3 副会長は,会長を補佐し,会長に事故あるときはその職務を代行する。

4 運営委員は,運営委員会を構成し,本団体の業務を執行する。

(役員の実任)

第10条 会長は,信州大学教育学部の長とする。

2 副会長は,運営委員の中から会長が選任する。

3 運営委員は,会長が指名し,総会において承認する。

(役員の実任)

第11条 役員の実任は2年とする。ただし,再任を妨げない。

第4章 会議

(会議の種類)

第12条 本団体の会議は,総会及び運営委員会とする。

平成29年度 信州ESDコンソーシアム構成団体名簿

平成30年3月31日現在

No.	団体名	コンソーシアム区分
1	信州大学	大学/代表団体
2	高山村教育委員会	教育委員会
3	山ノ内町教育委員会	教育委員会
4	信州大学教育学部附属幼稚園	ユネスコスクール
5	高山村立高山小学校	ユネスコスクール
6	山ノ内町立東小学校	ユネスコスクール
7	山ノ内町立西小学校	ユネスコスクール
8	山ノ内町立南小学校	ユネスコスクール
9	茅野市立永明小学校	ユネスコスクール
10	いづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	ユネスコスクール
11	信州大学教育学部附属長野小学校	ユネスコスクール
12	信州大学教育学部附属松本小学校	ユネスコスクール
13	高山村立高山中学校	ユネスコスクール
14	山ノ内町立山ノ内中学校	ユネスコスクール
15	信州大学教育学部附属長野中学校	ユネスコスクール
16	信州大学教育学部附属松本中学校	ユネスコスクール
17	長野県中野西高等学校	ユネスコスクール
18	長野県長野西高等学校	ユネスコスクール
19	文化学園長野中学・高等学校	ユネスコスクール
20	信州大学教育学部附属特別支援学校	ユネスコスクール
21	NPO法人みどりの市民	地域団体
22	NPO法人やまぼうし自然学校	地域団体
23	長野市立長沼公民館（長沼りんごホール）	地域団体
24	一般社団法人長野県環境保全協会	地域団体
25	長野県ユネスコ連絡協議会	地域団体
26	長野ユネスコ協会	地域団体
27	上田ユネスコ協会	地域団体
28	松本ユネスコ協会	地域団体
29	諏訪ユネスコ協会	地域団体
30	飯田ユネスコ協会	地域団体
31	木曾ユネスコ協会	地域団体
32	直富商事(株)	地域団体
33	(株)ミールケア	地域団体
34	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	支援機関
35	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	支援機関
36	環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）	支援機関

※区分「ユネスコスクール」には、申請中または申請検討中を含む

(総会)

第13条 総会は、会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の権能)

第14条 総会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 規約の決定及び変更
- (2) 事業計画の承認
- (3) 事業報告の承認
- (4) 役員承認
- (5) その他本団体の運営に関する重要事項

(総会の開催)

第15条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電子メールにより招集の請求があったとき。

(総会の招集)

第16条 総会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し、あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。

(総会の議長)

第17条 総会の議長は、その総会に出席した役員の中から会長がこれを指名する。

(総会の議決)

第18条 総会の議事は、別段の定めがある場合を除き、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第19条 運営委員会は、運営委員をもって構成する。

2 運営委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

(運営委員会の権能)

第20条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 事業計画の立案と変更
- (2) 事務局の組織及び運営に関する事項
- (3) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(運営委員会の開催)

第21条 運営委員会は、会長又は委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章 ESDコーディネーター

(ESDコーディネーター)

第22条 本団体に、ESDコーディネーター若干名を置く。

2 ESDコーディネーターは、本団体の目的を達成するために、長野県を中心としたESDの推進を支援する。

3 ESDコーディネーターは、長野県を中心としたESD活動に習熟した識者の中から、会長が指名する。

4 ESDコーディネーターの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第6章 雑則

(雑則)

第23条 この規約に定めるもののほか、本団体の運営に必要な事項は別に定める。

附 則

この規約は、平成29年2月18日から施行する。

平成29年度 信州ESDコンソーシアム役員名簿

職名	氏名	所属	職名	備考
会長	永松 裕希	信州大学教育学部	学部長	
副会長	佐々木正明	山ノ内町教育委員会	教育長	
副会長	宮島 和雄	一般社団法人 長野県環境保全協会	専務理事	
副会長	中野 清史	長野県ユネスコ連絡協議会	会長	
運営委員長	西 一夫	信州大学教育学部	教授	コーディネーター
運営副委員長	渡辺 隆一	信州大学教育学部	特任教授	コーディネーター
運営委員	安達 仁美	信州大学教育学部	准教授	コーディネーター
運営委員	水谷 瑞希	信州大学教育学部	助教	コーディネーター
運営委員	本間 喜子	信州大学学術研究・産学連携推進機構 リサーチ・アドミニストレーションセンター	助教	

平成29年度 信州ESDコンソーシアム事業実績

No.	年月日	事業名	区分	対象	主催・共催・後援等	会場
1	平成29年6月18日(日)	タビトーク!vol.1	講演会	高校生・大学生・一般	主催:長野ユネスコ協会青年部 つなぶる	tsunagno(長野市内)
2	平成29年6月22日(木)	山ノ内町立西小学校 志賀高原ユネスコエコパーク及びESD研修会	研修会	山ノ内西小学校教職員	主催:山ノ内町立西小学校 共催:山ノ内町観光商工課 ユネスコエコ パーク推進室、信州ESDコンソーシアム	山ノ内西小学校
3	平成29年6月28日(水)	長野文学散歩	講座開催	大学生	信州大学教育学部	信州大学教育学部 善光寺界限
4	平成29年6月30日(金) ~7月2日(日)	第6回 国際ユース環境会議 in 小田切	講師招聘	中学生・高校生・ 大学生・一般	主催:国際ユース環境会議実行委員会 共催:信州ESDコンソーシアム 後援:長野県教育委員会、長野市教育委 員会、(一社)長野県環境保全協会、信州 大学教育学部	長野市青少年育成センター
5	平成29年7月12日(水) ~7月13日(木)	附属松本中学校野外学習・交流学習	交流支援	中学生	附属松本中学校、 山ノ内町立山ノ内中学校	志賀高原・山ノ内中学校
6	平成29年7月15日(土) ~7月16日(日)	2017信州大学環境学生委員会全学合宿	講師派遣	大学生	信州大学教育学部環境学生委員会	志賀高原
7	平成29年7月22日(土)	信州大学教育学部 附属次世代型学び研究開発センター 第4回学びフォーラム	講師派遣	教員	主催:信州大学教育学部附属次世代型 学び研究開発センター	信州大学教育学部
8	平成29年7月23日(日)	信州大学教育学部オープンキャンパス	ブース展示	高校生	信州大学教育学部	信州大学教育学部
9	平成29年7月25日(火)	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間 研修会	研修会	山ノ内南小学校教職員	主催:山ノ内町立南小学校 共催:山ノ内町観光商工課 ユネスコエコ パーク推進室、信州ESDコンソーシアム	山ノ内南小学校
10	平成29年8月3日(木)	山ノ内町教育委員会ESD研修会	研修会	山ノ内町教職員	主催:山ノ内町教育委員会	志賀高原
11	平成29年8月5日(土) ~6日(日)	2017青少年のための科学の祭典長野大会	ブース展示	小学生・中学生・高校生	主催:「青少年のための科学の祭典」 2017長野大会実行委員会、(公財)日本 科学技術振興財団 共催:信州大学教育学部 他 協賛:信州大学教育学部同窓会 他 後援:文部科学省、長野県教育委員会、 長野市教育委員会 他	信州大学教育学部
12	平成29年8月6日(日)	北信越ユネスコスクール交流会2017	交流支援	北陸3県、長野県、及び東 海地域のユネスコスクール 及びユネスコスクール関係 者	主催:金沢大学国際基幹教育院 共催:中部地方ESD活動支援センター 後援:ユネスコスクール支援大学間ネット ワーク、ESD活動支援センター、北陸ESD 推進コンソーシアム、信州ESDコンソー シアム、(公社)大学コンソーシアム石川	金沢勤労者プラザ
13	平成29年8月8日(火) ~11日(金)	社会教育主事講習(ESDウィーク)	講座開催	長野県・新潟県 社会教育従事者	主催:信州大学教育学部	信州大学教育学部
14	平成29年8月21日(月)	第4回信州大学見本市 - 知の森総合展2017 -	ブース展示	企業、諸団体等	主催:信州大学 共催:伊那市、南箕輪村 協賛:(公財)長野県テクノ財団 他 後援:(一社)長野県経営者協会 他	伊那市役所
15	平成29年8月27日(日)	信州ESDコンソーシアム 2017年度第1回ESD研修会	研修会	コンソーシアム構成団体、 参加希望団体等	主催:信州ESDコンソーシアム 後援:信州大学教育学部、長野県教育委 員会、ESD活動支援センター、長野県ユ ネスコ連絡協議会、(一社)長野県環境 保全協会	信州大学教育学部
16	平成29年8月27日(日)	信州ESDコンソーシアム平成29年度通常総会	コンソーシア ム運営	コンソーシアム構成団体、 参加希望団体等	信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部
17	平成29年9月3日(日)	「触れる地球ーみんなの未来を地球規模で考えよう」	ブース展示	長野市第一地区住民	主催:桜枝町公民館・育成会 共催:信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部
18	平成29年10月1日(日)	第1回「ESD推進の手引」を活用した研修会 @長野県	研修会	教育委員会指導主事 学校管理職 等	主催:文部科学省、(公財)ユネスコ・アジ ア文化センター(ACCU) 後援:日本ジオパークネットワーク、信州 ESDコンソーシアム、伊那市教育委員 会、駒ヶ根市教育委員会、ESD活動支援 センター	伊那市役所
19	平成29年10月4日(水)	平成29年度 研修教員の学部研修「教育に関する 研修」 「ESD(Education for Sustainable Development)か らとらえる学びの姿」	研修会	附属学校研修教員	信州大学教育学部、 信州ESD コンソーシアム	信州大学教育学部
20	平成29年10月15日(日)	第22回高天ヶ原湿原再生イベント 高天ヶ原湿原の ヨシの除去と湿原周辺の外来種除去	交流支援	一般	主催:やなぎらの会 共催:高天ヶ原旅館組合 志賀高原リゾ ート開発株式会社 協力:信州大学エコキャンパス委員会 後援:(一財)和合会	高天ヶ原(志賀高原)
21	平成29年10月28日(土)	ESD研究会(長野)	研修会	教員、ESD関係団体等	主催:中部地方ESD活動支援センター 共催:信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部

平成29年度 コーディネーター・運営委員活動記録

22	平成29年12月2日(土)	ユネスコスクール全国大会	交流支援	ESD関係者	主催:文部科学省ユネスコ国内委員会 共催:NPO法人日本持続発展教育推進 フォーラム、福岡県大牟田市、大牟田市 教育委員会、(公財)ユネスコ・アジア文 化センター、(公社)日本ユネスコ協会連 盟 後援:外務省、環境省他多数	大牟田文化会館
23	平成30年1月9日(火)	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間 研修会(山ノ内中学校)	研修会	山ノ内町教職員	主催:山ノ内中学校 共催:山ノ内町観光商工課、ユネスコエコ パーク推進室、信州ESDコンソーシアム	山ノ内中学校
24	平成30年1月9日(火)	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間 研修会(山ノ内西小学校)	研修会	山ノ内町教職員	主催:山ノ内西小学校 共催:山ノ内町観光商工課、ユネスコエコ パーク推進室、信州ESDコンソーシアム	山ノ内西小学校
25	平成30年1月26日(金)	平成29年度文部科学省「グローバル人材育成のため のESD推進事業」活動報告会	コンソーシア ム運営	グローバル人材育成のため のESD推進事業関係者	主催:ESDコンソーシアム愛知 後援:日本ユネスコ国内委員会、愛知県 教育委員会、名古屋市教育委員会、(公 財)ユネスコ・アジア文化センター、ユネス コスクール支援大学間ネットワーク、中日 新聞社、教育新聞社	JRゲートタワーカン パレンス(名古屋市)
26	平成30年2月3日(土)	成果発表&交流会	交流支援	コンソーシアム構成団体、 長野県内中学校関係者(教 員・児童・生徒・保護者)等	主催:信州ESDコンソーシアム 後援:信州大学教育学部、長野県教育委 員会、ESD活動支援センター、長野県ユ ネスコ連絡協議会、(一社)長野県環境 保全協会	信州大学教育学部
27	平成30年3月3日(土)	ESD推進ネットワーク地域フォーラム2017 「すべてをつなぎ、SDGs達成、持続可能な地域をつ くる」	研修会	教員、ESD関係団体等	主催:中部地方ESD活動支援センター 協力:中部ESD拠点協議会、北陸ESD 推進コンソーシアム、信州ESDコンソー シアム 後援:富山県、富山県教育委員会、石川 県、石川県教育委員会、福井県、福井県 教育委員会、長野県、長野県教育委員会、 岐阜県、岐阜県教育委員会、愛知県、愛 知県教育委員会、三重県、三重県教育委 員会、名古屋市、名古屋市教育委員会	ウインクあいち (名古屋市)

日程	活動内容	担当者
4月5日	平成29年度第1回ESD事業運営委員会	全員
4月25日	山ノ内町教育委員会等との打合せ	水谷
4月26日	グリーン・ヒルズ小学校・中学校校長に信州ESDコンソーシアムの説明	水谷
4月27日	飯田市教育委員会および環境保全協会飯田支部に対し信州ESDコンソーシアムの説明	水谷, 渡辺
5月10日	平成29年度第2回ESD事業運営委員会	全員
5月12日	大牟田コンソーシアム訪問	安達
5月17日	山ノ内西小学校においてESD研修会等の打合せ	水谷
5月20日	長野県ユネスコ連絡協議会に参加し信州ESDコンソーシアムを紹介	安達
5月31日	長野県環境保全協会と信州ESDコンソーシアムの打合せ	西, 渡辺
6月7日	平成29年度第3回ESD事業運営委員会	全員
6月9日	山ノ内西小学校, 中野西高等学校においてESD研修会等の打合せ	水谷
6月17日	立教大学ESD研究所10周年記念シンポジウムに参加	渡辺
6月22日	山ノ内西小学校においてESD研修会を開催	水谷, 渡辺
6月30日	山ノ内町教育委員会等との打合せ	水谷
6月30~7月2日	第6回国際ユース環境会議に参加	渡辺
7月3日	中部地方ESD支援センター運営会議に参加	渡辺
7月5日	平成29年度第4回ESD事業運営委員会	全員
7月12日	信州大学附属松本中学校が志賀高原において高原学習を実施	水谷
7月15日	信州大学環境学生委員会の志賀高原研修会において現地案内と信州ESDコンソーシアムの紹介	渡辺
7月19日	山ノ内南小学校, 高山中学校などでユネスコスクール登録式典を実施	安達, 水谷
7月21日	信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター第4回学びセンターフォーラムにおい て講演「ESD教育における産官学共同の展開」を実施	渡辺
7月25日	山ノ内南小学校においてESD研修会を開催	安達, 水谷, 渡辺
7月26日	平成29年度第5回ESD事業運営委員会	全員
7月29日	志賀高原植樹イベント「ABMORI」に中野西高等学校などが参加	水谷
8月1日	社会教育主事講習現地巡検の打合せ	水谷
8月2日	平成29年度第6回ESD事業運営委員会	全員
8月3日	山ノ内町教職員ESD研修会においてユネスコエコパークとESDについて解説	渡辺
8月6日	北信越ユネスコスクール交流会に参加	安達
8月8~11日	社会教育主事講習において講習を実施	西, 安達, 水谷, 渡辺
8月21日	平成29年度第7回ESD事業運営委員会	全員
8月22日	高山中学校においてESD推進等の打合せ	水谷
8月24日	県教育委員会とESD推進についての協議	西, 水谷
8月27日	平成29年度 信州ESDコンソーシアム第1回研修会・総会を開催	全員
9月1日	長野県知事などに対して信州ESDコンソーシアムの活動を説明	水谷
9月2日	ユネスコエコパーク特別番組放送(SBC信越放送) 「いただきます!大自然!~志賀高原ユネスコエコパークの旅~」	水谷
9月6日	平成29年度第8回ESD事業運営委員会	全員
10月1日	「ESD推進の手引き」を活用した研修事業(伊那市役所)に参加	水谷
10月4日	信州大学教育学部附属学校研修教員に対するESD研修を実施	安達
10月4日	平成29年度第9回ESD事業運営委員会	全員
10月7日	HESDフォーラムに参加	西
10月17日	山ノ内西小学校ゲストティーチャー, 山ノ内中学校, 山ノ内南小学校, 山ノ内町教育委員会打合せ	水谷
10月28日	ESD研究会長野「新学習指導要領とESD授業づくり」を開催	西, 安達, 水谷, 渡辺
10月31日	志賀高原ガイド組合でESDワークショップを実施	水谷
11月1日	平成29年度第10回ESD事業運営委員会	全員

I 信州ESDコンソーシアムの概要

11月10～13日	国際交流活動:フランス/フリーズ・パスカル大学 Didier Jourdan教授によるユネスコスクール視察(山ノ内南小学校, 文化学園長野中学・高等学校)を案内	渡辺
11月11～12日	ESD国際シンポジウム(立教大学)に参加	水谷
11月15日	山ノ内町の子ども議会に参加	水谷
11月24～25日	ESD推進全国ネットワークフォーラムに参加	渡辺
11月24～25日	平成29年度ユネスコスクール豊橋大会に参加	水谷
12月1～3日	ユネスコスクール全国大会に参加, 発表	安達, 水谷
12月6日	平成29年度第11回ESD事業運営委員会	全員
12月14日	山ノ内町内各学校でESD推進についての打合せ	水谷
12月27日	山ノ内西小学校でESDカリキュラムデザイン研修会を実施	水谷
12月20日	諏訪地域におけるESD推進の打合せ会において信州ESDコンソーシアムの説明	渡辺
1月9日	ユネスコエコパーク/ESD/総合的な学習の時間研修会(山ノ内中学校・山ノ内西小学校)を開催	水谷
1月10日	平成29年度第12回ESD事業運営委員会	全員
1月15日	中野西高等学校でESD推進についての打合せ	水谷
1月17日	平成29年度第13回ESD事業運営委員会	全員
1月29日	ESD交流会in東海に参加	本間
1月23日	長野市長沼公民館において信州ESDコンソーシアムの説明	渡辺
1月24日	長野県教育委員会に対して信州ESDコンソーシアムの説明	安達, 渡辺, 水谷
1月26日	全国ESDコンソーシアム活動報告会で発表	水谷, 本間
1月27日	第3回ユネスコエコパークセミナー(山ノ内町文化センター)においてワークショップを実施	水谷
1月31日	平成29年度第14回ESD事業運営委員会	全員
2月1日	長野県地方事務所社会教育主事と信州ESDコンソーシアムについて打合せ	安達, 渡辺
2月3日	平成29年度 信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会を開催	全員
2月7日	平成29年度第15回ESD事業運営委員会	全員
2月10日	SDG s 講演会に参加	渡辺
2月23日	ESD交流会in北陸・長野に参加	渡辺
2月28日	山ノ内中学校, 山ノ内東小学校においてESD推進についての打合せ	水谷
3月5日	平成29年度第16回ESD事業運営委員会	全員
3月7日	中部地方ESD支援センター運営会議に参加	渡辺
3月9日	SDG s 講習会(東京)に参加	渡辺
3月10日	十三崖チョウゲンボウ応援団平成29年度勉強会(中野市)において「地域資源を学びに活かすESD」について講演	水谷

II

社会教育主事講習

平成29年度 社会教育主事講習日程表

月日	時限	午前		昼休み	午後				
		1	2		3	4	5	6	
月	日	曜日	9:00~10:30	10:40~12:10	12:10~13:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	18:00~19:30
1	28	金	受付/開講式 オリエンテーション 第1会議室	生涯学習政策の現状と課題 文部科学省 丹野史教 第1会議室		社会教育の仕事の魅力 長野県教育委員会 木下巨一 第1会議室	ICT活用と社会教育 東原・森下 第1会議室		
2	29	土	こどもたちの社会力を育てる 小岩井 彰 青木村文化会館 他(バスで移動)						
3	30	日	生涯学習論と省察的な学び 山辺 恵理子 第1会議室	自給自足の大家族と里親制度 宇津 孝子 第1会議室		山間小規模校の良さを生かした学校づくり 中原 敏 第1会議室	学校と地域をつなぐコーディネーター 前川 浩一 第1会議室		
4	31	月		「しあわせ信州」の実現に不可欠な官民協働 竹内 延彦 第1会議室		官民連携の地域活動 倉根 明德 第1会議室	誰でも参加できる「信州こども食堂」のひろがり 青木 正照 第1会議室	信州の特徴的な保育・幼児教育 小林 成親 第1会議室	
5	1	火	新しいものづくりと地域コミュニティとのつながり 村松 浩幸 第1会議室	カウンセリングと社会教育 上村 恵津子 第1会議室		社会教育と教育行政 青木 一 第1会議室	信州総合学習の伝統 畔上 一康 第1会議室	社会教育委員の活動と活動計画 谷塚 光典 第1会議室	
6	2	水	動物飼育と教育 大藪 勝 第1会議室	部活動の現状とこれから 油井 幸樹 第1会議室		現代社会と生涯学習Ⅱ 越智 康詞 第1会議室	現代社会と生涯学習Ⅰ 高柳 充利 第1会議室	社会教育における博物館・美術館の役割 小野 文子 第1会議室	
7	3	木	生涯学習社会の学習システム 伏木 久始 第1会議室	地域おこし協力隊とまちづくり 牧野・小黑 第1会議室		電話の向こうの悩める子どもたち 美谷島 恵子 第1会議室	不登校の親の会の活動 松田 恵子 第1会議室	高校生の社会参画 石城 正志 第1会議室	
8	4	金	キャリア教育 安達 仁美 第1会議室	児童虐待防止 興津 祥子 第1会議室		社会体育論 橋本 政晴 第1会議室	社会教育の内容・方法・形態 古里 貴士 第1会議室	社会教育施設の経営 古里 貴士 第1会議室	
9	5	土	社会教育における博物館の役割 竹下欣宏 戸隠 他(バスで移動)						
10	7	月	運動遊びプログラムの実践 渡辺 敏明 第1会議室&第1体育館&第2体育館			運動遊びプログラムの実践 渡辺 敏明 第1会議室&第1体育館&第2体育館			
11	8	火	ESD特論① 安達 仁美 第1会議室	ESD特論② 渡辺 隆一 第1会議室		ESD特論③ 西 一夫 第1会議室ほか善光寺界限			
12	8	9	ESD特論④ 水谷 瑞希 志賀施設 他(バスで移動)						
13	10	木	演習Ⅰ(社会教育事業の計画) 渡辺・古里貴士・西(-)・安達・水谷 第1会議室&M301&M306			演習Ⅰ(社会教育事業の計画) 渡辺・古里貴士・西(-)・安達・水谷 第1会議室&M301&M306			
14	11	金	演習Ⅰ(社会教育事業の計画) 渡辺・古里貴士・西(-)・安達・水谷 第1会議室&M301&M306			演習Ⅰ(社会教育事業の計画) 渡辺・古里貴士・西(-)・安達・水谷 第1会議室&M301&M306			
15	12	土	体育・レクリエーション活動 小林 敏枝 第1会議室&第1体育館&第2体育館			体育・レクリエーション活動 小林 敏枝 第1会議室&第1体育館&第2体育館			
16	17	木	演習Ⅱ(社会教育課題の実際研究) 渡辺 古里 西(-)・安達 水谷 伏木 畔上 第1会議室&M301&M306			演習Ⅱ(社会教育課題の実際研究) 渡辺 古里 西(-)・安達 水谷 伏木 畔上 第1会議室&M301&M306			
17	18	金	演習Ⅱ(社会教育課題の実際研究) 渡辺 古里 西(-)・安達 水谷 伏木 畔上 第1会議室&M301&M306			演習Ⅱ(社会教育課題の実際研究) 渡辺 古里 西(-)・安達 水谷 伏木 畔上 第1会議室&M301&M306			
18	19	土	社会教育行政Ⅰ 長野県教育委員会 第1会議室	社会教育行政Ⅱ 新潟県教育庁 第1会議室	閉講式(12:15~) 第1会議室	(運営委員会 12:30~) 第2会議室			

ESD 特論① ESD とは何か: 安達仁美

ESD 特論①
ESD とは何か?

信州大学 教育学部 現代教育コース 安達 仁美

ESD とは...
Education for Sustainable Development
日本語では...
持続可能な開発のための教育

パーム油の生産量、10年で2倍

日本では植物油の総供給量264万8千トン内、菜種油105万トン、パーム油64万7千トンで2番目の供給量 (農水省2016)

持続不可能な開発

環境面
1. 熱帯林の消失
2. 絶滅のおそれのある野生生物、生物多様性の減少
3. 伐採、森林火災による温室効果ガスの大量排出
4. プランテーション栽培による土、水、大気汚染

社会面
1. 森林に依存する先住民等との軋轢
2. 農園における劣悪な労働環境、人権侵害
3. 生息地を奪われた野生動物との衝突

持続可能な開発(社会)とは... Sustainable Development

環境の保全
経済の安定
社会の発展
グローバルな視点
安全(平和)

ESDが目指すことは... think globally, act locally

地球規模の課題(平和、貧困、人権、環境等)を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分自身で考えること、実践していくこと(think globally, act locally)を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動

ESD=持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

ESDの愛称

ユネスコ国内委員会(作者は小6)
「今日よりいいアースへの学び」
岡山市
「E(えーものを)S(子孫の)D(代まで)」
奈良教育大学ユネスコクラブ
「E:ええやん(他者理解)、S それ(ってどうなん?)批判的思考、D:どや!(行動化)」

持続可能な社会づくりの構成概念(例)

- 多様性(いろいろある)
- 相互性(関わり合っている)
- 有限性(限りがある)
- 公平性(一人ひとり大切に)
- 連携性(力を合わせて)
- 責任制(責任をもって)

ESDによって育む能力・態度(例)

- 批判的に考える力
- 未来像を予測して計画を立てる力
- 多面的・総合的に考える力
- コミュニケーションを行う力
- 他者と協力を力
- つながりを尊重する態度
- 進んで参加する態度

こども環境白書2015

ESDの10年(2005年~2014年)

2002年「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」
当時の小泉総理(日本)が「持続可能な開発のための教育の10年」を提唱。
第57回国連総会において2005年から2014年までの10年を「国連ESDの10年(DES10)」とされ、ユネスコが主導機関に指名された。
2014年「ESDに関するユネスコ世界会議」
11月日本(岡山・愛知)で最終年会合が開催された
GAP(Global Action Programme on ESD)として継続

GAP Global Action Programme on ESD 2015年~2019年(5年間)

ESD特論② 地球時代の環境教育とESD:渡辺隆一



ユネスコスクールの拡大(1953年~)

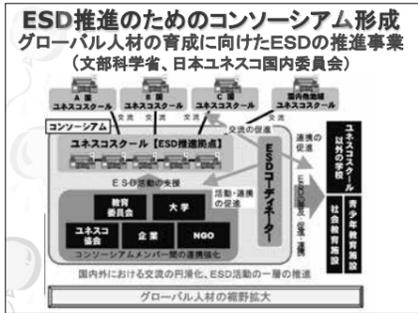
世界180か国に約9,566校

- ESD推進の拠点校
- 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

日本国内では1037校(2017年5月現在)

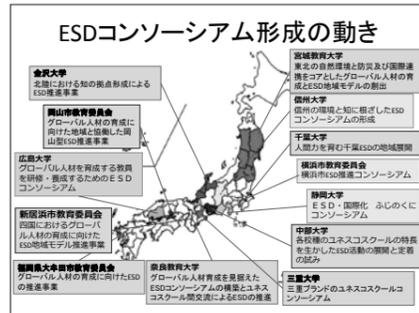
内、長野県は・・・11校
新潟県は・・・60校

【小学校】
高山村立高山小学校、山ノ内町立西小学校、山ノ内町立東小学校
山ノ内町立南小学校、茅野市立永明小学校
【中学校】
高山村立高山中学校、山ノ内町立山ノ内中学校、信州大学教育学部附属松本中学校
【高等学校等】
長野県長野高等学校、長野県中野高等学校、文化学園長野・中等高等学校



ESDコンソーシアムの主な活動

- ・国内外のユネスコスクールとの交流
- ・ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施
- ・地域ユネスコ協会、教育委員会、社会教育施設、青少年教育施設等との連携
- ・得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」等



信州コンソの昨年度の活動

- ※設立準備研修会 (11月, 信大)
- ※学校での教員研修会 (8月, 附属松本中)
- ※自治体等での研修会 (8月, 山ノ内町)

ユネスコエコパーク(志賀高原)での取り組み

- ・山ノ内町、高山村のすべてのユネスコスクールが地域の自然環境を活かした野外学習を実施



環境問題への対応

- ・技術的: 先端的*伝統的
医学/農学/工学/社会学/理学/倫理学/政治
- ・経済的: 環境税、グリーン電力、新エネルギーの普及(太陽光、風力・・・)
- ・法的(大気、水質汚染防止法・・・)
- ・国際的条約*地域的条例(京都議定書、ワシントン条約、景観条例・・・)
- ・環境教育(最も効果的)



ベオグラード憲章(1975年)

環境教育の地球規模の枠組み

- ・環境状況: 経済成長と技術進歩は
- ・社会に・・・貧富の差(国家間・国内共に)
- ・自然に・・・環境汚染と自然破壊

↓

・新しい世界(グローバルな倫理)が必要!
人間と自然の調和/人と人の調和

↓

∴そのための教育が必要

環境教育とは?

目的: 環境問題解決のための教育

自主的な

目標: 環境価値観の形成

手段: 参加型学習で



北信越ユネスコスクール交流会2017

8月6日(土)金沢勤労者プラザ
石川・福井・富山・長野のユネスコスクールの教員が集まり、成果と課題についてディスカッションした。

学習指導要領改訂の基本方針

平成28年12月21日
中央教育審議会 教育課程企画特別部会 答申より

持続可能な開発のための教育(ESD)は、次期学習指導要領改訂の全体において**基盤となる理念**であると言えるが、【中略】各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。



環境教育の現状(長野市2014年度)

- ・年間指導計画 小学校; 31/55 中学; 18/24
- ・環境教育担当教員 小学校98% 中学88%
- ・学習活動として
児童会54・総合の時間52・理科51・社会科49・家庭科48・学級活動37・遠足31・登山31・キャンプ20
- ・学校活動として
節電節水54・空缶ゴミ拾い43・公共場の清掃27・森の育成15・河川の浄化9

持続可能な開発目標(SDGs)

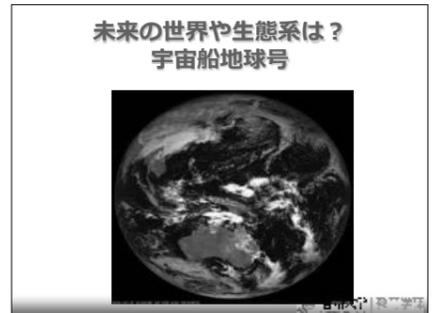
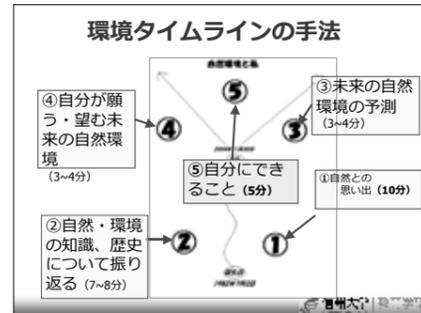
- ・2015年の国連サミットで採択。
- ・先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定。

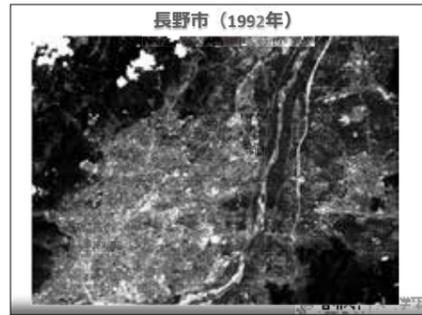
ESD演習で取り組むミッション

巡検を行った地域(善光寺地域、志賀高原ユネスコエコパーク)もしくは自らの活動地域の**地域資源を活かした**、持続可能な社会の実現に向けた**社会教育施設(公民館等)のESD活動を立案する。**

地域資源・・・文化財、自然、人、伝統、特産物、町並み etc.

どのようなESD活動ができそうか・・・
考えながらフィールドへ





SD (Sustainable Development/持続可能な社会) という考え方

そのための教育(ESD)とは

キーワード:

- ・生きる力=ESD
- ・ESDカレンダー
- ・ユネスコスクール
- ・RCE(地域ESD拠点)

I 持続可能な開発のための教育 (ESD) について

Sustainable Development (持続可能な開発) とは

「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」

国連「環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)」報告書『我ら共通の未来(Our Common Future)』(1987年)における定義

持続可能な開発のための教育(ESD)とは...

「持続可能な社会の担い手を育む教育」

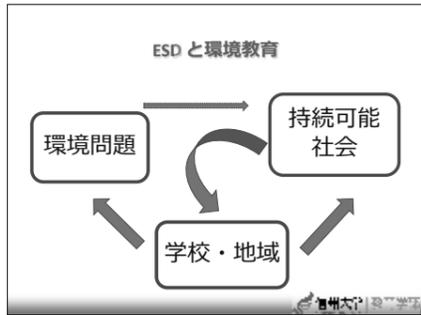
特徴② 学校教育における取組

◎教育委員会が計画及び学習指導要領を通じてESDの推進

◎ユネスコスクールを核にした取組

東京都江東区東雲小学校 年間計画(ESDカレンダー)

2010年度から学校の教育課程にESDの推進を盛り込む



ふるさと・自然学習からのESD

松本市のESD

信州ESDコンソーシアムの紹介

1. 事業の目的
2. 組織体制
3. 2016年度の活動
4. 構成団体の活動紹介
5. 次年度以降の活動

ESD特論③地域文化遺産を活用した社会教育活動:西一夫

地域文化遺産を活用した社会教育活動

—善光寺界隈の史跡探訪—
(平成29年8月8日)

本日の計画

0. 講義(第1会議室)
1. 視察①: 学内石碑公園(顕彰碑)
2. 視察②: その他の学内石碑
(行幸碑・行啓碑・旧制長野中学碑)
3. 視察③: 往生寺
(夕焼小焼・芭蕉句碑・一茶句碑・藤村文学碑)
4. 視察④: 善光寺
(回向柱・漱石句碑・種田山頭火句碑・「鳩ぽっぽ」歌碑)

ESDにみる地域文化遺産

(1)ESDの目標

- 全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

(2)育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観(人間の尊厳、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)
- 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)
- 代替案の思考力(批判力)
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

(3)学び方・教え方

○「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置付けること

○単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとること

○活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

(4)我が国が優先的に取り組むべき課題

先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進めていく。
(「我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画」より)

地域の文化遺産を学ぶ手立て

活動を通して地域の文化遺産に触れて、その価値を再確認する。
—例「長野歩こう会」の学内視察企画(20170317)参考資料

「石碑公園」の4碑

①浅岡先生頌徳碑 ②能登先生碑 ③正木先生碑 ④浅岡先生頌徳碑

①浅岡先生頌徳碑

I. 「浅岡先生頌徳碑」概要

杉浦重剛 撰 比田井鴻 書 (大正10年建立)

浅岡一先生

- ・嘉永4(1851年)~昭和元(1926年)
- ・明治19年9月 [36歳]
- ・長野県学務課長兼任で第4代長野県尋常師範学校長に就任。
- ・明治26年11月転出までの8年間、長野県教育界並びに長野県師範学校の興隆に尽力。

比田井天来(本名 鴻 幼名 常太郎)

- ・明治5(1872年)~昭和14(1939年) 現 佐久市望月出身
- ・明治30年 [26歳] 上京。書を日下部鳴鶴に学ぶ。
- ・大正4年 [44歳] 東京高等師範学校 習字科講師嘱託。文部省検定委員を委嘱(〜大正8年)。
- ・大正5年 [45歳] この年から2年余り、鎌倉建長寺に監居。古典の勉強に没頭、新しい用筆法を発見。⇒「現代書道の父」

建長寺碑石



② 正木先生碑銘

II. 「正木先生碑銘」概要

市村環次郎 撰 田代其次 書 (昭和12年建立)

正木直太郎先生

- ・安政3(1856)年～昭和9(1934)年
- ・明治19年 [31歳] 長野県尋常師範学校教諭
- ・明治26年 浅岡校長の転出を受けて、第5代長野県尋常師範学校長に就任 [38歳]。
- ・明治32年転出までの7年間、長野県教育界及び長野県師範学校の興隆に功績を残す。

田代秋鶴(本名 其次)

- ・1883(明治16)年～昭和21(1946)年 現 塩尻市片丘出身
- ・明治32年 [16歳] 教員試験に合格。長野県内の小学校に勤務。
- ・明治35年 [19歳] 東京音楽学校師範科入学。
- ・明治37年 [21歳] 書家として丹羽海鶴に入門。その後、日下部鳴鶴や比田井天来の影響。



① 「夕焼小焼」歌碑と鐘

作曲者は長野出身の草川信です。往生寺の鐘音が作詞の起因になつたとされていますが、重大な疑念があります。

「夕焼小焼」歌碑

草川 信(わかひし、1893-1944)は作曲家。長野県埴科郡松代町(現・長野市松代町)出身。長野師範学校附属小学校(信州大学教育学部附属長野小学校)で福井重樹に薫陶を受け、旧制長野中学校(長野県長野高等学校を経て、東京音楽学校(東京芸術大学)に進む。

卒業後は渋谷区立小学校訓導や東京府立第三高等学校(東京都立駒場高等学校)教諭など教職の傍ら、演奏家として活動。その後、詩歌に深い関心をもち、数々の作詞を手がける。

「夕焼小焼」は往生寺の鐘をモデルとする。戦中供出。戦後復元。



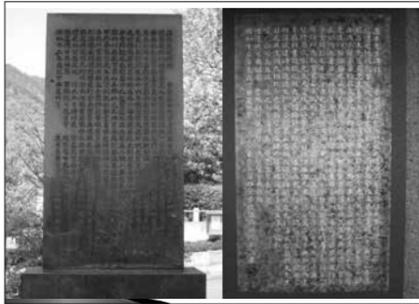
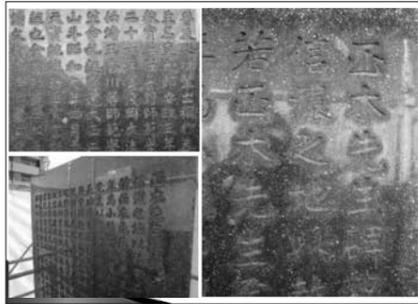
小林一茶句碑

春風や牛に引かれて善光寺開帳に逢ふや雀も親子連

田代秋鶴(本名 其次)

- ・昭和6年 [48歳] 東京高等師範学校講師
- ・昭和12年 [54歳] ※「正木先生碑銘」揮毫年
- ・文部省教員検定試験(文検)検定委員
- ・昭和15年 [57歳] 文部省習字教科書編集委員 国民学校芸能科習字教師用書 執筆

大澤和詩典の習字作成



② 鳥崎藤村文学碑

小説「破戒」の主人公が、往生寺の山上から「師範校の寄宿舎」に向けて友を呼び叫んでいます。

① 善光寺

漱石・茶山 山頭火 句碑

夏目漱石 小林一茶 種田山頭火は、いずれもかつての地を訪れています。

② 童謡「鳩はほ」歌碑

作詞者の東くめは、善光寺を訪れたことがあります。善光寺の鳩が作詞の起因になつたとされていますが、重大な疑念があります。



その他の学内碑石

明治天皇行幸碑

長野県庁への行幸記念碑

長野師範学校附属小学校(市立図書館入り口)

その他の学内碑石

旧制長野中学校の史跡

その他の学内碑石

皇太子行啓碑

種田山頭火句碑

八重桜つづく南無観世音菩薩像

すぐそばにたしや信濃路のかこり

回向柱納所

昭和三十年から平成二十七年までの十本の回向柱がある。

歌が丘の碑石

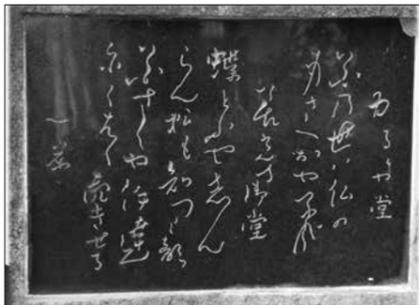
この丘は、昭和8年の熊谷暴動騒動を機に、市内の有志によってこの開墾地帯の開墾地に、郷土の精神・文化に奉獻した人々の業績を顕彰し、昭和11年に完成しました。その後、昭和22年に建て替えられ、昭和30年に完成しました。七ヶ宿、昭和30年に建て替えられ、昭和30年に完成しました。七ヶ宿、昭和30年に建て替えられ、昭和30年に完成しました。

往生寺の文学碑

古典文学と近代文学とが交流する寺、往生寺

近世の俳人たちが来訪

かるかや堂はなの世ハ仏の見さへ おや子哉 善光寺御堂 蝶とふや しんらん松も 知つた蘭はなさくや 伊達にはへて 売きせる

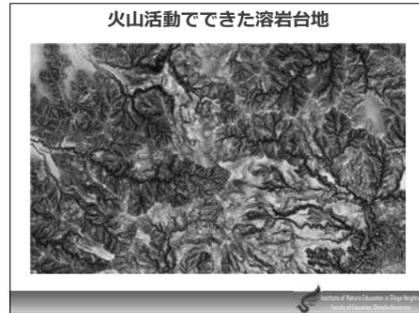


ESD特論④ESDの視点から見た社会教育 地域の資源を生かした地域学習:水谷瑞希



志賀高原

- 著名なスノーリゾート
- 火山活動でできた溶岩台地
 - 火山地形・湖沼群・湿原・原生林
- 第一級の自然保護地域
 - 国内：上信越高原国立公園
 - 国際：生物圏保護地域 (Biosphere Reserve) = ユネスコエコパーク

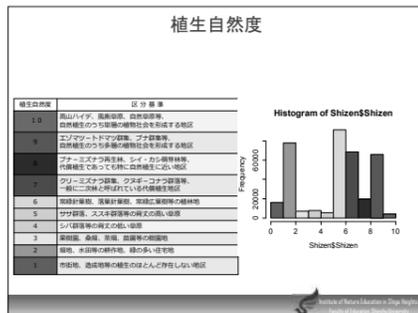
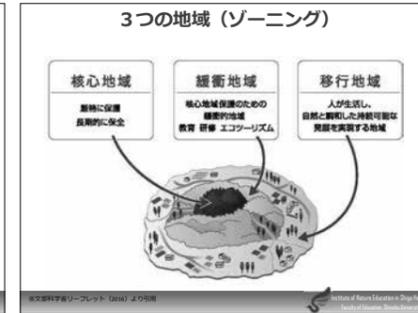


3つの機能

① 保存機能 (生物多様性の保全)	② 学術的研究支援	③ 経済と社会の発展
人間の干渉を最小限に抑え、自然の力を活かして生物多様性を維持し、生態系サービスの向上を図る。	世界遺産の歴史・文化・自然の価値を科学的に検証し、学術的・教育的に活用する。	自然遺産の保全と調和した持続可能な観光の発展を促し、地域社会の発展に貢献する。

1. 身近な自然を守る
2. 将来の子どもたちにも伝える
3. 守った自然に配慮した暮らしを続ける

• 持続可能な社会のモデル
• ← 鍵となるのはESD



ご存じですか？

- 世界遺産 (自然遺産)
- ラムサール条約登録湿地
- ジオパーク
- ユネスコエコパーク



本日の巡検内容

- 核心地域～緩衝地域
 - 志賀高原ガイド組合による解説 (環境教育プログラム)
- 移行地域
 - 自然、歴史、文化的資源

世界遺産 (自然遺産)

- かけがえのない「遺産」を、人類共通の財産として保護し、後世に伝えていく
 - 顕著な普遍的価値をもつ地形や生物多様性、景観などを備える地域
 - ほかに文化遺産、複合遺産
- 世界遺産条約 (ユネスコ) 1972～
- 世界203件 (日本4件)

ラムサール条約登録湿地

- 国際的に重要な湿地の保全と賢明な利用 (ワイドユース) を目的
 - 近代的な国際的自然環境保全プログラムのさきがけ
- ラムサール条約 (事務局) 1971～
- 世界2,208湿地 (国内50湿地)

ジオパーク

- 地球科学的な価値を持つ遺産(大地の遺産)を保全し、教育や地域の活性化に活かす
- 世界ジオパークネットワーク(2004～) → ユネスコ(2015.11～)
 - 日本ジオパークも存在
- 世界120地域 (国内は世界GP8地域、日本GP39地域)

ユネスコエコパーク

- 生態系の保全と持続可能な利用の調和 (自然と人間社会の共生) を目的
- 人間と生物圏 (MAB: Man and the Biosphere) 計画 (ユネスコ) 1976～
 - 生物圏保存地域 (BR: Biosphere Reserves)



プログラム3
SKG48～世界に広げようエコパークの輪～

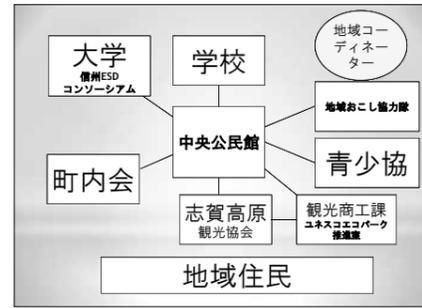
★目的
世界に発信することで、志賀高原に対する誇りを高める。

★活動の内容
観光協会とのタイアップにより、SKG48の派遣。おこなったことで3つの特長がある。SKG48の主要な役割として派遣される。

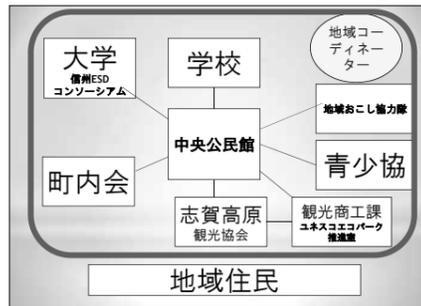
地域以外の世界の人とのかかわり

プロジェクト実施における体制

SKIP実行委員会



社会教育課題の実際的研究の成果:新潟B班



中央公民館

- ・主催
- ・事業全体の運営

志賀高原観光協会

- ・バッジテスト
- ・子どもガイド担当

妙高高原の地域資源



妙高高原温泉郷

七つの温泉

- ・赤倉温泉
- ・新赤倉温泉
- ・池の平温泉
- ・杉野沢温泉
- ・妙高温泉
- ・燕温泉
- ・関温泉

観光商工課
ユネスコエコパーク推進室

- ・事業全体の協力
- ・情報提供
- ・学習会講師

町内会

- ・地域への声かけ

大学
信州ESDコンソーシアム

- ・講師の手配
- ・全国への広報

豊富な雪とバリエーション豊かなスキー場

- 赤倉観光リゾートスキー場
- 赤倉温泉スキー場
- 池の平温泉スキー場
- 妙高杉ノ原スキー場
- 冬季常設クロスカントリースキーコース

妙高高原地域の課題

後継者不足

まちづくりの合言葉

もっと知りたい 妙高高原

みんなが住みたい 妙高高原

人も未来もつなげたい 笑顔あふれる 妙高高原

学校

- ・参加者の募集
- ・企画内容のすりあわせ
- ・地域行事への参加の促し

地域おこし協力隊・青少協

- ・各種活動のサポート

地域コーディネーター

- ・各機関との連絡・調整

プログラムの目標 SDGsとの関連

- ◎未来の担い手の育成
若者の流出を防ぎ、地域社会の担い手を育成する。
- 地域資源の再発見
今ある資源をもう一度見つめなおす。
8 働きがいも経済成長も-8,9
12 つくる責任つかう責任-b
- 地域交流の活性化
外国人との交流を含め、地域交流を活性化。
10 人や国の不平等をなくそう-2,7

妙高高原まちづくり講座

もっと知りたい妙高高原-地域資源の再発見-

1. 郷土料理を楽しもう!
2. 知りたい!七五三温泉講座
3. 人と自然をつなぐ妙高高原アウトドアプログラム
4. THE温泉講座

みんな住みたい妙高高原-地域交流の活性化-

5. これであたかも国際人!?
・えいごをはなそう!~①
・Let's speak Japanese!~②

1 講座名

郷土料理を楽しもう!

構成概念 II 相互性、V: 連携生
能力・態度 ④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する力

本プロジェクトを地域に広げる活動(広報)

- ◆子どもへ
学校説明会の実施 (SHIGA☆CAN) 夏休みの課題の1つに
- ◆保護者へ
学校のPTA総会時に説明会の実施
- ◆地域住民へ
町内会を通して説明(人材募集も兼ねて) 回覧板・チラシ・有線・CTV フェイスブック

プロジェクト制作活動を振り返って

主催者が楽しんで企画を立てていくことが大切!

ご清聴ありがとうございました

2 目的

- 郷土料理のよさを再発見しよう!
- 郷土料理を楽しもう!
- 郷土料理を知ろう。
- 郷土料理を作ろう。
- 郷土料理を食べよう。
- 創作料理を食べよう。
- 郷土料理レシピ本を作ろう。
- 郷土料理を地域住民に紹介しよう。

3 対象

- 郷土料理を楽しみたい(学びたい)方々
- 地域住民全員
- 次代に郷土料理を継承したい方々
- 郷土料理を作れるようになりたい方々、子ども
- Uターン、Iターン、就職、結婚などで、地域にいられた方々

4 内容

場所: 妙高高原メッセ(妙高市毛祝坂) 7年7回(第3日曜日、10時から13時)

講座内容	講師	時期
① 山菜の天ぷら	食糧委員、名人	5月
② 竹の子汁	食糧委員、名人	6月
③ 笹寿司	食糧委員、名人	7月
④ のっぺ	食糧委員、名人	8月
⑤ ちまき	食糧委員、名人	9月
⑥ スキー汁	食糧委員、名人	10月
⑦ レッド焼きそば	食糧委員、赤倉温泉	11月

5 振り返り評価、継続支援

〇郷土料理のレシピをまとめ、レシピ本(冊子)を作ろう。

- 〇冊子が自分の宝物(学びの履歴)となる。
- 〇冊子を公民館、図書館、観光施設などに置いたり、町内回覧板で回したりして広める。
- 〇公民館のホームページにアップする。
- 〇参加者が家庭で作る。郷土料理の担い手になる。
- 〇来年度、以下の料理教室を行う。
 - ・「子ども+大人」の料理教室
 - ・他地域の郷土料理教室、多国籍料理教室

知りたい! 七五三温泉講座

〇構成理念: 多様性、有償性
〇魅力・価値: つながりを尊重する態度、進んで参加する態度

- 1 目的 地域にある7つの温泉(5つの泉質、3つの色)について、現地で説明を聞き、実際に入ることで、それぞれの温泉のよさを知る。
- 2 対象 全市民(ただし、中学生以下は保護者同伴) 全7回(1回ごとに参加を募る)、無料

※7つの温泉とは…
妙高温泉、杉野沢温泉、池の平温泉、赤倉温泉、新赤倉温泉、関温泉、燕温泉

3 内容

- (1) 準備、広報
 - ・7つの温泉旅館に講座を1回引き受けてもらうよう要請
 - ・公民館だけで、全7回(各回20名)を募集
 - ・毎回、現地集合、現地解散とする
- (2) 実施要領
 - ・5、6、7、9、10、11、3月の土曜日に1回ずつ実施
 - ・一般客の少ない午前9時~11時
 - ・9時00分~9時20分 温泉旅館女将による温泉講座(歴史、泉質、効能、入り方等)
 - ・9時30分~10時30分 入湯 感想記入(記入後、現地解散)
 - ・10時30分~
- (3) 継続性、その他
 - ・講座参加者の感想を公民館によりやSNSで発信
 - ・現地解散後、温泉旅館で温泉(肴料)を味わうようにする
 - ・「妙高温泉郷」Tシャツと手ぬぐいを参加者に配布

社会教育課題の実際研究の成果:新潟C班

Niigata Uonuma Area ESD 公民館連携事業について

Niigata Group C
太島誠 金子和宏
森山義紀 田辺未奈希
中島稔

本日の構成

1. なぜこのテーマなの?
2. 地域ネットワークって?
3. プログラムの構成は?
4. プログラムの内容は?
5. 広報活動の戦略!
6. ESDと今後の展望!

地域資源を生かしたESD活動プログラム

幸せに生き残るための「災」防災学習会

なぜ防災学習なの?
・地震、水害、雪害、原子力 など様々な災害が起きる可能性があり、人々はその危険性に直面している。

しかし…現状は
・中継地帯からの復興と共に人々の防災意識が風化
・よそごと、人ごとと捉える人が圧倒的に多いのが現状
・人口減少や高齢化によるコミュニティーの崩壊が顕著化
・行政に頼りきりの防災意識の蔓延化
・異常気象、火山活動の活性化、頻発する大地震

このままではいいのかな?

1. 講座名

人と自然をつなぐ妙高高原アウトドアプログラム

2. 目的

- ・妙高高原の豊かな自然をフィールドとした様々な野外活動を行うことを通じて、妙高高原の地域資源である自然環境や人とのつながりの大切さを学び、それらを守っていくこととする。
- ・異学年、隣接小学校の児童が共に活動することを通して社会性を育成する。
- ・野外活動に親しみ、学んだことを自分の生活に生かす。

3. 対象

妙高高原地域の小学生(4~6年生)

4. 内容

年間活動計画による

回	テーマ	内容	実施日	実施場所
1	開講式	開講式(約1時間)、1年間の活動計画を知る。	4月	妙高市生涯学習課
2	妙高高原の自然を知る	妙高高原の自然とその魅力、妙高高原の自然の恵みについて知る。	5月中旬	妙高高原ビジターセンター
3	防災準備講座(1)	防災準備講座(1) 防災準備講座(1) 防災準備講座(1) 防災準備講座(1) 防災準備講座(1)	6月中旬	妙高高原ビジターセンター
4	フラックバスター	フラックバスター 防災準備講座(2) 防災準備講座(2) 防災準備講座(2) 防災準備講座(2) 防災準備講座(2)	7月	妙高高原ビジターセンター
5	登山山行	登山山行 登山山行 登山山行 登山山行 登山山行	8月上旬	妙高高原ビジターセンター
6	紅葉を楽しむ	紅葉を楽しむ 紅葉を楽しむ 紅葉を楽しむ 紅葉を楽しむ 紅葉を楽しむ	9月後半	妙高高原ビジターセンター
7	スキーを楽しむ	スキーを楽しむ スキーを楽しむ スキーを楽しむ スキーを楽しむ スキーを楽しむ	10月後半	妙高高原ビジターセンター
8	登山山行	登山山行 登山山行 登山山行 登山山行 登山山行	11月上旬	妙高高原ビジターセンター
9	スキーを楽しむ	スキーを楽しむ スキーを楽しむ スキーを楽しむ スキーを楽しむ スキーを楽しむ	12月上旬	妙高高原ビジターセンター
10	閉講式	閉講式 閉講式 閉講式 閉講式 閉講式	3月	妙高市生涯学習課

5 振り返り評価、継続支援

〇年間活動のまとめを行い、次年度活動計画に生かす。

〇子どもの興味・関心に応じた専門的な活動につなげる。

自然環境をもっと学びたい!
→妙高高原ビジターセンター
夢見平遊歩道を守る会

もっとスキーがしたい!
→妙高高原ジュニアスキー育成会

だからこそなんだワン!

- ・災害に強いまちづくり、ひとづくりを!
- ・より生きやすい地域づくりを!

持続可能な社会づくりのための防災学習

目標は つ…

- ・災害についての理解や 関心を深めよう!
- ・多くの 人と互いに助け合える関係をつくろう!
- ・災害に強い地域づくりの担い手になろう!

防災教育

→各地区 公民館活動を つなげる = ネットワーク化

地域の実情
・防災組織(自治会、消防団)の人員不足
・地域の防災はこれだけの力か? 若い世代の防災リーダーの育成

広範な連携
・高校、大学生、研究者、自治会

◎各講座の実行委員にも!

◆これからも住み続けられるまちづくり
◆気候変動への具体的な備え

プログラム構成

- 1 問題提起(共通時間調整)
- 2 地域を知る
- 3 考える
- 4 自分に置き換える
- 5 防災教育ネットワークフェスタ

参加者同士でのづくり
各地域公民館で実施

THE 温泉講座

構成理念: 多様性、有償性
魅力・価値: つながりを尊重する態度、進んで参加する態度

講座名	対象	講座回数	場所
古民家・空き家再生講座	妙高高原で田舎暮らしを検討している方 古民家・空き家の経営を検討されている方	全4回	妙高高原メッセ 妙高高原の空き家、古民家
温泉経営向上講座	温泉を営んでいる方 妙高高原で温泉を営んでみたいと考えている方	全4回	妙高高原メッセ
温泉イベント開催講座	妙高高原で温泉宿、飲食店、お土産店、売店等を営んでいる方	全3回	妙高高原メッセ
温泉商品開発講座	妙高高原で温泉宿、お土産店、売店等を営んでいる方	全4回	妙高高原メッセ

「古民家・空き家再生講座」

目的
古民家、空き家の魅力ある改修アイデアを知り、田舎暮らしや古民家民宿経営の一助とする。

内容:全4回
第1回 魅力ある古民家再生のコツ
第2回 古民家再生を行う際の具体的なポイント解説(実地)
第3回 魅力ある空き家再生のコツ
第4回 空き家再生を行う際の具体的なポイント解説(実地)

講師: NPO法人「伝統木構造の会」様
NPO法人「尾道空き家再生プロジェクト」様

講座後の支援、振り返り
妙高市役所の「空き家情報」と連携し、古民家・空き家状況の発信、集約を行っている。

「温泉経営向上講座」

目的
人気の宿泊宿のトレンドや工夫を知ることにより、妙高高原の温泉宿の集客アップをねらう。

内容:全4回
第1回 旅館、ホテル経営の実情を知ろう
第2回 旅館、ホテル経営の収益向上のポイントを探ろう
第3回 旅館、ホテルの独自性の出し方について探ろう
第4回 古民家民宿と連携した温泉経営を考えよう

講師:「船井総研」様

講座後の支援、振り返り
講座終了後のアンケートを採るとともに、「妙高高原の温泉経営について語る会」を立ち上げる。ある程度回数を重ねたら参加する宿に輪番で会を運営してもらおうとする。

シリーズ1 AIと考える防災

- ・各会場をテレビ会議システムで繋ぎ、防災について共通認識を図る

災害が起こる可能性は...
今、災害が起こったら...

シリーズ2 魚沼の大地を知る

- ・地名から学ぶ自然災害の歴史
- ・魚沼の断層マップ作り
- ・ハザードマップを歩いて確認しよう!

実際に地域に出てみよう!

シリーズ3 新たな視点で考える

- ・地域の外国人と防災を考える
- ・ひとり暮らしと防災ネットワーク
- ・大学生と学ぶ防災・復興街づくり
- ・旧川口町の復旧復興から学ぶ

ミクロ視点
マクロ視点

「温泉イベント開催講座」

目的
温泉地の特色を生かしたイベントの企画の手順を知り、妙高高原の温泉地の特色を生かしたイベントづくりに生かす。

内容:全3回
第1回 温泉を活用したイベント事例から学ぶ
第2回 各店舗が連携したイベント事例から学ぶ
第3回 妙高高原におけるイベント案を計画する

講師:「日本温泉協会」様

講座後の支援、振り返り
イベント実施後のアンケートを採り、イベントの内容の精査を行い、次年度につなげていく。

「温泉商品開発講座」

目的
温泉を生かした商品開発のポイントや手順を知り、妙高高原の温泉の特色あふれる商品作りを生かす。

内容:全4回
第1回 温泉を活用した商品開発のポイントと開発事例から学ぶ
第2回 開発した商品の効果的な流通の仕方
第3回 商品の効果的な広報について
第4回 妙高高原の温泉を生かした商品開発～流通案の計画

講師:「株式会社 智力」様

講座後の支援、振り返り
地元土産店を中心に開発プロジェクトを立ち上げ、商品の開発～販売、マーケティングを行い、「語る会」等で近況を取り上げる。

これであなたも国際人!?

・えいごをはなそう! ①
・Let's speak Japanese! ②

目的
〇積極的な国際交流、異文化理解を促そうとする人材の育成
① 外国人観光客とのコミュニケーション、異文化交流の促進
② 住み込み外国人労働者の語学支援

2 対象
① 外国人観光客への対応が多い、接客業に従事している人(旅館・ホテル、外食業、土産店等)
地域観光ガイドに携わる人
※一般の人でも、小中学生、高校生も可
② 在日1年未満の外国人
日本語がもっと上手になりたい外国人

シリーズ4 自分に置き換える

- ・自分事としての防災
- ・災害と組織を描いた映画から考える
- ・例 太陽の蓋 日本沈没
- ・防災非難キャンプの実施

シリーズ5 防災教育ネットワークフェスタ

- 〇起震車体験 降雨体験
- 〇救急救命 AED体験
- 〇炊き出し体験 非常食試食
- 〇防災用品展示・販売
- 〇消火器体験 消防服試着 消防車等
- 〇展示・試乗
- 〇防災講座 子どもの防災教室
- 〇福祉体験
- 〇国際交流コーナー

広報活動の戦略

講座前 募集方法

年代別層に応じた多彩なチラシ

多様な媒体をバランスよく利用

申し込みのチャンネルを増やす

地域新聞、インターネット、FAX

3 内容 (会場:いずれも妙高高原メッセ 時間:18:30~19:30)

えいごを母語で!	Let's speak Japanese!
あいさつしよう! 声をかけよう! (何かお返りですか?自己紹介など)	あいさつしよう! こえをかけよう! (greeting, self introduction)
道案内しよう! 受付答えをしてみよう!	みちやばいよを きてみよう! (root, place)
意外と伝わらない!? 和装英語	おみせでかいものしよう! (price, how to use)
こんなとき、どう言うの? ①~③ ※がなんでも内容を決めます。	こんなとき、どう言うの? ①~③ ※がなんでも内容を決めます。
日本語講座の人と交流します。	えいごでかこうの人とこうりゆうします。
①学習成果発表 ②交流パーティー	①プレゼンテーション ②パーティー

講師: 〇〇先生 <日本語教師「あいうえおスクール」>
講師: 鈴木 芳江 様 <日本語教師「あいうえおスクール」>

4 終了後支援

「読みたい!」「書きたい!」「もっと学習したい!」
・さらに深める講座の開設
(日本語読み書き講座、上越妙高「方言hogen」講座、「外国人生活ガイドマップ」を配りてみよう! など)
・海外旅行で使える英会話講座 など

最終的には、サークル活動として立ち上げていくのがベスト
〇定住し始めた人が新規外国人労働者等へレクチャー
〇講座を受けた人を中心に、新規従業員やバイトを集めて「おとなし外国語レッスン」を行う など

未来予想図

担い手の育成の可能性

地域資源の再発見
地域交流の活性化

人も未来もつながる
笑顔あふれる妙高高原

後継者不足の解消

広報活動の戦略

講座期間中

講座の様子や成果をネット配信し、地域住民の反応をキャッチし、次の講座に生かす工夫

受講者一人元関工会 Win-Win

地域特産物、防災グッズ

広報活動の戦略

講座後

発信

リーフレット、公民館だより

人材育成

固定座
固定座/心く
固定座
固定座
防災ガイド
〇〇公民館
講座開催する場の提供

成果の情報発信 地域住民の声

広 連携 減災防災学習の展望(ESDの視点から)

コミュニティづくり

リスクマネジメント

地域間連携

持続可能な社会

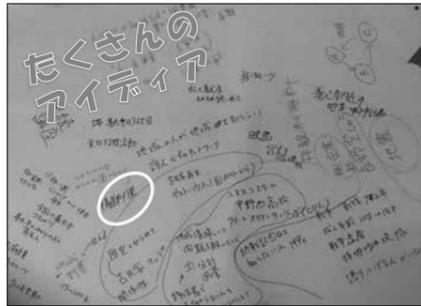
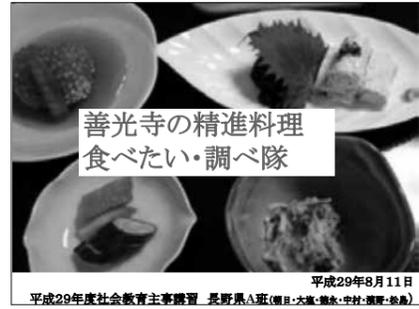
新たな知識と経験

事業内容の発展進化

多様な人材や専門機関

みんながやること
そして、継続することが
大切なんだ ワン!

社会教育課題の実際研究の成果:長野A班



講座立案の背景

- 2013年12月ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」。
- 今まで県都長野市の観光資源として活躍してきた善光寺。宿坊が多く存在し、精進料理が提供されています。
- でも、この地長野市の住民は、精進料理の由来、調理方法などを知っているのでしょうか。

講座の概要

- 小中学生を対象に「精進料理」を題材としたプログラムを展開。
- 善光寺界隈の宿坊を取材し、インタビューを行います。
- 宿坊から講師を招き、調理実習を行います。
- 「精進料理」をテーマに自ら歩き、聞き、考え、話し合い、経験することを通して、先人の努力や、今現在「精進料理」を提供する方、将来の「精進料理」を研究します。

プログラムの流れ

- ①「知る」精進料理って何?
- ②「聞く」宿坊へ取材に行く
- ③「話す」自分達で精進料理を作ろう<前編>
- ④「作る」自分達で精進料理を作ろう<後編>
- ⑤「考える」未来の精進料理を考えよう

プログラム① 知る
精進料理って何?

- 長野市の善光寺の宿坊。善光寺には県下最大39の宿坊がある。
- 宿坊の精進料理とは何か。
- なぜ精進料理(和食)が人気なのか。現代の食生活の利点、欠点(ワークシートの利用)
- 精進料理を食べてみる。感想を出し合う。
- 次のプログラムの質問、内容の検討

プログラム② 聞く
宿坊へ取材に行く!

- 前回活動を振り返って。聞いてみたいと思ったこと。
- 材料は? いくつかから? 工夫していることは? 困っていることは? どんなお客さんが多い? ...etc
- グループごと、宿坊へ取材に行く。
- それぞれ調べてきたことをまとめて、発表する。
- 宿坊、精進料理についての理解を広げる。

プログラム③ 話す
自分達で精進料理を作ろう <前編>

前回は振り返って... 「グループで一品ずつ作ってお膳を完成させる」

- 何を作るかを話し合う
- どうやって作られているのか想像してみる
- 宿坊の料理人さんに調理方法を教えてもらう

プログラム④ 作る
自分達で精進料理を作ろう <後編>

プログラム③の計画に沿って...

- 実際に調理をしてみる
- 料理を食べてみる、箱膳マナーを知る
- 感じたことを伝える

プログラム⑤ 考える
未来の精進料理を考えよう

精進料理を多方面から見つめ、考える

- 他の地方・国にはどんな精進料理があるのか? ...京都・長崎 中国・東南アジア
- 他の宗教にも独自の料理はあるのか? ...イスラム教(ハラール)
- オリジナルの精進料理を考えよう

広報・支援

- ☆広報
 - 市報やHP等既存の広報媒体の利用、紙媒体(チラシ)の全校配布
 - SNSの活用(募集だけでなく途中経過も)
- ☆支援(学びの成果の活用と広がり)
 - 学びの副産物を活かしたマップの作成
 - こどもふぁーむ事業

まとめ

- ☆大切にしたいこと
 - 五感に訴える
 - 多くの人の話を聞く、話をする
 - 自分たちで話し合い、考え、進む
- ☆SDGs等へのアプローチ
 - ③、⑨、⑩。でも他のゴールにも。
 - これって結局?
 - 大人にとってもESD!



社会教育課題の実際研究の成果:長野B班

社会教育演習 I

長野県B班
鎌田 西山 安藤 飯島 服部

善光寺周辺の演習で感じた課題

- 地域のこと(石碑・逸話・周辺文化財など)が知られていない
- 空き家やシャッターの店が多い
- 若者離れ?

でも、実際はどんなの...?

地元の城山公民館を訪ね、館長さんに聞いてみた!

城山地区の課題

- 地域の歴史について、知らない人が多い、知ってほしい、知りたい
- 人口減少(第一地区山間部)→保育園閉園
- 子育て世代の孤立、つながりを作りたい
- 若い世代が公民館とつながっていない
- 地元の学校との連携ができていない
- 広報

テーマ

- 歴史を知ってもらおう
- 若い世代のつながり
- 学校連携

SDGs目標11 住み続けられるまちづくりを

→学生による自主的なまちづくり

学ぶ(一年目)
↓
集う(二年目)
↓
むすぶ(三年目)

学ぶ
大学生が地域に参加するには?

- 必修教科・単位取得
- サークル・部活
- ゼミ(先生)に誘いの声を...

③ゼミ(先生)に声をかけてもらう

「公民館に来ませんか?」
・ぶらぶら散歩→文学・歴史、社会教育系学生

・気象カフェ→環境系学生

・子育て学級→幼児教育系学生

集う
城山デビュー やってTRY

各分野で公民館の講座づくり。

例えば...

- 講座名 「ここで一句」
- 講座名 「さんぽで書」
- 講座名 「歴まちVR」

→活動後は各講座ごとに振り返り、再度チャレンジ

学ぶ
高校生を呼び込む作戦

- 部活に声をかける (文学、英語、JRC、書道、料理、学年の日、生徒会)
- 信州学に取り入れてもらう

<p>学ぶ 高校生を呼び込む作戦</p> <p>「夏休み向けの小中学生向け講座」</p> <ul style="list-style-type: none">・宿題サポート・書道教室・料理教室 	<p>「集う」のまとめ</p> <p>・公民館で住民と学生と活動報告会 →次の展開の創造</p> 	<p>結ぶ</p> <p>城山×学生 Fes</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------

<p>主催:実行委員会立ち上げ 大学生、高校生 ボランティア(小中学生、地域住民)</p> <p>後援:城山公民館 住民自治協議会 教育委員会 信州大学 他メディア等</p>	<p>場所 信大キャンパス、桜枝町通り</p> 	<p>内容</p> <p>例)踊り、仮装、神輿、 出店(歴史グッズ、料理、等) 講座、企画から生まれたもの</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

城山×学生 Fes 終了後

ふりかえり・反省会
毎年開催できるものへ・・・

III
通常総会

平成29年度 信州 ESD コンソーシアム通常総会

日時 平成29年8月27日(日) 13時00分～

場所 信州大学教育学部 図書館2階 大講義室

次第

1. 開会挨拶

信州 ESD コンソーシアム会長

信州大学教育学部長 永松 裕希

2. 議長選出

3. 協議

・役員を選出について

・事業計画及び予算について

・その他

4. 報告

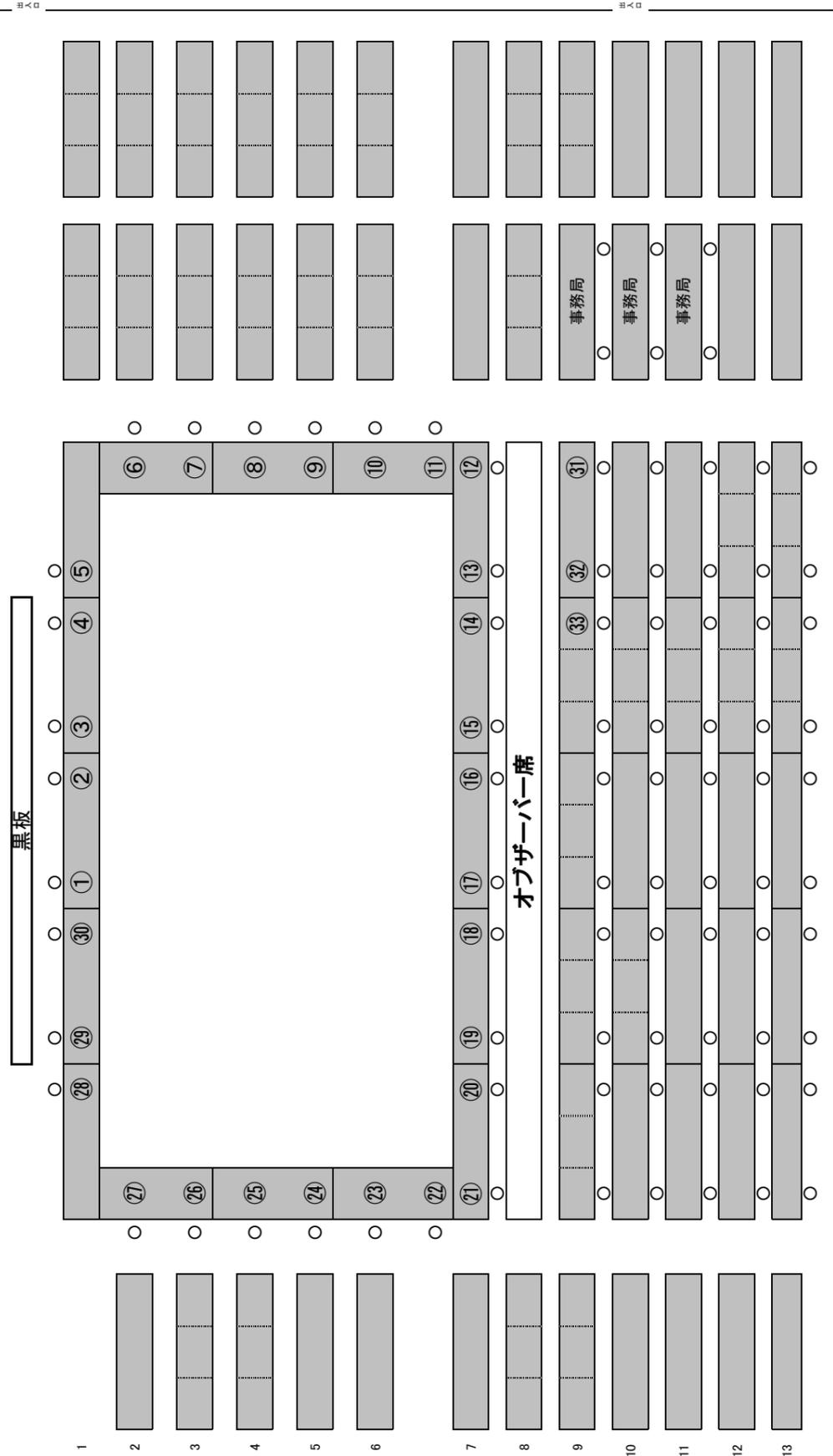
・加盟団体活動紹介

・その他

5. 意見交換

6. 閉会挨拶

信州 ESD コンソーシアム通常総会 座席表 (平成29年8月27日(日) 信州大学教育学部 図書館2階大講義室)



- ① 永松 裕希 会長
- ② 西 安 一夫 理事
- ③ 水谷 仁 理事
- ④ 信州大学 本間 寛子 理事
- ⑤ 信州大学 月岡 正明 理事
- ⑥ 高山村立高山小学校 佐々木 英明 理事
- ⑦ 山ノ内町立山ノ内東小学校 岡田 結美 理事
- ⑧ 山ノ内町立山ノ内西小学校 黒岩 勝徳 理事
- ⑨ 山ノ内町立山ノ内南小学校 黒岩 徳治 理事
- ⑩ 山ノ内町立山ノ内南小学校 黒岩 徳治 理事
- ⑪ 附属長野小学校 三澤 千明 様
- ⑫ 高山村立高山中学校 北澤 佳一 様
- ⑬ 山ノ内町立山ノ内中学校 清水 浩 様
- ⑭ 附属長野中学校 加藤 浩 様
- ⑮ 長野県長野高等学校 中田 雄大 様
- ⑯ 長野県長野高等学校 石川 裕之 様
- ⑰ 文化学園長野高等学校 渡辺 ヒナ子 様
- ⑱ NP法人ひとりの市民 渡辺 ヒナ子 様
- ⑲ (一社)長野県環境保全協会 宮島 和雄 様
- ⑳ 長野県ユネスコ協会 三井 正美 様
- ㉑ (株)ミールケア 榎野 新雄 様
- ㉒ (公財)ユネスコアジア文化センター 進藤由美 様
- ㉓ (公社)日本ESD活動支援センター 川上千春 様
- ㉔ 中部地方ESD活動支援センター 新海 洋子 様
- ㉕ 信州大学 津一 名 教授
- ㉖ 長野県ユネスコ協会 三井 正美 様
- ㉗ (株)ユネスコアジア文化センター 進藤由美 様
- ㉘ (公財)日本ESD活動支援センター 川上千春 様
- ㉙ 中部地方ESD活動支援センター 新海 洋子 様
- ㉚ 信州大学 津一 名 教授
- ㉛ 長野県ユネスコ協会 三井 正美 様
- ㉜ (株)ユネスコアジア文化センター 進藤由美 様
- ㉝ (公社)日本ESD活動支援センター 川上千春 様
- ㉞ 中部地方ESD活動支援センター 新海 洋子 様
- ㉟ 信州大学 津一 名 教授
- ㊱ 長野県ユネスコ協会 三井 正美 様
- ㊲ (株)ユネスコアジア文化センター 進藤由美 様
- ㊳ (公社)日本ESD活動支援センター 川上千春 様
- ㊴ 中部地方ESD活動支援センター 新海 洋子 様
- ㊵ 信州大学 津一 名 教授
- ㊶ 長野県ユネスコ協会 三井 正美 様
- ㊷ (株)ユネスコアジア文化センター 進藤由美 様
- ㊸ (公社)日本ESD活動支援センター 川上千春 様
- ㊹ 中部地方ESD活動支援センター 新海 洋子 様
- ㊺ 信州大学 津一 名 教授
- ㊻ 長野県ユネスコ協会 三井 正美 様
- ㊼ (株)ユネスコアジア文化センター 進藤由美 様
- ㊽ (公社)日本ESD活動支援センター 川上千春 様
- ㊾ 中部地方ESD活動支援センター 新海 洋子 様
- ㊿ 信州大学 津一 名 教授
- ① 大牟田市教育長 安田 昌則 様
- ② 大牟田市立大牟田中央小学校 校長 荒木 秀俊 様
- ③ 長野県教育委員会 中原 功博 様
- ④ 事務局
- ⑤ 事務局
- ⑥ 事務局
- ⑦ 事務局
- ⑧ 事務局
- ⑨ 事務局
- ⑩ 事務局
- ⑪ 事務局
- ⑫ 事務局
- ⑬ 事務局
- ⑭ 事務局
- ⑮ 事務局
- ⑯ 事務局
- ⑰ 事務局
- ⑱ 事務局
- ⑲ 事務局
- ⑳ 事務局
- ㉑ 事務局
- ㉒ 事務局
- ㉓ 事務局
- ㉔ 事務局
- ㉕ 事務局
- ㉖ 事務局
- ㉗ 事務局
- ㉘ 事務局
- ㉙ 事務局
- ㉚ 事務局
- ㉛ 事務局
- ㉜ 事務局
- ㉝ 事務局
- ㉞ 事務局
- ㉟ 事務局
- ㊱ 事務局
- ㊲ 事務局
- ㊳ 事務局
- ㊴ 事務局
- ㊵ 事務局
- ㊶ 事務局
- ㊷ 事務局
- ㊸ 事務局
- ㊹ 事務局
- ㊺ 事務局
- ㊻ 事務局
- ㊼ 事務局
- ㊽ 事務局
- ㊾ 事務局
- ㊿ 事務局



平成29年度 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

信州ESDコンソーシアム 2017年度 第1回ESD研修会

開催日時

平成29年 **8月27日**(日)
10:00~12:00

開催場所

信州大学教育学部
大講義室(東校舎5階)

講演 『ユネスコスクールのまち おおむた』
大牟田市教育長 安田 昌則氏

一般公開 (参加費無料・申し込み不要)

特別な配慮が必要な方は、下記連絡先にあらかじめご連絡ください。



《お問い合わせ先》
信州ESDコンソーシアム

信州大学教育学部 信州ESDコンソーシアム事務局
〒380-8544 長野市西長野6-0
TEL:026-238-4034
E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp
http://esd-nagano.org/

主催: 信州ESDコンソーシアム

後援: 信州大学教育学部/長野県教育委員会/ESD活動支援センター
長野県ユネスコ連絡協議会/一般社団法人 長野県環境保全協会

ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」のことです。ESDは地域や世界の持続可能な未来の構築のために学び、アクションを起こしていく活動です。

基調講演 安田昌則(大牟田市教育長)

信州ESDコンソーシアム 2017年度 第1回ESD研修会
ユネスコスクールのまち おおむた

大牟田市教育委員会
教育長 安田昌則

- はじめに ○自己紹介
- 1 大牟田市の現況
 - 2 本市のユネスコスクール加盟へのきっかけ
 - 3 本市のユネスコスクールの主な取り組み(1)
 - 4 本市のユネスコスクールの主な取り組み(2)
 - 5 校長時代の実践

はじめに
福岡県大牟田市

○福岡県の最南
人口117,037人
(平成29年8月1日現在)

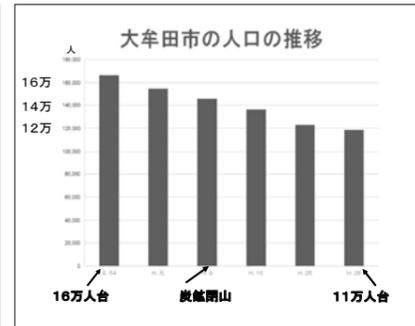
○西は有明海、遠くに豊仙
東は遠くに阿蘇外輪山

○学校数、児童生徒数
小学校20校(約5,500人)
中学校8校(約2,800人)
特別支援学校1校(約100人)

大牟田市

かつては「炭の都」
・三池炭田
・昭和30年代
人口20万人超
・石炭化学
コンビナート

三池炭田発見地(三池カルタ記念館)



明治日本の産業革命遺産
製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業
世界文化遺産決定
(8県11市23資産)
シリアルノミネーション

三池炭鉱関連 世界文化遺産

宮原坑 旧三池炭鉱専用鉄道駅
三池港 旧長崎朝三池炭坑事務所

日本のカルタ発祥の地(三池カルタ記念館)

大牟田夏祭り
日本最古の天正カルタ

大牟田市
「まちづくり総合プラン」
第5次総合計画
(平成28年度~平成31年度)

【目指す都市像】
人が育ち、人でにぎわい、
人を大切にする「ほっとシティ」
おおむた
＜施策＞
はぐくみ、にぎわい、やさしさ、くらし、あんしん

大牟田市
平成29年3月1日
市制100周年

ジャー坊
ギリギリ人間に見える姿
に変化(へんげ)した大蛇
の化身。
炭鉱のまちの人々からもら
ったつるはしとヘルメット
がお気に入り。まちの守り
神なのだと言いつつも、そ
の真相は定かではない。

大牟田市公式キャラクター
「ジャー坊」



大牟田市学校教育振興プラン

【基本理念】「まちづくりは人づくりから」という基本的な考え方に
たて、本市の学校教育は、持続可能な社会づくりを担う子ども
たちの育成を目指します。

【基本方針】
社会を生き抜く力を身に付けた「おおむたっ子」の育成
＜目指す児童生徒の姿＞「おおむたっ子」
おおむたっ子 大きな夢を抱き未来を創る児童生徒
む 一難しいことにもねばり強く取り組む児童生徒
た 一たぐましい心と体を備えた児童生徒

【特色ある教育】
【知・徳・体のバランスのとれた教育】

大牟田市
全国に先駆けた小学校英語活動の取組

・平成12年度から市内全小学校で開始

16年経過

＜平成28年度＞
1・2年 10~15時間(英語活動)
3・4年 30~35時間(英語活動)
5・6年 35時間(外国語活動)

国(文部科学省)
平成12年度から学校の実態に応じて
平成23年度から5・6年生で外国語活動を行う
※国で現在検討
平成32年(2020年)から3・4年生で外国語活動
5・6年生で教科

先取り

国の生徒の英語力に関する目標設定...中学校教育で実施3級程度以上(50%)
大牟田英語教育ステップアップ推進事業
児童生徒の英語を使う実践力の向上

本市の英語教育の成果と生徒の英語力の向上に資する目標を設定し、小・中学校の
学年に応じた新たな事業に取り組み、児童生徒の英語を使う実践力の向上を図ります。

対象学年	英語活動	実施内容	実施内容	実施内容	実施内容
小1	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動
小2	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動
小3	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動
小4	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動
小5	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動
小6	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動	英語活動

○全国に先駆けて取り組んできた本市の小学校英語活動・外国語活動の
成果や、国が進める児童生徒の英語力の向上に資する施策、次期学習指導要領
改訂等を踏まえ本市の児童生徒の英語を使う実践力を向上させる必要があり
ます。

なぜ大牟田市は、ユネスコスクールに加盟することにしたのか

大牟田市のユネスコスクールに加盟するまでの経過と加盟後の実践

平成21年度～平成22年度当時 新学習指導要領の実施に向けて

<教育課程検討委員会>

小学校 校長会代表 教頭会代表 教務主任会代表	中学校・特別支援学校 校長会代表 教頭会代表 教務主任会代表
----------------------------------	-----------------------------------------

内容・時数
評価・通知などの検討
※ユネスコスクール・ESD(持続発展教育)についての研究

教育振興基本計画におけるESDについて

教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)
第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組みべき施策

(1) 基本的考え方
① 「度」の持続一貫した理念に基づき生涯学習社会の実現
また、ユネスコ国際連合教育科学文化機関においては、地球の視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なことから取り組み、**持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(持続可能な開発/ Education for Sustainable Development(ESD))**が提唱されており、2005年9月の2014年までの10年間は、「国連持続可能な開発の10年」と位置付けられている。地球規模での持続可能な社会の構築は、我が国の教育の在り方にとっても重要な機会の一つである。

(2) 基本的方向としての施策
① 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進
一人一人が地球規模の課題と一人一人の自らの課題を捉え、自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる**持続可能な社会の構築に向けて取り組むための教育(ESD)**の重要性について、広く啓発活動を行うとともに、関係者の連携を促進し、このよき教育を育み人財の育成や教育プログラムの作成、普及に努め、特に**ESDを推進する大牟田市の教育委員会がユネスコスクール加盟校の増加を目指し、実現する。**

大牟田市のユネスコスクール加盟校(小学校22校、中学校11校、特別支援学校1)とテーマ

環境の学びを通して	ESDの学びを通して	人間の学びを通して
職業の学びを通して	地域の学びを通して	福祉の学びを通して
国際理解の学びを通して	文化財の学びを通して	

高齢者移住体験
高齢者とのベアショッピング
高齢者施設訪問
認知症SOSネットワーク構築訓練での子ども民生委員活動

車いすバスケット体験
点字教室
盲導犬学習
保育実習

文部科学省

○学習指導要領の改訂(2008年3月公示)
○学習指導要領(2008年3月、2009年3月)

小学校学習指導要領の総則や理科、社会、中学校学習指導要領の理科、公民、地理、高校学習指導要領の地理歴史、公民などに**持続可能な社会の構築の観点**が盛り込まれた

第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)

第1期計画における今後の教育の全体像
取組の基本的方向性
(1) 社会を主体的に担い、多様な変化の激しい社会での個人の自立と自律(今後の学習の方向性)
○持続可能な社会の構築という観点からは、「誰が」「いつ」「どこ」で「何を」やるべきかを明確にする。持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(持続可能な開発のための教育(ESD))の推進が求められており、これは「リーディング・イニシアチブ」の推進にもつながるものである。

第2期計画の方向性として実施すべき教育上の方針
1 取組の基本的方向性に基づく方針
(1) 社会を主体的に担い、多様な変化の激しい社会での個人の自立と自律(今後の学習の方向性)
(2) 持続可能な社会の構築に向けた教育(ESD)の推進
(3) 国際理解教育の推進
(4) 生涯学習の推進
(5) 職業教育の推進
(6) 文化財の学びを通して
(7) 地域の学びを通して
(8) 福祉の学びを通して
(9) 環境の学びを通して
(10) 職業の学びを通して
(11) 国際理解の学びを通して

持続可能な開発のための教育(ESD)について

Sustainable Development(持続可能な開発)とは…「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」

※国連「環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)」報告書「我々の未来(Our Common Future)」(1987年)における定義

持続可能な開発のための教育(ESD)とは…「持続可能な社会の担い手を育てる教育」

持続可能な社会の担い手を育てるため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育。

まちづくりに参画する授業実践例

地域と共に、大牟田の未来につながる中友校区
～子ども民生委員活動～
大牟田市立中友小学校

商店街「十日市」への参加による まちおこし

○「十日市プロジェクト」
まちおこしのために、校区内の商店街で毎月十日に開催される「十日市」に、参加して活動させている。

中友小児童による、和太鼓の発表、世界遺産標頭の販売
まちおこしのために、校区内の商店街に子どもたちの声が響いて、充実ももたっています。」との声がかかれています。

商店街の方から「子どもたちの発表で、商店街に賑わいが戻ってきています。」と、喜びの言葉をもらっています。

まちづくりに参画する授業実践例

○大牟田を住みたいまちにするためには?

自分たちで自分なりに考えて、まちづくりについて発信

まちづくりについて、議員や市職員に発信
・世界遺産
・産業、伝統、文化
・エネルギー環境 など
課題や解決策について

国連持続可能な開発のための教育の10年

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 閣議決議(第57回総会)
 - 2005～2014年の10年
 - ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定

全体目標: 持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと

- 2009年 ESD世界会議(ボン)・ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県名古屋市/岡崎市)

持続可能な社会づくり

・将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく現在の世代のニーズを満たす社会の仕組みづくり

地球規模の問題
学習テーマ

think globally, act locally

大牟田市の現況

○少子高齢化(人口減少・高い高齢化率)

- 環境・エネルギー問題
- ・石炭産業と公害の克服
- ・新たなエネルギー産業(エコサンクセンター)
- 世界遺産を含む文化財の宝庫
- 国際理解教育
- ・友好都市
- ・石炭を通じた諸外国とのつながり
- ネットワーク化された情報環境

持続可能な社会づくり

大牟田市としての主な取組(1)

- ・各学校、校務分掌に「ユネスコスクール担当者」を位置づけ、市全体で「ユネスコスクール担当者会」を開催
- 「ユネスコスクール研修会」(8月)
- 「世界遺産学習研修会」(12月)
- 毎月「ユネスコスクールだより」の発行

- ・各学校、ユネスコスクール全体計画、年間指導計画(ESDカレンダー)の作成・実施・評価

教育課程の工夫・担当者の明確化

<教育課程への位置付け>
○全体計画の作成
○学年毎の年間計画
○ESDカレンダー

<校務分掌の明確化>
○ユネスコスクール担当者(ESD)

特色ある教育活動の推進

ユネスコスクール担当者会

<大牟田市教育委員会>
ユネスコスクール担当者会

校長会(代表) 教頭会(代表)

定例会
情報交換
研修会

小学校担当者
中学校担当者
特別支援学校担当者

各学校での特色ある教育活動

歴史学習(川を調べよう)
環境学習(川を調べよう)
地域の文化財の学習
世界遺産関連の学習

ESDで育む能力・態度

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的・総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度 など

子どもが 自ら学び 共に学び合う
アクティブ・ラーニング

子どもが自ら学び共に学び合う

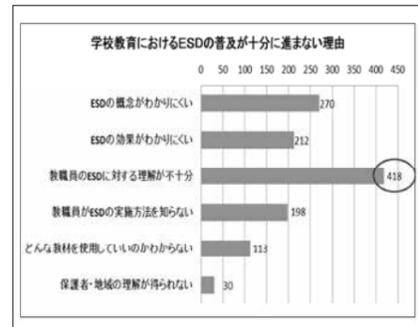
アクティブ・ラーニング

ユネスコスクール ESD

学校の特色
○教育活動の重点化を図る
○各学年等の課題による内容の充実を図る
○多様な活動により主体的な学びを促す

子どもたちの学びの充実
他校との交流
○他校の取組を参考に付加・修正・進化を図る

地域との連携・PR
○地域のひと・もの・この取組を伝える
○地域の学校教育活動への理解と支援の推進を図る



大牟田市のESDについての研修の経過

ESD ふれる(優秀実践→理論)
※奈良市、気仙沼市

ESD する(理論+実践)

ESD やってみる(目標・教材研究)

ESD ふりかえる(評価)

大牟田市が進めるESDについての教職員研修

1 研修の種類
多様な研修の機会を提供(教職員が選択できる)

A研修: ESD・ユネスコスクールに関する理論研修
B研修: 大牟田市内の実践を交流する研修
C研修: 大牟田市内の実践を交流する研修
D研修: 授業実践を通じた研修
E研修: 大牟田外の研修会を活用した研修
F研修: リーダー養成研修
G研修: 日常的な研修

学校教育活動の充実

市教育委員会
新学習指導要領の完全実施

ESDの視点
学校のグランドデザイン(学校の特色)

学校
当時 小学校(22校)・中学校(11校)・特別支援学校(1校)

大牟田市の目指すまちづくりとユネスコスクールの理念が一致

社会の潮流 学習指導要領 教育振興基本計画 本市の現状

ユネスコスクール(ESD)の推進

市教育委員会

小学校校長会、中学校・特別支援学校校長会
小学校教頭会、中学校・特別支援学校教頭会

協議

校長会、教頭会の中で検討され、教育委員会と協議し、ユネスコスクールの加盟申請は、全学校行うことに決定!

ユネスコスクールの申請

パリのユネスコ本部にて審査承認

大牟田市の全小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟(H24年、3月)

※市内の全公立の学校がユネスコスクールに一緒に加盟したことは、当時は世界でもめずらしい

ユネスコスクールのまち おおむた

大牟田市が進めるESDについての教職員研修

2 研修体制

大牟田市ユネスコスクール担当者会を組織し、市内及び各学校における研修等を組織的に推進する。

- ①校長会にユネスコスクール担当を位置づける。
- ②教頭会にユネスコスクール担当を位置づける。
- ③各学校の校務分掌にユネスコスクール担当を位置づける。

【大牟田市ユネスコスクール担当者会】

校長会(担当者) 教頭会(担当者) 各学校(担当者) 定例会

大牟田市が進めるESDについての教職員研修

3 研修の実績(年間の流れ)

<4月>担当教職員と希望教職員の参加
①ユネスコスクール担当者会(A研修)
○各学校のESDの実践報告、協議
○講師による理論研修

<10月>各学校より希望する教職員の参加
④研究指定校による大牟田市内研修会(A、D研修)
○講師招聘による授業公開と理論研修

<11月>市内の代表教職員による参加
⑤世界遺産学習全国サミットへの参加(E、F研修)
○各学校へ情報提供

大牟田市が進めるESDについての教職員研修

3 研修の実績(年間の流れ)

<8月>担当教職員と希望教職員の参加
③ユネスコスクール研修会(A、B、C研修)
○各学校のESDの実践報告、協議
○講師による理論研修

<10月>各学校より希望する教職員の参加
④研究指定校による大牟田市内研修会(A、D研修)
○講師招聘による授業公開と理論研修

<11月>市内の代表教職員による参加
⑤世界遺産学習全国サミットへの参加(E、F研修)
○各学校へ情報提供

ユネスコスクール・ESD研修会
 <平成28年8月24日(水)に開催>
 全国から約230名の参加者
 午前:講演 文部科学省
 午後:キャリアステージに応じたESD講座

① ESD入門と授業づくり
 ② ESD推進のためのカリキュラム・マネジメント
 ③ ESDの視点に立った学校経営

<平成29年度 8月23日(水)に開催>
 全国から約250名の参加
 午前:講演 SDGsについて 関連広報官
 午後:分科会 世界遺産・海洋教育・地域・関係機関

大牟田市が進めるESDについての教職員研修
3 研修の実際(年間の流れ)
 <11月>市内の代表教職員による参加
 ◎ユネスコスクール全国大会への参加(E、F研修)
 ◎各学校へ情報提供

<12月>担当教職員と希望する教職員の参加
 ◎世界遺産学習研修会(A、B、C研修)
 ◎講師招聘による授業公開と理論研修

<1月>
 ◎ユネスコスクール子どもサミット(B、C研修)
 ◎各学校の実践交流

世界遺産学習・ESD研修会

石炭産業科学館との連携事業
 平成28年12月27日(火)
 全国から約130名の参加者

◎石炭産業科学館見学
 ◎「明治日本の産業革命遺産」関連都市の参加(釜石・伊豆の國・萩・中間・鹿児島・佐賀・寛尾・大牟田)
 ◎実践発表・協議(萩市立椿東小、大牟田市立駿馬北小)
 ◎講演(チュラロンコン大学 准教授 アタポン先生)
 ◎総括(福岡教育大学 教授 石丸智史先生)

「大牟田市ユネスコスクールの日」制定記念式典

児童生徒による制定宣言
 教育功労者表彰

子ども大牟田検定

子ども大牟田検定
 ◎石炭関連施設
 ◎施設
 ◎遺跡
 ◎自然
 ◎生き物
 ◎伝統
 ◎食べ物
 ◎人物

50点
 写真と文で、分かりやすく説明

歴史文化遺産学習(世界遺産学習)の推進
 ※子どもが主体的に学ぶための「子ども大牟田検定」

目的
 「大牟田の宝もの」を学習し、検定問題へチャレンジすることを通して、素晴らしい自然環境や歴史文化遺産等が残された「ふるさと大牟田」に誇りを持ち、守り育てようとする、郷土愛に満ちた子どもをめざす。

関係団体や「ひととの連携」

ESDIに関するユネスコ世界会議

1. 参加国・関係者数等
 ① 参加国: 11月10日(月)~12日(水)
 ② 正式参加者: 150か国・地域 1,000名以上
 ③ 関係者: 76名(大牟田: 52名、その他: 24名)
 ④ 開催イベント: 約900名
 ⑤ 同山(11月4日(火)~8日(土))
 ⑥ ステークホルダー会合参加者: 約1,800名(Studentフォーラム、教員フォーラム、ユネスコスクール全国大会、ユネスコフォーラム等)

2. 世界会議における成果
 1) 採択された各種宣言
 ① 「あいち・なごや宣言」
 ② 「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」
 ③ 「ユース・ステートメント」
 ④ 「ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム共同宣言」
 2) 関連ESDの10年の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」開始の正式発表
 ◎「ユネスコ/日本ESD賞」創設の正式発表
 ◎GAPの正式発表を踏まえ、ESDへの教育の参加の発展、ESDへの他種メディアの参加の開始などGAPの正式発表の機会の一、一つ以上の分野で前進している個人又は団体を表彰する。(発表と表彰状あり、表彰状を参照)

ユネスコスクール世界大会「第6回ユネスコスクール全国大会」

【結果】
 ◎海外32国からの参加者も得て、日本のユネスコスクール関係者約1,000名が参加し、全体会においては、ESD大賞の授賞式と受賞状による授賞、国内外の交流実践発表会を行った。分科会においては実践事例の発表、プレゼンテーションやテーマ別交流研修会を行った。

【成果】
 ◎日本のユネスコスクールとして、今後、地域の人々等との連携、国内外のユネスコスクールとの交流、ユネスコスクールの会報ネットワークをつくること等を宣言するとともに、学校による更なるESDの推進に向け、ユネスコスクールからの提言をまとめた「ユネスコスクール岡山宣言」を採択した。
 ◎日本のユネスコスクールに採択されたESD活動の事例を収集・整理した優良活動事例集(日本語版・英語版)を配布した。

大牟田市が進めるESDについての教職員研修
3 研修の実際(年間の流れ)
 <2月>担当教職員と希望する教職員の参加
 ◎研究所員による研究報告会(A、D研修)
 ◎授業研究を通じた研究報告
 ◎市内の各学校へ情報提供

<3月>
 ◎指導主事派遣の校内研修会(A、D、F、G研修)
 ◎講師招聘による授業公開と理論研修

◎ユネスコスクール優り(A、B、G研修)
 ◎ESDやユネスコスクールの情報(情報共有)
 ◎各学校の実践交流

大牟田検定の問題① 全15問

第9回「子ども大牟田検定」(基礎編)

「子ども大牟田検定」を通じた子どもの姿から

・大牟田の宝ものを見たい
 ・夏休みの自由研究に
 ・家族で石炭関連施設、建物、公園、遺跡等を見て回る。
 ・興味が出てきた。
 ・友だちからも賞賛
 ・子ども大牟田検定で「博士」
 ・新しい大牟田を考えたい

鏡水小学校6年 勝部 光星さん

社会教育施設、青少年教育施設、地元企業・団体等との連携

・石炭産業科学館や地元施設を活かした研修会等の実施
 ・地元企業・団体等と連携したESD等

ユネスコスクール優り

「未来志向の子どもをほくくむー大牟田の100年を築き上げて」
 大牟田市立立峰小学校の実践
 「ついに!」歴史文化遺産学習を通して

ユネスコスクールの活性化、ESD充実のための支援
「ESD実践の手引き」パンフレット
 の作成、配布(各学校、全教職員等への配布)

①ユネスコスクール担当者会
 ②研究指定校による拡大校内研修会
 ③ユネスコスクール研修会
 ④世界遺産学習全国サミットへの参加
 ⑤ユネスコスクール全国大会への参加
 ⑥世界遺産学習研修会
 ⑦ユネスコスクール子どもサミット
 ⑧研究所員による研究報告会
 ⑨指導主事派遣の校内研修会
 ⑩ユネスコスクール優り

市・地域・企業等全体で子どもを育てる

市役所環境部、地元企業と連携した出前授業の実施

環境部による出前授業
 「三井化学」や「大牟田ガス」による親子サイエンス講座

大牟田市教育委員会 ESDコンソーシアム

交流促進
 福岡教育大学
 大牟田市教育委員会
 福岡県教育委員会
 ESDの普及・促進・連携
 大牟田市教育委員会
 ESDコーディネーター
 コンソーシアム実行委員会
 大牟田市小学校長会
 大牟田市ユネスコスクール推進委員会
 学校間交流の支援
 ESD活動の支援

大牟田市ユネスコスクール支援センター(全国で初めての設置)

◎ユネスコスクール支援センター事務局員の配置
 ◎ESD関連の資料、書籍等の収集と提供
 ◎国内外の学校との交流

大牟田市としての主な取組(2)

・市全体での実践交流の場
 1月に「ユネスコスクール子どもサミット」
 28年度は、市制100周年記念事業の一環「ユネスコスクールの日」制定記念

・子ども大牟田検定の実施(毎年9月・1月)
 「子ども大牟田検定ガイドブック」から基礎編 15問出題「博士」(名人「新人」)
 上級編 10問出題「ブロンズ」「シルバー」「ゴールド」
 ※高等学校や市民にも協がり

ユネスコスクール子どもサミット

市教育委員会の主催
 保護者・市民
 学校 児童生徒 発表 学校 児童生徒 教職員

平成27年度 ユネスコスクール子どもサミット
 <H28.1.16 数:大牟田文化会館>
 市内の小・中学校の児童生徒が大牟田市の世界遺産学習や福祉などについて発表

<市外の学校の発表>
 大正小学校と長崎市立大浦小学校が世界文化遺産を通しての交流について発表

保護者や市民も参観

ユネスコスクール支援センターの活用と充実

ユネスコスクール支援センター事務局員
 ◎ ESD関連の資料、書籍等提供
 ◎ 学校間交流への支援

相観
 支援
 学校

国内外のユネスコスクールとの交流

◎宮城県気仙沼市 ◎広島県福山市
 ◎岡山県岡山市 ◎島根県大田市
 ◎北海道留寿都村 ◎長崎県長崎市
 ◎宮崎県綾町 など
 ◎トルコ ◎カナダ ◎フランス
 ◎シンガポール など

大正小学校と長崎市立大浦小学校との交流
「世界遺産」を通して(NHKによる、テレビ取材・放映)

修学旅行での直接交流、学習の夜視場による間接交流

東北へ届ける歌のメッセージ「わせねでや」
 ※わせねでや-忘れないうち

玉川小学校と宅峰中学校の合同による合唱
 白光中学校の「白光クッキー」の収益金を義援金として東北の学校へ寄贈

成果発表会「ユネスコスクール子どもサミット」
 市内小中学校3校と、熊本県宇城市立小川小学校(ユネスコスクール)によるESD成果発表

大牟田市「ユネスコスクールの日」の制定
 平成24年1月17日
 市内市立学校が全てユネスコスクールに加盟

◎毎年1月17日「ユネスコスクールの日」
 ◎ユネスコスクール週間
 ・各学校で記念イベントや啓発活動

市広報紙での市民への紹介

市をあげてESDを推進

【大牟田市役所】
 大牟田市ESD推進本部の設置
 市長→本部長
 教育長→副本部長
 各部の部長→推進委員
 ※各部でESDの視点で事業を推進

持続可能なまちづくり

大牟田市ユネスコスクール支援センター

各団体 地域人材
 連携
 大牟田市内の各学校のESD充実
 大牟田市ユネスコスクールコンソーシアム
 日本や世界に発信
 日本国内のユネスコスクール
 世界のユネスコスクール

校長としての実践 【校内研修の内容と方法】

ESDについての理論

- ESDとは
- ESDで目指すこと

目指す子どもの姿の焦点化

- 目指す子ども像
- 重点テーマ設定

年間指導計画作成

- ESDカレンダー
- ストーリーマップ

実践と振り返り

- 授業研究会、研究協議
- 実践の共有化

〇講師招聘による研修
〇理論研究

〇全体研修による協議

〇学年研修による協議
〇先進校の実践例

〇全校、近接授業研
〇講師招聘による研修

〇研究だより

吉野小学校

「ひと・もの・こと」との出会い

地域のボランティアやGTの活用

- 大牟田市生涯学習まちづくり推進本部
- 生涯学習ボランティア登録推進事業
- 吉野地区公民館
- 吉野街づくり委員会
- 吉野校区公民館連絡協議会・社会福祉協議会
- 青少年育成協力会

※知識や技術の専門家 ※一緒に活動し評価 ※参加者 子どもたちが自分たちなりに考え行動するための支援へ

「いきいきピオーブ大作戦」 「日本のよさを紹介しよう」
「桜プロジェクト」 「住みよい吉野まちづくり」
「春の手作りおかしを調べたい」 (民生委員と高齢者へ)

吉野小でESDを推進する3つの観点

- 地域の風土や歴史を知識として学ぶだけでなく、そこで育まれてきた郷土を愛し大切に思う心を受け継ぐための学び
- 地域の人々の生産や経済活動を含め、自分を取り巻く環境がもたらす恩恵を胸に刻み、その感謝の思いを日々の行動に還元することを促す学び
- これから生まれてくる世代のために何を守り、どんな社会を築けばよいのか、地域の課題として共に考え、自身の生き方の柱に据えていくための学び

海外の学校との交流1 (トルコ)

吉野小学校 ↔ トルコの学校

海外の学校との交流2 (シンガポール、カナダ)

シンガポール ↔ 吉野小学校

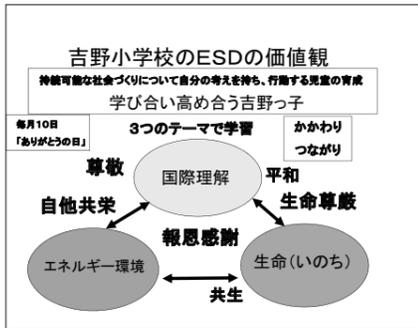
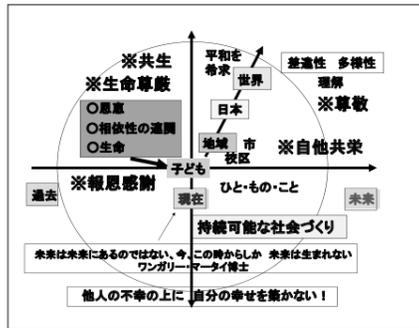
吉野小学校 ↔ カナダ

【校内研修(授業協議会)】

成果と課題の共有化

KJ法による授業協議会

- 授業者からの自評
- 質疑
- グループ協議
- 全体発表
- 成果と課題の明確化



吉野小学校のESDの価値観

持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成

学び合い高め合う吉野っ子

育みたい力や態度

- 〇ひと・ものを尊重し、他者と協力する態度
- 〇互いの意見を大切にしたコミュニケーション力
- 〇持続可能な社会の一員として責任を持った行動力

生命尊厳 自己共栄 報恩感謝 尊敬

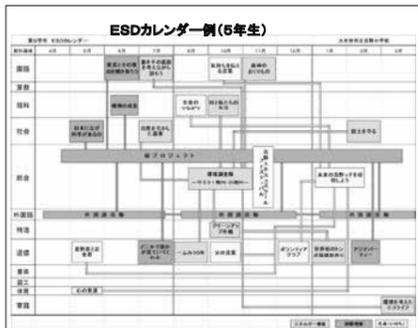
成果と課題の共有化

研修部発行の「研究便り」

桜だよ

桜だよ

ご清聴ありがとうございました



授業実践例1(課題設定)

GTから、吉野の桜についての話を聞く

プロジェクトについて地域の方々と意見を交換する

【授業の意味についての話】

【地域の方々と意見交換会】

授業実践例2(調査・整理分析)

校区内の桜調査活動

どこに、何本あるか調べて「桜マップ」の作成

桜を守り、育てるためにできることの整理分析活動

授業実践例3(発信・行動)

地域の祭りでの発信

ユネスコスクールフェスティバルでの発信

校内へ桜の植樹

授業実践例4(地域へのひろがり)

学校の活動—地域が支援

※校区にも桜を植えたい(美しいまちへ)

市の都市計画・公園課へ依頼

校区の公園に桜の植樹

美しく つながりのある 吉野のまちづくり

吉野小桜プロジェクト 桜で満開の美しい町に!

絆プロジェクト (吉野の地域)

【連携】

国内の学校との交流

吉野小学校から 鹿折小学校へ 桜の苗木の寄贈

宮城県気仙沼市立 鹿折小学校での 桜の植樹

信州ESDコンソーシアム概要説明



信州ESDコンソーシアム概要説明

—信州の自然に抱かれたESD活動の取組—

信州大学 教育学部
ESDコーディネータ 西 一夫
kyo-esd@shinshu-u.ac.jp

信州ESDコンソーシアムの紹介

1. 事業の目的
2. 組織体制
3. 昨年度の活動から
4. 構成団体の活動紹介
5. 本年度の活動から

1：事業の目的

信州ESDコンソーシアムが目指すもの

- 1.ユネスコスクール等の教育組織でのESD推進
- 2.ESDに関わる人たちの交流の場を創出
- 3.企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会を創出
- 4.コンソーシアムや関係組織の成果の発信
- 5.ESD関連情報を共有する場を提供

2：組織体制

【中心組織】運営委員会
(運営方針, 活動内容, 予算策定等)

【運営組織：4部門】

- ①コンソーシアム形成・運営
(コンソーシアムの企画運営)
- ②学校支援 (学校等でのESD研修支援)
- ③学校間交流推進
(ユネスコスクール間の交流推進)
- ④次世代育成 (次世代育成, 教員研修等)

3：昨年度の活動

※設立準備研修会 (11月, 信大) ※学校での教員研修会 (8月, 附属松本中)

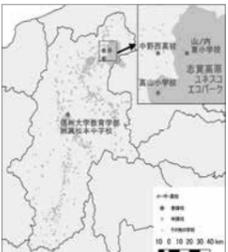
※自治体等での研修会 (8月, 山ノ内町)

【コンソーシアム形成に向けた活動】

- 地域コンソーシアムの情報収集
- 「東北コンソーシアム」(宮城教育大学) 視察
- 「北陸コンソーシアム」(金沢大学) ヒアリング
- 「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」(三重大学) 意見交換
- 地域への働きかけ
- 山ノ内町, 木島平村, 高山村 教育委員会 (学校運営協議会), 市内学校等

4：ユネスコエコパークとの関連

志賀高原のユネスコエコパークを地元のユネスコスクールと信州大附属学校園とが中心になってESDに活用



4-2：エコパークでの取り組み



- すべてのユネスコスクールが地域の自然環境を活かした野外学習を実施
- 多様なステークホルダーによる学習支援

5：ユネスコスクールの広がり

- 県内のユネスコスクール (2017/5現在)
- 【小学校・5校】山ノ内町立東小学校, 高山村立高山小学校, 山ノ内町立西小学校, 山ノ内町立南小学校, 茅野市立永明小学校
- 【中学校・3校】信州大学教育学部附属松本中学校, 山ノ内町立山ノ内中学校, 高山村立高山中学校
- 【一貫校等・1校】文化学園長野中学・高等学校
- 【高等学校・2校】長野県中野西高等学校, 長野県長野西高等学校

6：企業・NPO等の活動



(株)ミールケア
通年の食育体験活動

直富商事(株)
小学校の社会科見学

7：ユースの取組

長野ユネスコ協会青年部つながるの活動

1. 信州大学の学生を中心に発足
2014年4月に信州大学ユネスコ部としてスタート
2. 平和や文化に関するスタディツアー
2014年：岡山・広島, 2015年：長崎, 2016年：沖縄
3. 異文化理解をテーマとしたフォーラム企画
「世界一周した高校生×信大生！」(2016年11月12日開催)
「タビトーク1vol.1」(2017年6月18日開催)
4. ESDをテーマにしたキャンパや国際協力フェスタへの参加
(公社) 日本ユネスコ協会連盟主催のユネスコ子どもキャンパへの参加
グローバルフェスタ JAPANへの参加

8：本年度の主な事業計画

- 社会教育主事講習でのESD活用
- 研修会 (学校, 自治体等) の実施
- 学校支援 (ESD活動の普及)
- NPO, 企業との連携促進
- 学校間交流の促進
- ユネスコエコパークを活用した活動
- 普及啓発活動 (ブース展示など)
- 成果発表 & 交流会の開催 (2018/2/3)

9：予告 本年度成果発表 & 交流会開催

2年目の活動報告会を開催
日時：2018年2月3日 (土)
会場：信州大学教育学部

【目的】

1. ESD活動を推進する学校の活動を共有し, 学校間・企業・NPO等の交流の機会を創出します。
2. ESD活動を多くの方 (児童生徒, 教員, 保護者, 企業, NPO等) に普及啓発する場とします。

※開催情報などはHPでも随時更新します。

ご清聴ありがとうございました

IV

成果発表 & 交流会



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

平成29年度
グローバル人材の育成に向けた
ESDの推進事業

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会

日時: **2月3日(土)**
10:00~15:30

会場: 信州大学教育学部
大講義室(図書館2階)

参加費 無料

事前申込み不要・当日参加可

10:00~10:05 開会挨拶

10:05~12:00 ● 成果発表(前半)

12:00~13:00 ● 交流会

13:00~14:55 ● 成果発表(後半)

14:55~15:15 講評

15:15~15:30 閉会挨拶

主催: 信州ESDコンソーシアム

後援: 信州大学教育学部 長野県教育委員会
ESD活動支援センター 中部地方ESD活動支援センター
長野県ユネスコ連絡協議会 一般社団法人 長野県環境保全協会

お問い合わせ 信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局(担当:白岩・大山)
〒380-8544 長野市西長野6-0

TEL: 026-238-4034
E-mail: kyoesd@shinshu-u.ac.jp
特別な配慮が必要な方は、上記連絡先にあらかじめご連絡ください。

信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会

開催日時	平成30年2月3日(土) 10:00~15:30
会場	信州大学教育学部 図書館2階 大講義室
参加者	小中, 高等学校の児童生徒, 教員, 保護者, コンソーシアム関係者 224名

当日の様子





信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会

場 所 信州大学教育学部 図書館2階 大講義室

次 第

1. 開会挨拶 10:00~10:05

2. 成果発表(前半) 10:05~11:45

(1) 山ノ内町立西小学校

(2) 高山村立高山中学校

(3) 山ノ内町立山ノ内中学校

(4) 信州大学附属松本中学校

(5) 長野県長野西高等学校

3. 講評(前半) 11:45~11:55

4. 交流会・休憩 11:55~13:00

ポスターブース (9団体)

ESD 活動支援センター、NPO 法人みどりの市民、国際ユース会議、信州ESDコンソーシアム、信州大学教育学部環境学生委員会、中部地方 ESD 活動支援センター、(一社)長野県環境保全協会、長野県長野西高等学校、長野県ユネスコ連絡協議会

5. 成果発表(後半) 13:00~14:40

(6) 山ノ内町立東小学校

(7) 山ノ内町立南小学校

(8) 高山村立高山小学校

(9) 長野県中野西高等学校

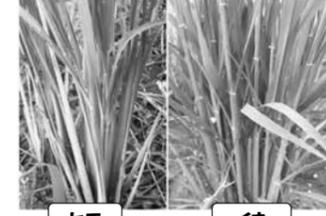
(10) 文化学園長野中学・高等学校

6. 講評(後半) 14:40~14:55

7. 閉会挨拶 14:55~15:00

山ノ内町立西小学校

西小5年生 私たちの米づくり





高山村立高山中学校

ESDの取り組み

高山村立高山中学校

荒川和馬 小林龍 永田竜聖 松本昌大 宮崎康平

中学生議会

- ・村へ政策として提案、質問をする。
- ・実現した政策はたくさんある。

1年生の活動 「故郷 高山村～高山村を知る～」

- 「桜」を軸に学習。
- ・黒部地区の桜
- ・高田公園の訪問
- ・山田牧場の維持管理体験

京都の桜 「円山公園のしだれ桜」

- ・京都市役所の方の講演会
- ・円山公園の見学

高山村の未来と私 「ワインぶどう栽培から学ぶ」

- 信州たかやまワイナリーの見学
- ・農作業体験
- ・ワインぶどう農家の方との出会い

高山中学校の総合的な学習

全校テーマ「故郷 高山村と私」

- ↓ 各学年でテーマを設定
- ↓ 高山村の学習
- ↓ 他地域での学習
- ↓ 中学生議会

今年度の他学年の活動

- <1年生>
 - ・学有林へ
 - ・ワインぶどう産業
- <2年生>
 - ・岐阜県高山市見学

2年生の活動 活動の広がり「桜並木の保全活動」

桜並木の保全活動 → 下草刈り

桜のことを考えて・・・ 「桜並木の保全活動②」

未来へ向けて・・・

山ノ内町立山ノ内中学校

山ノ内中1学年 総合的な学習の時間

『地域自慢』

～自分達が住む山ノ内町の良さ(自慢できること)を多くの人に発信しよう～

「地域自慢」学習テーマ

- ・自然、温泉の自慢
- ・施設、建物の自慢
- ・特産物、お土産の自慢

自慢その1

泉質が違う温泉がたくさんある

湯田中温泉郷 志賀高原 北志賀温泉

- 塩化物・硫酸塩温泉
- 単純温泉
- 単純硫黄温泉

自慢その2

歴史が古い

湯田中温泉

開湯は7世紀。小林一茶ゆかりの温泉。
小林一茶の真筆句碑、梅翁寺、平和観音、雨舎の松などをめぐる「一茶の散歩道」が有名。



渋温泉と大湯
奈良時代の僧行基が開湯したといわれる。武田信玄の隠れ湯、古くからの湯治場として歴史がある。
外湯を巡る「九湯巡り」が有名。レトロな雰囲気人気がある。

上林温泉
多くの文人画人たちが愛した温泉。「志賀山文庫」がその名残。「志賀高原」の名前の由来がある。

角間温泉
開湯は500年ほど前。古くからの湯治場としての雰囲気を残す。



元湯箱山温泉

地元の人々が愛する入浴施設。ちょっと穴場的スポット



お客さんにインタビューしてみた



新湯田中温泉

花街を起源として戦後に作られた比較的に新しい温泉。「亀の湯」「鶴の湯」という2つの共同浴場が地域の人に愛されている。季節によっては朝市が開かれる。





山菜 ここがすごい！！
たくさん山菜が採れる！ 料理方法がたくさんある！

- うど
- ふき
- みつば
- たけのこ
- ふきのとう
- たらのめ
- わらび
- ごごみ
- こしあぶら
- 天ぷら、みそ煮、みそ汁
- きゅうり炒め
- 花のみそ炒め、てんぷら
- 新巻のごま和え、てんぷら
- すまし汁にそえる
- ゆで
- ゆでてマヨネーズ

自慢その3

お勧めスポットがたくさんある

金具屋

昭和初期に作られた全国でも珍しい木造4階建て。国の文化財に指定。「千と千尋の神隠し」のモデルと言われている。

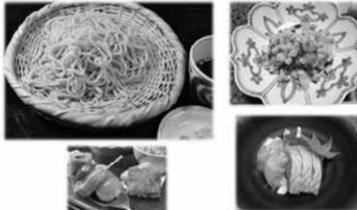


天川荘

食事にこだわりのある旅館

- ・汁、だしに気を使っている
- ・手打ち蕎麦が一番の売り
- ・基本的には高級なモノは使わない
- ・調理法を工夫している





かえで通り

湯田中温泉のメインストリート

かえで通り

CHAMISE

カフェ。山ノ内のりんごやブルーベリーなど地元の食材で作っている。2016年5月に店内をリノベーションしてきたお店。昔のりんごの木箱を使った壁面がある。



かえで通り

HAKKO

昔は精肉店だった所をリノベーションしてきたお店。昔の廃材を使って壁が飾られている。味噌や酒などの8つの発酵食品を使った料理がこのお店の特徴。



かえで通り

AIBIYA

オーナーは、海外のホステルで約3年間働いていた。共有空間が多く、他のお客さんと交流できる。また、家にいるような感じでくつろいでもらえるようにつくった。部屋にはベッドだけ。布団は外国の方に合わないので、低いベッドが用意されている。



かえで通り

ZEN

AIBIYAと同じホステル。入り口には甲冑(かっちゅう)と刀が出迎えてくれる。本棚を横に動かすと、奥にはトイレがあるところがある。



かえで通り

よろずや



かえで通り

加命の湯

和紙を使った照明を所々につけるなど落ち着いた雰囲気。入ってすぐに庭があり、とても和を感じられる。こじんまりした宿なので、のんびりくつろげる。



竜王スキーパーク 冬

アドベンチャーパーク
木落としコースの天然パウダー



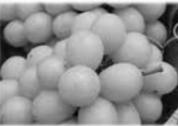
竜王マウンテンパーク 夏

人気急上昇のSORAterrace
大雲海のロケーション



ぶどう 自慢 その1

山ノ内の気候はおいしいぶどうを作ってくれる！！



ぶどう 自慢 その2

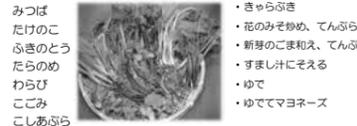
山ノ内はぶどう種類が多い

巨峰
シャインマスカット
ナガノパープル
ピオーネ
サニールージュ
おうかん



山菜 ここがすごい！！

たくさん山菜が採れる！ 料理方法がたくさんある！



プラム ここがすごい！！

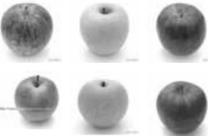
- ・プラムが緑のうちに収穫！
- ・かごの中にクッションのためのスポンジを入れて傷がつかないように工夫！
- ・おいしく食べられる状態でお客さんのもとへ！



りんご 自慢その1

作られている種類が多い

つがる
シナノゴールド
シナノスイート
ドルチェ
名月
王琳
ふじ



自慢その2 青森のりんごとは違う

- ・青森のりんご
蜜がつく前に冷蔵する
↓
完熟していない
- ・山ノ内のりんご
完熟したりんご
↓
年内に販売している



マミーズって知っていますか？

山ノ内の美味しいりんごを使った
アップルパイのお店



マミーズのここがスゴイ！！

自慢その1

すべて
手作り！！



マミーズのここがスゴイ！！

自慢その2

リンゴは
山ノ内産が中心



マミーズのここがスゴイ！！

自慢 その3

実は・・・

○長野店
○東京店がある！！



竜王荘

- ・最初は民宿 → **そば屋**も始めた。
- ・そば屋は今年で**18年目**。
- ・竜王荘の歴史は**40年以上！！**

【ボリューム】

- ・1人前150g ふつう
- ・2人前250g 多め



『湯田中渋温泉郷』



『湯田中渋温泉郷』



『かえで通り』

現在の街並みをいかして、外国人や若者に受け入れやすいリノベーション施設が増えている。「WAKUWAKUやまのうち」がリードしている

竜王荘のここがスゴイ！！

自分の家で作ったおそばというこだわり。

・そば粉も自分の家で製粉したものを使っている。

・須賀川の**オヤマボクチ**を使っている。

オヤマボクチとは

- ・ヤマゴボウとも呼ばれる山菜。そばのつなぎとして使われる。



大井養魚場(北志賀フィッシングパーク)

自慢その1

釣り堀 ←北志賀の渓流をそのまま引き込んでいる！

バーベキュー場 ←釣りがての魚を味わえる！

食堂 ←釣りをしない人でもイワナやニジマス料理 名物須賀川そばを味わうことができる！



大井養魚場のここがスゴイ！！

自慢 その2

- ・魚は全部で**3種類**
- ・小さいものは**500g** 大きいものと**3kg**

お客さんに提供するものは**全部食べてチェック**している。

- ・初心者でも釣りを楽しめる工夫がある。
- ・GWは**1日300人**をこえる。
- ・釣りがてを塩焼きや唐揚げで食べられる。




『地獄谷野猿公苑』

Snow Monkeyの愛称で親しまれている国際的に有名な観光施設



『志賀高原』

オリンピックが開催された日本屈指のスキー場

ユネスコエコパークに指定されたこれから大切にしていこう場所



1学年 総合的な学習の時間

『地域自慢の旅』

～友達が紹介した「地域自慢」を巡る～

北部地区の自慢

山ノ内町の自然や風土を生かした施設

須賀川のそば

- ・北志賀の比較的冷涼な土地がそば栽培に適している。
- ・「おやまぼくち」をいれて蕎麦のコシを出している。
- ・冷たい水で冷めているのでとてもおいしい。



『竜王荘』

地域で栽培した蕎麦、野菜等、地産地消をめざしたお蕎麦屋



『志賀高原』



私たちの住む山ノ内町には、たくさんの魅力的な場所があることがわかりました。これを多くの人に知ってもらおうと同じくらいに、私たちがこれらを守り、受け継いでいくことが必要だと感じました。これからさらに学習を進めていきたいと思ひます。

古さと新しさ、日本と世界がまじりあう山ノ内町がある

『竜王荘』

つなぎに「オヤマボクチ」をいれた十割蕎麦



『竜王荘』

古民家を改築した民宿でもある



『竜王マウンテンパーク』『ノラテラス』

自然の壮大さを手軽に味わえる

大自然の景観が大きな感動をよぶ

『大井養魚場』

豊かな水資源を利用したレジャー施設

雪解けのきれいな水を使い溪流魚を養殖している

恵まれた自然環境を利用した、美しく、おいしく、感動するものがある

西部地区の自慢

土地の特徴を生かした農産物

高社山

- ・古くから信仰の対象、地域に大切にされている
- ・よませ温泉スキー場 学生スキーが盛ん



高社山の山麓の地形を利用して果樹栽培が行われている

- ・日当たりが良く、水はけがよい扇状地。
- ・平地に比べて標高が高いため、寒暖の差が激しく、そのおかげで糖度が増す。
- ・平地の商品より時期をずらして出荷できる。
- ・地元よりも関西、中京方面に出荷される。
- ・都会では高級品。

土地の特徴を利用した農産物、特産品がある



南部地区の自慢の旅

地域の人に愛される施設

- ・佐野古墳群 古くから人々が居住している
- ・佐野神社等、数多くの神社仏閣がある
- ・国や県指定の文化財がある
- ・古くからこの土地に住み生活している



『松美食堂』

名物メニューがある地域の人たちが毎日通う食堂

『元湯箱山温泉』

温泉だけでなく、食堂や休憩施設など、地域の人たちが集い、憩える施設

自分たちの生活する土地に、愛する場所がある

東部地区の自慢

古き良き施設を生かす

山ノ内町のメジャーな観光施設が数多くある

『湯田中渋温泉郷』

古い良き時代の名残を感じる温泉街

『平和観音』『弥勒石仏』『一茶の散歩道』など、歴史を体感できる場所

信州大学教育学部附属松本中学校

平成30年度
信州大学教育学部附属松本中学校
2018.2.3

信州ESDコンソーシアム成果発表

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

本日の発表

- 1 はじめに
- 2 ESDの実践
- 3 志賀高原宿泊体験学習
- 4 総合活動(D組編)
- 5 総合活動(B組編)
- 6 まとめ

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

松本市の紹介

2018.2.3

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

学校紹介

2018.2.3

学校目標
たくましく心豊かに地域貢献

生徒数 477名
1学年 4クラス
2学年 4クラス
3学年 4クラス

進学区
茅野 諏訪 岡谷
塩尻 松本 安曇野

2011年
県下初の
ユネスコスクールに認定

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

2 ESDへの取り組み

2018.2.3

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

3 志賀高原宿泊体験学習

2018.2.3

ユネスコイークでの
トレーニング

ガイの方々に説明して
もらっている様子

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

志賀高原宿泊体験学習

2018.2.3

環境学習についての
講話

カママゴの宿泊体験の
有効利用

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

志賀高原宿泊体験学習

2018.2.3

環境プログラム参事
授賞式

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

志賀高原宿泊体験学習

2018.2.3

ユネスコスクール同士
活動報告

山ノ内中学校・
3年生との交流

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

4 総合活動 (D組編)

2018.2.3

農畜の方とどう農の
新特産品

ピザづくりの
打ち合わせ

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

総合活動

2018.2.3

ピザづくり

土地活用による
木の伐採

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

活動から感じたこと・考えていくこと

2018.2.3

土地作りから...

- 木の伐採から自分たちの手で森林破壊を進めている
- 二酸化炭素が増えてしまい地球温暖化が進んでしまう
- コンクリートの使用による、自然破壊や農産物破壊

→ 排出させた二酸化炭素を回収・循環型に進んで参加したい。

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

5 総合活動 (B組編)

2018.2.3

フロアホッケー

ポッチャ林業
(身体障害者スポーツ)

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

5 総合活動 (B組編)

2018.2.3

松本城で地域貢献の
活動体験

外国人に松本について
インタビュー

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

活動から感じたこと・考えていくこと

2018.2.3

障害者スポーツから...

- 自分たちのスポーツとは違って身体障害者スポーツは工夫されていた
- 体験することで障害者の方が普段感じている不自由さがわかった

→ 障害者の方の視点から人との関わりについて考えることができた

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

6 まとめ

2018.2.3

- 志賀高原宿泊体験学習から環境の面で人との関わりについて考えることができた
- 経済発展と環境保全の両立
- そもそも二酸化炭素を排出しない技術
- 障害者スポーツから障害者の方の視点で人との関わりについて考えることができた
- 松本城訪問から地域貢献について考えることができた

信州大学 ©2018 shinshu-university junior high school

長野県長野西高等学校

アフリカ大陸での5週間！！

～ガーナとトーゴ～

長野西高等学校
国際教養科 3年
眞田 ハンナ

ガーナの村 トーゴの町



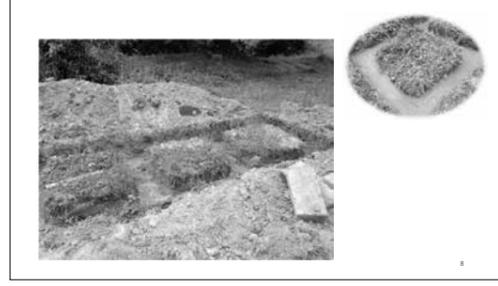
ここは本当にアフリカか?!と目を疑う数々。

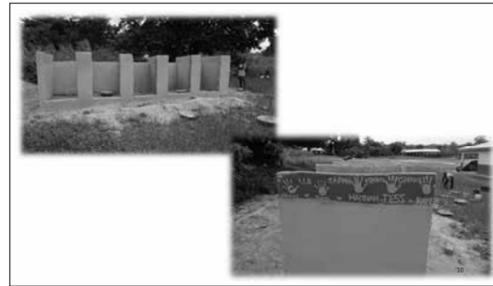
ちやっかりお醤油 売

アフリカの髪型



トイレの建物づくり





○ × クイズ スタート!!

ガーナで、お葬式は5日間かけて行う。

○? ×?

正解 ×

ガーナのキリスト教の家では、3日間かけて行われ、葬式は必ず金曜日に始まります。

日本の葬式とは違い、赤や白の服を着て、朝まで歌い、踊ります。

町の中を、霊柩車と一緒に、にぎやかにパレードをします。

ガーナ、トーゴでは、食べ物は右手で食べる。

○? ×?

正解 ○

左手は汚いものと考えられ、左利きの人でも右手で食べ物を口に運びます。

人に、ものを渡すのも、左手で渡すのはマナー違反!

奴隷城

とても人間とは思えない、むごたらしい過去が、ガーナにはあった。

動物以下の扱い、
多くの人がここで命を落とした。

一度海へ送りだされた奴隷は、再び生きてアフリカの地に戻ることはなかった。

貧しくても、悲しいことがあっても、笑顔とダンスでなんでも乗り越える。

それが アフリカ流

世界は広い!

あなたの夢はなんですか?

山ノ内町立東小学校

当日の様子



山ノ内町立南小学校

ウサギのゲンキと一年生の生活

山ノ内町立南小学校 1学年

1 4月 春探しをしました！
たくさんの生き物や、植物があるね。

10 なんだかグルグルまわっているんだね
おいしい大根がまわっているんだ。

この大根はグルグル大根だ！
来年は、グルグル人参、グルグル大根
みんなと作りたいね！

11 えさを集めながら、草であそびます。
耳飾りをつくってあげよう！
耳にかけたら、かわいいよ！
ゲンキが照れているよ！

大きな石はテーブルにしてみよう

2 南庭に、よくわからない小屋を発見！
なんだこれ？

3 5月9日 うさぎがやってきました

12 小屋の中でよく立ち上がるよ。
私たちもやってみようよ！
わらの上ってあったかいんだね！

ゲンキにも秋をあじわってほしいな。
落ち葉の教室と一緒に遊ぼうよ！

13 冬用の遊び場の木のわくに
みんなでメッセージをかきました。

秋晴れの南庭は気持ちいいね！

4 なでなでするとフワフワです。
かみつかないのかな？

元気にみんなと育てほしいから
名前はゲンキにしました。

5 何度も脱走しちゃいました。
でも、いつも近くにあります。

南庭のリンゴ畑は、
ごちそうだらけの場所です。

14 玄関前のイチヨウがきれいだから
ゲンキの小屋にもイチヨウの
葉っぱをもってこようよ！
あれっ、ゲンキが食べちゃった。

それにしても、遊び場の中は
あつあつと暖かいんだね！

15 ゲンカの仲直りだったって、遊び場の中。

あれっ、ゲンキがびているぞ。
温度計の針が45度を振り切っていくよ！

6 毎日、毎日、たくさんのフンが
落ちてきているよ。ちゃんとあげよう。
このフンは畑にまいておこう！

土管の上ののっているよ。
かわいいなあ。みんなが寝になってお世話しよう。

7 寒くなくても、うちを集めてポイポイ
ニコニコとまいていますが、
投げているのは、げんきのうんち！

冬場でも草があるはず！
外の自然をたのしみながらえさ探し。

16 大根の葉っぱはあるけれど、
ゲンキは他の草が好きなんだね。

冬でも私たちがお世話をしなくちゃね！

17 11月2日 音楽会
ゲンキとみんなの歌を作って歌ったよ。

園工でかいた、ゲンキの絵も
ステージにかざったよ。

8 たくさんフンをまいた畑で大根が育ったよ！
どんな味がするんだろうね？

ようし、ネコの手で気をつけて切るぞ。
大根って重くて、かたいんだね。

9 できあがり！おいしい。家で食べるよりいい！
フンって、私にはいらぬものだけど、
畑にまいたら栄養になるんだね。

その畑で育った大根を私たちがたべて、
大根の葉っぱをゲンキが食べて・・・

18 ゲンキがかわいいんだってことを
みんなに伝えたいよ。

毎日、楽しいし、これから楽しみだっ
てことを発表したいよ！

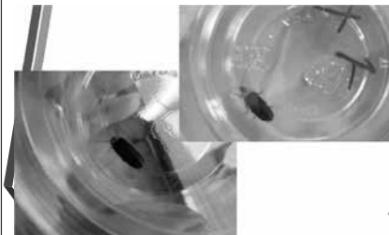
19 これからもゲンキとみんなと楽しい毎日をつくっていきたいね。
動物もみんなも楽しい学校にしたいね！！

高山村立高山小学校

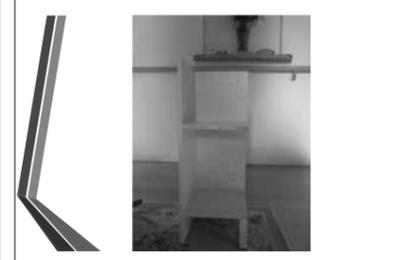
高山小学校 3年1組

たかやまの時間で学習したこと
わくわく村で学んだこと

竹内さんと ゲンジボタル



トトロさんと わくわく村

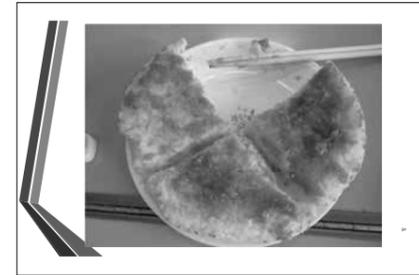


山本さんと わたさいばい

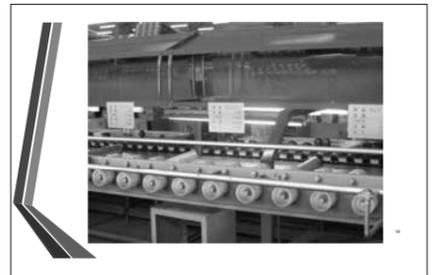
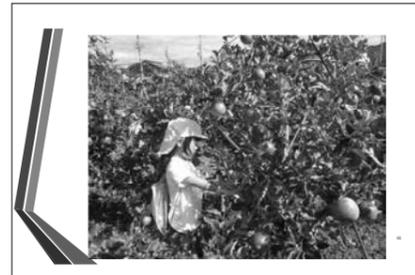




つばいさんと
みそづくり



島田さん・原さん
と
りんごづくり



ぼくたち・わたしたちは
高山村が大好きです。
これで、ぼくたちの発表が終わります。
聞いていただきありがとうございました。

長野県中野西高等学校



おごっそ倶楽部活動報告

長野県中野西高等学校



おごっそ倶楽部とは？

高校生	YEG
・地域社会と接したい	・若者と交流がしたい
・経済活動(高い)の体験がしたい	・既存概念を破る商品開発がしたい
・年長者との交流がしたい	・次世代の起業家の創出や育成がしたい

双方の「したい」ことがマッチング!



学校紹介

昭和59年に長野県立の全日制普通高校としてスタート。今年(平成29年)で創立34周年を迎える。現在、1学年6クラス規模、全校生徒は700名程。

2015年には、環境や人権などの多岐にわたる教育への取り組みが認められ、長野県内の高等学校で初めてのユネスコスクールに認定された。

商工会議所青年部の紹介

地域の若手経営者および後継者が所属する経済団体。全国で34,000名を超えるメンバーがいます。

地域活性化のため、各種イベントの企画・運営、研修事業や会員親睦事業など実施。信州中野商工会議所青年部は、41名の会員で活動しています。

YEGとは、Young Entrepreneurs Group(若き企業家集団)の頭文字をとった略称です。本スライドでは商工会議所青年部をYEGと称します。

信州中野おごっそフェアとは？

主催/信州中野おごっそフェア実行委員会
(信州中野商工会議所・YEG・JA中野市・同青年部・中野青年会議所...)
目的/中野市の農畜産物、グルメを県内外に発信実績/
第1回 2016年10/15・16(2日間) 来場者数10,000人
第2回 2017年10/14・15(2日間) 来場者数11,000人

おごっそフェアの趣(長野県内最大の農産物フェア)
中野市の産品は農業で、キノコの生産量は全国一の規模。特に「元のたけ」は全国シェア40%を誇る。
また他にも「ぶなしめじ」・「エリンギ」・「なめこ」など様々なキノコを生産。
さらに、リンゴ・ぶどう・梨などの果樹や味噌・漬物などの調味料、芍薬などの花卉なども生産。

信州中野おごっそフェアTV CM

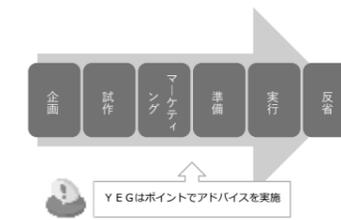


おごっそ倶楽部で何を学べる？

- ★中野市の文化、経済、社会、特産
- ★商品開発のプロセス
- ★マーケティングとブランディング
- ★商品販売のコスト管理



おごっそ倶楽部プロジェクト



1.商品企画

キーワード=中野の食 全員でブレインストーミング

- 信州のソルフード おやき
- 中野市産きのこ使用 ハンバーガー

2種類の商品開発に決定



2.商品試作

おやきの具材を決めて試作会を実施。



“想像の味”と“実際の味”の違いをチェック。
おやきの調理は中野市農産物加工施設利用組合さんの指導

2.商品試作

ハンバーガーの具材を決めて試作会を実施。



“想像の味”と“実際の味”の違いをチェック。
Mountain☆Qさんの協力のもと店舗で試食会

3.マーケティング会議

試作した商品を基に販売方法を検討。



商品種類・個数・ネーミング・パッケージ

4.事前準備

ポスター・看板などは全て手作り。



高校生らしい装飾を考案し、制作。
またチラシなどの宣伝活動にも力を入れた。

5.イベント当日(おやき)

★キーマカレーおやき ★カスタードおやき



5.イベント当日(おやき)



6.イベント当日(バーガー)

★キノコのみだす牛つとバーガー



7.反省会&収支報告会

反省会をグループに分かれてディスカッション
グループごとに発表し意見交換
・良かったこと・改善すべきこと・今後に繋ぐため必要なこと



どのようなことが学べたか？

(高校生サイド)

- ★幅広い世代と交流する
.....コミュニケーションスキルが向上
- ★マスメディアを活用して情報発信する
.....ITスキルが向上
- ★実践的なビジネス体験
.....流通やコスト、商品開発への理解が深まる

どのようなことが学べたか？

(青年部サイド)

- ★高校生の言葉を聴く
.....将来を担う若者の考えを知ることができる
- ★地域資源の掘り起こし
.....新商品開発など地域の魅力の掘り起こしにつながる
- ★新しい教育プログラム
.....ビジネススキル習得のための教育プログラムに発展

大変だったこと、改善点

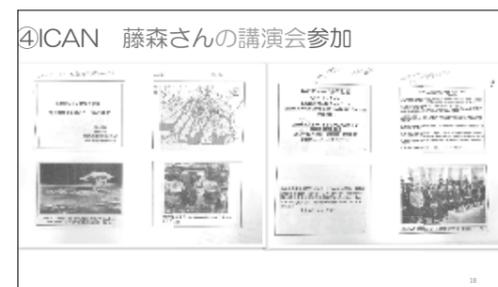
- 値段設定が難しく値段変更をする必要があった
.....高くても売れる工夫をする
- 当日の連携が取れなかった
.....作業のコツなどの共有が必要
- 当日の宣伝活動が上手くいかなかった
.....当番の連携、コミュニケーションスキルが必要

次に繋げるために...

- 高校生と活動に関わる大人が対等に意見交換できる環境づくり
- ボランティアでなくビジネススキル習得の場としての意識改革
- ビジネスマナーや法律を学べるセミナーの導入
- 卒業生も参加できるような仕組みづくり
- 活動発表の場を必ず設ける

ご清聴ありがとうございました。

文化学園長野中学・高等学校



V

ユネスコスクール全国大会参加
その他活動

ブース展示ポスター(信州ESDコンソーシアム)



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム



信州ESDコンソーシアムとは

- 信州ESDコンソーシアムは、文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」の採択を受け、平成29年2月に発足しました。
- 長野県におけるESDの普及と定着を図るため、以下の活動を展開しています。

信州ESDコンソーシアムがめざすもの

1. ユネスコスクールなどの教育組織でのESD推進
2. ESDに関わる人たちの交流の場を創出
3. 企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会を創出
4. コンソーシアムや関係組織の成果の発信
5. ESD関連情報を共有する場を提供

信州ESDコンソーシアムの活動

各種研修会

- ACCU、ESD活動支援センター・地方センターなどと協力して、学校関係者のほか、企業、NPO、各種団体、行政など、ESDにかかわる様々なステークホルダーを対象とした**ESD研修会を開催**しています。
- **学校現場に向いて**全ての教員を対象に、学校教育にESDの視点を取り入れるための実践的な研修会を実施しています。



教員・指導者の育成

- 信州大学教育学部では**環境マインド**を持った人材育成に取り組んでいます。**必修の授業科目『環境教育』**でESDについて取り上げ、その実践に積極的に取り組むことができる教員・人材の育成を行っています。
- 平成29年8月に実施された**社会教育主事講習**では、4日間にわたりESDに関する講義・演習を展開しました。



成果発表会

- 児童・生徒が一堂に集まり、日頃のESD活動の発表と交流を行います。
- 平成29年2月に開催された第1回成果発表&交流会では、県内7校の小・中・高校の児童・生徒など**約130名が信州大学長野(教育)キャンパス**に集い、交流を深めました。



県内におけるユネスコスクールとESDの現状

- 美しい自然環境に恵まれた長野県では、従来から学校現場で学校登山をはじめとする**自然体験学習**や**環境教育**、そして「ふるさと学習」などの**地域学習**が盛んに行われてきました。
- 一方で、ESDの概念はまだあまり普及していません。県内620校以上の小・中・高校のうち、ユネスコスクールに登録されている学校は11校に留まっています。
- **持続可能な「しあわせ信州」**を創造していく上で、ESDの県内への普及と推進は、必須の課題となっています。

校種	校名
小学校(5校)	山ノ内町立東小学校
	高山村立高山小学校
	山ノ内町立西小学校
	山ノ内町立南小学校
中学校(3校)	信州大学教育学部附属松本中学校
	高山村立高山中学校
一貫校等(1校)	文化学園長野中学・高等学校
高等学校(2校)	長野県中野高等学校
	長野県長野高等学校

長野県内のユネスコスクール加盟校(平成29年9月現在)

ユネスコスクールでの学び

- 県内のユネスコスクールでは、学校ごとに地域の特色を活かした様々なESDの学びが展開されています。これらの学校は、今後県内でESDが普及していく中で、他校のモデルとなることが期待されます。
- **信州大学教育学部附属松本中学校**では、ESDで育まれる能力や態度を視点として、教科横断的なカリキュラムを全教科で構想し、教科の枠にとらわれない多面的・多角的な学びを実践しています。
- **山ノ内西小学校**では、地域の支援を受けながら、子どもたちがリンゴ栽培に取り組んでいます。子どもたちの発案で、リンゴを地獄谷野猿公苑などに訪れるインバウンド観光客に販売するなど、「予定調和的でない学び」が展開されています。
- **中野西高等学校**では、1月末の一週間、ユネスコに関連する活動に集中的に取り組む「ユネスコウィーク」を設けています。最初の年の企画は教員や地域のステークホルダーが中心でしたが、2年目からは、生徒たちの自主的な取り組みも目立ち始めています。



ユネスコエコパークとESD

- ユネスコエコパークは、豊かな自然環境や生態系を守りながら、その自然を有効活用し、地域や人間社会が発展することを目的とした**「自然と人間社会の共生」**を実践するモデル地域です。
- ユネスコエコパークはESDのフィールドとして適しており、またESD自体がユネスコエコパークの理念を実現する手段でもあることから、その実践による相乗効果が期待されています。
- **志賀高原ユネスコエコパークの移行地域**では、すべての学校がユネスコスクールに登録されています。志賀高原ユネスコエコパークでは、ガイド組合による環境教育プログラムの提供など、多様なステークホルダーによるESD実践が行われており、県内ユネスコスクールのほとんどが志賀高原ユネスコエコパークを訪れています。



第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

(前日公開授業参加)

団体名	茅野市立永明小学校	報告者名	吉川 豪
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題とESD」参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校とESD
<input checked="" type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input type="checkbox"/>	ESDをコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESDのゴールに向けて-SDGsをゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びとESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育とESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災とESD

1. 参加者名・職名・担当

吉川 豪 (よしかわ ごう)・教諭・ユネスコスクール担当

2. 参加のねらい

平成29年度にユネスコスクールに認定されたので、具体的にどのような活動をしていけばよいか参考にするために、先行して取り組んでいる学校の実践やESDの理念等を学ぶため。

3. 得られた成果

①12月1日 世界遺産 宮原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡を見学して

- ・地域を愛し、大切にしている大牟田市立駒馬北小学校の児童が案内をしてくれました。まず元気な声で先に挨拶をしてくれました。そして、堂々とした態度でハキハキと説明をする姿に、「私たちの世界遺産とそこで働いてきた人をいつまでも大切に、来られた方にもその素晴らしさを伝えたい。」という心意気が感じられました。自分たちの事としてとらえていました。
- ・自分の地域を愛し、大切に、多くの人に知らせたい。と思うような子を育てたいと思いました。

②12月1日 大牟田市立吉野小学校公開授業を参観して

- ・3年1組・2組「吉野の町の工夫見つけ隊 ～人にやさしい吉野の町～」、3年3組「有明海の生き物を守ろう」、4年1組「生き生きピオトープ大作戦」を参観し、児童がグループ活動や全体追究で考えを練り上げていく場面を見ました。正解のないところで、自分の意見やアイデアを積極的に話す姿は、対象に対して各自が自分事としてとらえていることを強く感じました。
- ・本時ではゲストティーチャー(以下GT)がどの学級にもいらしていましたが、活用されている場面が見えにくかったです。普段どのようにGTとかかわっているのか、また、たくさんのGTをどう発掘しているのかも知りたいと思いました。

- ・ESDカレンダー、ESDストーリーマップを拝見して、大変参考になりました。本校では生活科や総合的な学習の時間における年間計画は各学年で作成しています。しかし、各教科との関わりをそこに盛り込むことで、合科・横断的な指導がはっきりとしたねらいをもってできるだろうと思います。本校でも、ESDカレンダー、ESDストーリーマップ作りをしたいと思います。

③12月2日 全国大会に参加して

- ・「接続可能な開発目標(SDGs)」については、本大会で伺って知りました。学校での授業や活動など、今までに取り組んできたことを大きく変えるのではなく、ESDの視点に立ってねらいを明確にしていけばよいとは思っていましたが、その指針を示していただけたので、大変ありがたかったです。
- ・ランチョンセッションでの3企業からの発表は大変興味をもちました。本校の校区内にユニクロさんがあるので、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加したいと思いました。
- ・分科会では、ワークショップ「地域素材の活用を学ぼう」に参加しました。愛知県の高校の先生、三重県の小学校の先生、熊本県の中学校の先生と、4人のグループで地域素材の開発についてワークショップを行い、情報交換をしました。本校のある茅野市は、国宝の土偶が二つも出土している国内には希な所であること、日本一の生産量を誇る寒天、日本三大奇祭の御柱など、周囲に広めたい地域素材が身近にあることを改めて知ることができました。
- ・パネルディスカッションでは、長谷川先生が語られた「50年後の世の中を見ずえて、どんな世の中になっているか、想像することも難しいけれど、今の子どもたちが幸せに生き抜いてほしい。」「過去は変えられないが、未来は変えられる。全てのものが未来につながっている。」という言葉が印象に残りました。また、ニューヨーク市立大学のキャシー・デビッドソン教授は、AIの影響で「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在しない職業に就くだろう」と予測していることに対して、コーディネータの見上先生が「かつて、自動車が普及する際に多くの職業がなくなり、多くの職業が新たに存在した。それと同じではないか。また、自動車の能力に対抗して、自動車より速く走ろうとしたり、重い荷物を運んだりすることを競おうとする人間はいなかった。AIやICTが発展するからと言って、その能力と競おうとする人間はいないのではないか。」というお話も心に残りました。だからこそ、幸せに生きていく子どもたちを、幸せに生きていける世界をつくっていくために今何をすべきか、考えさせられました。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・ESDの理念や「接続可能な開発目標(SDGs)」を職員に周知し、学習活動や行事のねらいを角度づけしていく。
- ・ESDカレンダー、ESDストーリーマップの策定。
- ・ファーストリテイリング “届けよう、服のチカラ”プロジェクト
- ・ユネスコ協会の取り組みとして、行っている書き損じはがき回収の協力

5. コンソーシアムに期待すること

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

(前日公開授業参加)

団体名	山ノ内町立東小学校	報告者名	和田 恒 弥
プログラム参加状況 (複数回答可)			
参加	特別講演	参加	ランチョンセッション
参加	パネルディスカッション	参加	全体会
分科会「喫緊の課題とESD」参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校とESD
参加	地域素材の活用を学ぼう	<input type="checkbox"/>	ESDをコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESDのゴールに向けて-SDGsをゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びとESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育とESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災とESD

ユネスコスクール全国大会から

東小 和田

1 吉野小学校公開授業より

1年 むかしのあそびをたのしもう・・・地域の方やALT (アメリカ・カナダ) の先生より教えてもらったことの発表

2年 吉野のすてきみつげよう



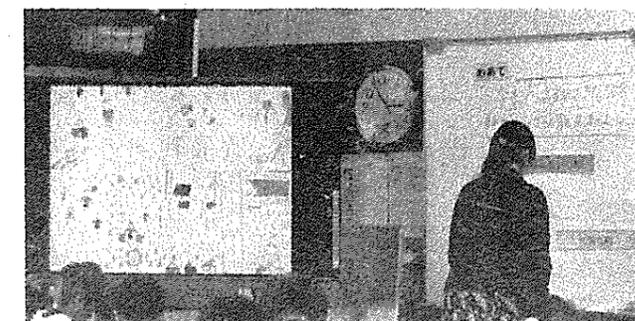
3年 吉野の町の工夫を見つけ隊



4年 生き生きピオトープ大作戦・・・学校の池を守る活動を4年生が行っています。



5年 吉野小桜プロジェクト



6年 大牟田の未来をえがこう



1. 参加者名・職名・担当

和田恒弥・校長

2. 参加のねらい

- ESDの全国の取組状況を知り、自校の次年度の教育課程に生かす。
- 吉野小学校の公開授業を参観し、ESDが総合的な学習や生活科の中でどのように位置づけられているか参考にする。

3. 得られた成果

- 全学級を公開した吉野小学校の、学年発達に応じた取組や全校で共有した目標達成を目指す取組が素晴らしいと感じた。本校のランドデザインやESDカレンダーの作成に生かせようである。
- 地域素材の活用についてのワークショップでは、全国各地の現状と課題を伺い、山ノ内のできていることや今後に向けて参考にできる内容について学ぶことができた。
- 大牟田市の取組は、今求められているSDGsについて理解しやすかった。ESDの推進がSDGsの達成につながるという視点を新たにした。

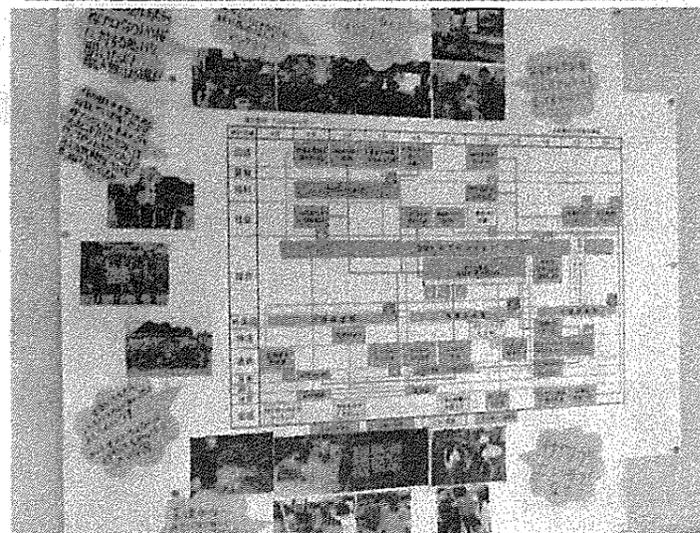
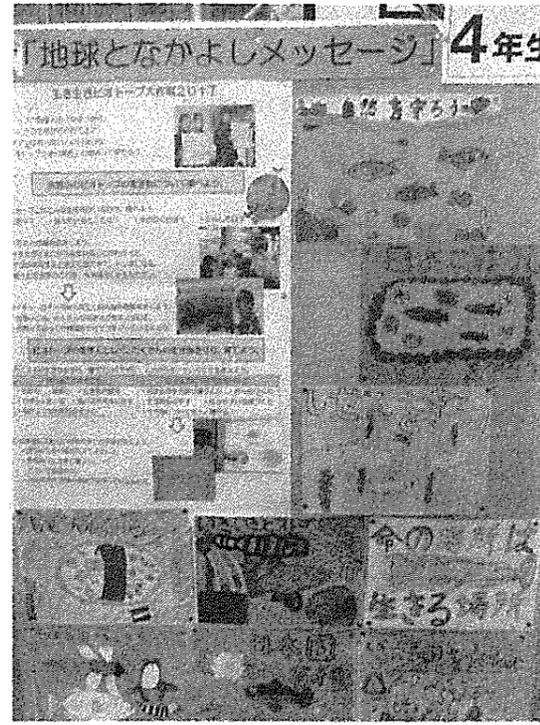
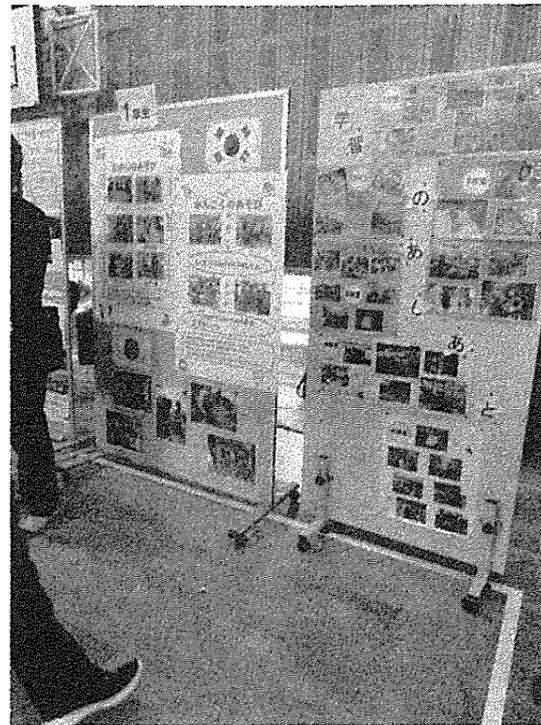
4. 今後取り組んで行きたいこと

- 学校職員へさっそく報告し、次年度に向けたESDカリキュラムの作成に取りかかってもらっている。
- 町としてのESDへの取組をさらに進めてもらうよう、町校長会を通して働きかけていく。
- 他との連携が不足していると感じた。まずは水谷先生、町内各学校との連携を密にしていきたい。

5. コンソーシアムに期待すること

- 情報をたくさんいただき感謝しているが、消化しきれない。また、担当以外は情報不足やESDについての学習不足を感じる。学校間のつながりや他のユネスコ関連団体とのつながりを生かしたネットワークの構築をさらに進めてほしい。

2 吉野小学校の研究



活動の様子を掲示したESDカレンダー（5年）



ESDクラブの作品 ↑

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

（前日公開授業参加）

団体名	山ノ内町立西小学校	報告者名	黒岩 勝廣
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校と ESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input checked="" type="checkbox"/>	ESDをコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESDのゴールに向けて—SDGsをゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

黒岩勝廣 ・ 教諭 ・ 活力ある学校づくり中核教員

2. 参加のねらい

- ・全国や世界における ESD やユネスコスクールの動向をユネスコや文科省、ユネスコスクール関係者などから直接聞くことで ESD やユネスコスクールの意義等の理解を深める。
- ・ESD と新学習指導要領、ESD と SDGs との結びつきについて学ぶ。
- ・先進的な取り組みをしている大牟田市の小学校の授業参観から子どもたちの育ちについて学ぶ。

3. 得られた成果

【大牟田市立吉野小学校授業参観 4年生「生き生きビオトープ大作戦！」】から

- ・一年間の活動の見通しを課題設定 [ステージ1] [ステージ2] 行動・発信・振り返りとし、それぞれの段階でねらいをきめて進めていくストーリーマップ（単元計画）の実例を提示してもらった。
- ・授業では、GT（ゲスト・ティチャー）にどんどん質問しようと呼びかけ、その後の担任は児童の動きや活動の様子を見守ることに徹していた。そのため児童の活動に無駄がなく、自分自身が考えた活動を自分の意思で行っているように感じられた。
- ・学校全体で ESD 学習を進めていくことで学年学級が一つの方向に向かって PTA・地域・諸団体と協力しながら学習が成り立っている様子がよく感じられた。
- ・宮原坑でのガイドボランティアの駒馬北小（はやめきたしょう）6年生のように自分の学習してきたことを堂々と伝えることができるまで高めることは素晴らしいことだと感じた。

【今後の ESD 推進に関する施策説明】（文部科学省文部科学戦略官 池原充洋）、

【特別講演】（ユネスコ本部教育局ユネスコスクール（ASPnet）担当課長 ザビーネ・デツェル氏）から

- ・ESD に引き続き取り組み、よりいっそう推進することが「誰一人取り残さない」社会の実現のための持続可能な開発目標（SDGs）17 の目標達成に直接・間接に貢献することが理解できた。
- ・ESD が次期学習指導要領全体において基盤となる理念として組み込まれたものであり、ESD の実践における学習内容や方法は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながり、ESD の編成プロセス

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

は、「カリキュラム・マネジメント」の具体的な実践につながる事がわかった。

- 世界では182カ国、11,000校で実践されているASPnet。『その世界的な学校間ネットワークであるOTA(Online Tool for ASPnet)の構築が進んでいる。』ことからOTAについて存在意義が理解できた。
- ユネスコがESDの実践において重要な観点として掲げる「変容(人、社会の価値観、考え方の変容)、統合(環境・社会、経済の統合)、イノベーション」を生み出すことを詳しく話していただいた。

【第9分科会：ESDをコアにしたカリキュラム・マネジメント】から

- 横浜市立永田台小学校 住田昌治校長先生から永田台小学校での実践を通して「ESDをコアにしたカリキュラム・マネジメントは学校全体で取り組むものであり、学校経営と教育内容を統合的につなぎ合わせていくこと」の大切さと、今何より学校で必要なことは「教員の働き方改革」であり、風通しのよい職員室こそESDを進めていくためのポイントになるというお話を伺った。

【パネルディスカッション「50年後の社会に向けたESDによる人材育成」から

- 急激な変化を遂げるこれからの社会を生き抜くために、ネガティブ思考ではなくポジティブ思考ができる子どもたちに育てたい、というディスカッションが印象に残った。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- 校内におけるESD学習の推進と持続可能な活動になるための素案づくり
- ストーリーマップと教科との連携(リンク)させた学力向上への手立て
- 山ノ内町内での小中学校や他校とのESD学習の交流
- 地域との連携の強化や地域の課題や素材の掘り下げ

5. コンソーシアムに期待すること

- ESD研修などへのバックアップ(企画、運営、講師派遣、研修会参加など)
- NPOや企業、関連団体と学校現場の橋渡しの役割

団体名	山ノ内町立南小学校	報告者名	菅原 勇介
プログラム参加状況(複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題とESD」参加状況(複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を実践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校とESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input checked="" type="checkbox"/>	ESDをコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESDのゴールに向けて-SDGsをゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びとESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育とESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを実践しよう	<input type="checkbox"/>	防災とESD

1. 参加者名・職名・担当
菅原 勇介 ・ 教諭 ・ 研究主任 ESD担当

2. 参加のねらい
平成29年にユネスコスクールに認定していただいた。町内の小中学校がすべてユネスコスクールとして認定されたのだが、まだまだユネスコスクールについての理解、ユネスコスクールが推進の拠点となるESDについての理解が不十分と感じ、学びたかった。また、全国のユネスコスクールの先生方の話を聞くことで、本校の今後の方向をより明確にもちたいと考えた。

3. 得られた成果
すべてのプログラムにおいて、ユネスコスクールの役割、新学習指導要領とESDの関係、学校教育だけではなく、様々な立場の人がともに学び合い、つながることでSDGsの17の目標にせまっていけるということが確認できた。分科会においては横浜市立永田台小学校の住田昌治校長先生から永田台小学校のESDについて、その考え方や思想を示していただいた後、「つながりの前に立ちほだかる、見えない壁をどのように超えていくのか」という課題提起をいただき、全国のユネスコスクールやサステナブルスクールの先生方と情報交換をおこなった。その中で、ホールスクールアプローチの重要性や、教職員、保護者、地域の理解を得ることの必要性、ESDを研究の窓口とすることの難しさなどを語り合い、有意義な時間を過ごすことができた。

4. 今後取り組んで行きたいこと
分科会のテーマにもなっていたが、カリキュラムマネジメントを大事に考えていきたい。そのためにも、ESDカレンダーを充実させていきたいと考えている。また、ESDカレンダーの作成が目的の第一義とならないよう、その学校、地域、教師、クラスだから生まれる実践を大切に考えていきたいと思う。

5. コンソーシアムに期待すること
学校・地域の連携については信州型CSが機能しこれまで以上に充実してきている。今年度、本校の3年生がESDの関係でイオン中野店に社会見学に行き、クラスで中核としている大豆のことを窓口に、スーパーの工夫などを学ぶことができた。このようにコンソーシアムには、学校と企業や大学、学校間をつなぐような役割、様々な情報提供を期待している。

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

(前日公開授業参加)

団体名	山ノ内町立山ノ内中学校	報告者名	唐木 敏行
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input checked="" type="checkbox"/>	チーム学校と ESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input type="checkbox"/>	ESD をコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESD のゴールに向けて-SDGs をゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

唐木 敏行・教諭・ESD 担当

2. 参加のねらい

全国から参加するユネスコスクール担当者、ESD を推進している学校関係者から、ESD の授業実践等を学び、本校の ESD を更に充実させていく

3. 得られた成果

「ESD の授業を始めて参観できた」ことで、生徒の姿や授業実践の様子から、ESD の授業のあり方、目指す生徒の姿が理解できた。

このことによって、3 年間試行錯誤でやってきた「本校の ESD に対する自信が持てた」私たちがやっている方向性について間違いはない事が理解できた。

更に教員間での共通理解等の新たな課題が見えてきた、そしてこのことが「ESD を推進していく勇気を持つことにつながった」

一人一人が、子ども主体の授業を实践する中で、このことがどこにつながっているのか【SDGs (持続可能な開発目標)】に照らし合わせて、明確にしていくことが必要だと考え、1 月の研修で職員研修を行おうと考えた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

・1 月の職員研修を实施し、その場で自身の授業が SDGs のどことつながっているか明確にする。そして先生方の SDGs をつなぎ合わせることで、本校の ESD カレンダーづくりになるのではないかと考えている。

・ユネスコスクールホームページを通じた他校との交流、現在本校のホームページに掲載してある ESD の活動の様子を中心にユネスコスクール HP へ掲載していこうと考えている。

5. コンソーシアムに期待すること

県内ユネスコスクール間の日常的な交流のあり方を考える場としたい。1 年に 1 回のイベント的な交流ではなく、生徒が主体的に日常的な交流ができるシステムづくりを考えたい。これについては、どちらかという各学校の ESD 担当者会みたいなものが、コンソーシアムの中でできればいいなあと考える。

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	信州大学教育学部附属長野中学校	報告者名	加藤 浩
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校と ESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input checked="" type="checkbox"/>	ESD をコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESD のゴールに向けて-SDGs をゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

加藤 浩・教頭

2. 参加のねらい

- ・現在、ユネスコスクールに申請中であり、既に認定されている学校等の状況を把握するため。
- ・新学習指導要領の前文に「持続可能な社会の担い手を育成する」ことが述べられており、ESD の理念や実践事例を学び、本校の日常の教育活動に生かすため。

3. 得られた成果

- ・SDGs について、特に教育における取組の大切さについて改めて理解を深めることができた。
- ・「ESD で働き方改革」学校の教育活動を持続可能にしていくという住田校長先生の提案は、とても参考になった。「持続可能にしていくためには、ツールやマニュアルではなく、土台・基盤を変えることでジワジワと組織は変容する。急激な変化は反動がくる」という言葉はしっくりときた。
- ・パネルディスカッションの石丸先生の貴重提案にあった「夕張高校魅力化プロジェクト」の話には感動した。このように動き出せる若者を育成していくことが教育の目的だと思った。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・環境保全などの活動ありきになってしまわないようにしたい。プログラムが決まってい、それを「体験」するだけでは、自ら感じて動き出せる若者には育たないと思う。持続可能な社会の担い手を育成するために、各教科の授業は、学校生活は、体験活動はどうあったらよいか考えたい。

5. コンソーシアムに期待すること

- ・神戸大学の松岡広路がコーディネーター、様々な活動をしている大学生がシンポジストで行われたシンポジウムに参加したことがあるが、ESD を突き詰めていくと人とのつながりであると感じた。コンソーシアムに期待するのは人とのつながりの拠点としての役割である。

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	中野西高等学校	報告者名	高橋 優祐
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input type="radio"/>	特別講演	<input type="radio"/>	ランチョンセッション
<input type="radio"/>	パネルディスカッション	<input type="radio"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況（複数回答可）			
<input type="radio"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="radio"/>	チーム学校と ESD
<input type="radio"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input type="radio"/>	ESD をコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="radio"/>	ESD のゴールに向けて-SDGs をゲームで学ぼう	<input type="radio"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input type="radio"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="radio"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="radio"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="radio"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

高橋 優祐・教諭・理科 進路係

2. 参加のねらい

本校の ESD 活動をより実りあるものにするため、ユネスコスクール理念の再確認および他校の実践例の研究を行うため参加した。本校は活動の種類や質については力を入れているが、関わる職員や生徒の偏り、活動後のまとめの部分が課題だと感じている。その部分を改善するために、良い刺激を受けたいと考え参加した。

3. 得られた成果

大きな成果が二点ある。

一点目は「SDGs」から、ESD 活動の幅の広さを再確認できたことだ。これにより本校の取り組んでいる活動に自信を深め、新しい視点を得ることができた。

二点目は他校の実践例から、「まとめ」に力を入れる必要性を再確認できたことだ。また、他校の実践例から様々な可能性が見えてきた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

取り組んで行きたいことは大きく分けて二点ある。

一点目はまとめの時間の確保だ。来年度から総合的な学習の時間などを用いて、活動に対するまとめ・発表に力を入れていきたい。また、そのために参加生徒の幅を広くするよう努力する。

二点目は教員側の意識の統一を徹底したい。なるべく多くの教員が関わる工夫する。

5. コンソーシアムに期待すること

他校の実践例からは非常に大きな刺激を受ける。良い実践例の報告もありがたいが、うまくいかなかったものや、悩んでいる部分の共有があると、全体としてより良くなるのではないかと考える。

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	長野県長野西高等学校	報告者名	黒岩 周平
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校と ESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input type="checkbox"/>	ESD をコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESD のゴールに向けて-SDGs をゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input checked="" type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

黒岩 周平・教諭・ユネスコ委員（国際教養科担任）

2. 参加のねらい

ユネスコスクールと ESD の現状や今後の展望に関する理解を深めるとともに、他校（他地域）の取り組みに学び、また意見交換をする中で本校での取り組みをより良くしていくこと。

3. 得られた成果

「今後の ESD 推進に関する施策説明（池原充洋氏）」「特別講演（ザビーネ・デツェル氏）」

SDGs の中に ESD が位置づけられていることを踏まえ、ESD の推進が SDGs の達成につながることを再認識した。今後、交流等のためのネットワークを活用していきたい。

「＜ワークショップ＞グローバル人材の育成にトライしよう（市瀬智紀氏）」

グループワークを通し、①グローバル人材像を明確にすること ②それを育成するための手法とリソースを掘り起こすこと ③それによって何がかわるのかを共有すること の3点に取り組んだ。具体的に、本校での取り組みが何を目指しそれにどのように寄与しているかを捉え直す機会となり、また他校の活用しているリソース（団体等）も知ることができた。本校同様に国際教養科のある高校とも意見交換ができた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

今回の成果を活かし、国際教養科、普通科の取り組みを、より SDGs を意識して深めていきたい。他校や他団体との連携も模索していきたい。

5. コンソーシアムに期待すること

活動に関する支援と交流の機会

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

平成29年12月4日

団体名	文化学園長野中学・高等学校	報告者名	長田 里恵
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	特別講演	<input type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校と ESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input type="checkbox"/>	ESD をコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESD のゴールに向けて-SDGs をゲームで学ぼう	<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

長田 里恵 国際理解教育委員会 委員長

2. 参加のねらい

本年4月ユネスコスクール加盟承認された本校において、今後急激かつ予測困難な社会に対応するため、国連において制定された「SDGs」に基づき、ESD の取組、役割、可能性を研究し、ESD 実践の深化、拡充を目指すため。

3. 得られた成果

- ・ESD とは「SDGs を達成するための教育」との再確認ができた。
- ・リアルな持続不可能（超少子高齢化、人口急減期、AI 急成長でなくなる職業）に出合わせ、ESD による今までになかった「新たな価値の創造」をすべく、持続可能な追究力とレジリエンスを育むことが大切である。消えゆく夕張に「生きる」ことに向き合っている高校生の姿に熱いものを感じた。
- ・ユネスコスクールはホールスクール。全職員で関わること。一人では何もできない。全てがつながりできている。つながりとして、学校間・ユネスコスクール間・各諸団体と「OTA」でつながれる。

4. 今後取り組んでいきたいこと

- ・ユニクロ「服のプロジェクト」を来年も続ける。学校全体の活動にする（高校中学生徒会活動）今年協力いただいた小学校への「連携プロジェクト（生徒会の出前講座）」など。地域とのつながり。（ユネスコスクール認知を高める）
- ・学校内における連携強化。

5. コンソーシアムに期待すること

- ・つながり連携強化（地域・企業・諸団体との連携）
- ・出前授業
- ・OTA
- ・研究会

第9回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	諏訪ユネスコ協会	報告者名	矢崎 靖雄
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会「喫緊の課題と ESD」参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	世界文化遺産の効果的な学習を实践しよう	<input type="checkbox"/>	チーム学校と ESD
<input type="checkbox"/>	地域素材の活用を学ぼう	<input type="checkbox"/>	ESD をコアにしたカリキュラム・マネジメント
<input type="checkbox"/>	ESD のゴールに向けて-SDGs をゲームで学ぼう	<input checked="" type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びと ESD
<input type="checkbox"/>	グローバル人材の育成にトライしよう	<input type="checkbox"/>	道徳、心の教育と ESD
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチを实践しよう	<input type="checkbox"/>	防災と ESD

1. 参加者名・職名・担当

矢崎 靖雄 諏訪ユネスコ協会会長

2. 参加のねらい

諏訪地域の小中学校にユネスコスクールを広げるための手法・啓発活動等を学ぶため。

3. 得られた成果

何人かの人と人脈を得られたこと。これからユネスコスクール啓発・登録への手だて等ネットを通じて紹介してもらえるように出来たことが大きな収穫であった。

4. 今後取り組んでいきたいこと

大会で知り合った先進地の担当者との連絡を取り合い、諏訪地方の各学校へ働きかけていきたいと考えている。

5. コンソーシアムに期待すること

各市町村の教育委員会に働きかけ、教育長や校長の意識改革、ユネスコスクールの理解等深めていただきたい。

5月12日 大牟田コンソーシアム訪問

5月12日（金）に大牟田市教育委員会が中心となって進めている大牟田ESDコンソーシアムを視察してきました。教育長はじめ、教育委員会の担当の先生方から、大牟田市の取り組みについてお話をうかがうことができました。大牟田市は、平成23年度から市立の全小中特別支援学校全がユネスコスクールとなっています。各学校にユネスコスクールの担当教員が決められており、大牟田市長を本部長として市全体でESDを推進する仕組みづくりができていました。



ユネスコスクール支援センターの設置



ユネスコスクールの日を制定

今後の大牟田市でのユネスコスクール関係の事業としては、8月23日（水）にユネスコスクール・ESD研修会、1月13日（土）にユネスコスクール子どもサミットが開催されます。また、今年度のユネスコスクール全国大会も大牟田市で開催されることが決まりました。全て他県からの参加が可能なイベントです。遠方ではありますが長野からも参加できるといい情報交流ができそうです。

なお、8月27日（日）に開催される信州ESDコンソーシアムの総会には、大牟田市教育委員会の安田教育長にお越しいただけることになりました。午前中に大牟田市の取り組みについてご講演いただきます。ぜひお越し下さい。（安達）

その他の事業の概要

1. 学校現場での研修会

①ユネスコエコパーク・ESD研修会（山ノ内西小）

- ・目的
ユネスコエコパーク地域におけるESDの普及・推進をはかるため、学校教員を対象としたESD研修を開催する。
- ・開催日時
平成29年6月22日（木）15:20～16:50
- ・開催場所
山ノ内西小学校（長野県下高井郡山ノ内町夜間瀬）
- ・講師
石田 好広 氏（目白大学人間学部児童教育学科 教授）
- ・主催・共催
主 催：山ノ内西小学校
共 催：山ノ内町観光商工課志賀高原ユネスコエコパーク推進室，信州ESDコンソーシアム
- ・参加者
山ノ内西小学校教員など19名

②ユネスコエコパーク・ESD研修会（山ノ内南小）

- ・目的
ユネスコエコパーク地域におけるESDの普及・推進を図るとともに、総合的な学習の時間におけるその効果的な実践を促進するため、学校教員を対象とした研修会を開催する。
- ・開催日時
平成29年7月25日（火）14:00～16:00
- ・開催場所
山ノ内南小学校（長野県下高井郡山ノ内町佐野）
- ・講師
石田 好広 氏（目白大学人間学部児童教育学科 教授）
- ・主催・共催
主 催：山ノ内南小学校
共 催：山ノ内町観光商工課志賀高原ユネスコエコパーク推進室，信州ESDコンソーシアム
- ・参加者
山ノ内南小学校，山ノ内中学校教員など19名

③ユネスコエコパーク・ESD研修会（山ノ内中）

- ・目的
ユネスコエコパーク地域におけるESDの普及・推進を図るとともに、総合的な学習の時間におけるその効果的な実践を促進するため、学校教員を対象とした研修会を開催する。
- ・開催日時
平成30年1月9日（火）11:00～14:30
- ・開催場所
山ノ内中学校（長野県下高井郡山ノ内町平穏）
- ・講師
石田 好広 氏（目白大学人間学部児童教育学科 教授）
- ・主催・共催
主 催：山ノ内中学校
共 催：山ノ内町観光商工課志賀高原ユネスコエコパーク推進室，信州ESDコンソーシアム
- ・参加者
山ノ内中学校，山ノ内東小学校，山ノ内南小学校教員，山ノ内町職員など35名

④ユネスコエコパーク・ESD研修会（山ノ内西小）

- ・目的
ユネスコエコパーク地域におけるESDの普及・推進を図るとともに、総合的な学習の時間におけるその効果的な実践を促進するため、学校教員を対象とした研修会を開催する。
- ・開催日時
平成30年1月9日（火）15:20～16:50
- ・開催場所
山ノ内西小学校（長野県下高井郡山ノ内町夜間瀬）
- ・講師
石田 好広 氏（目白大学人間学部児童教育学科 教授）
- ・主催・共催
主 催：山ノ内西小学校
共 催：山ノ内町観光商工課志賀高原ユネスコエコパーク推進室，信州ESDコンソーシアム
- ・参加者
山ノ内西小学校教員，山ノ内町職員など15名

2. 全体向け研修会

①北信越ユネスコスクール交流会 2017

- ・目的
これまでの東海・北陸の交流の成果を踏まえ、北陸新幹線開業により時間距離が大きく短縮された北陸と長野、新潟のユネスコスクール及びユネスコスクール候補校間の情報、経験の交流を深化させるとともに、引き続き東海・北陸の学校間の交流を継続・強化することを目指して、「北信越ユネスコスクール交流会 in 金沢 2017」を文部科学省日本ユネスコパートナーシップ事業として実施した。
- ・開催日時
平成29年8月6日（日）13:30～16:30
- ・開催場所
金沢勤労者プラザ（石川県金沢市）
- ・主催・共催
主 催：金沢大学国際基幹教育院
共 催：中部地方ESD活動支援センター
後 援：ユネスコスクール支援大学間ネットワーク、ESD活動支援センター、北陸ESD推進コンソーシアム、信州ESDコンソーシアム、（公社）大学コンソーシアム石川
- ・参加者
北陸3県、長野県及び東海地域のユネスコスクール及びユネスコスクール関係39名

②第1回「ESD推進の手引」を活用した研修会@長野県

- ・目的
①教育の質を高めるためのESDの役割を広く推進すること
②ESDを伝えることのできるファシリテーターをサポートすること
- ・開催日時
平成29年10月1日（日）10:30～12:15
- ・開催場所
伊那市役所本庁舎1階 多目的ホール（長野県伊那市）
- ・講師
山本 隆太 氏（静岡大学全学教育基盤機構 教職センター 学術研究員）
住田 昌治 氏（横浜市立永田台小学校 校長）
- ・主催・共催
主 催：文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
後 援：日本ジオパークネットワーク、長野県教育委員会、信州ESDコンソーシアム、伊那市教育委員会、駒ヶ根市教育委員会、ESD活動支援センター
- ・参加者

長野県、静岡県、横浜市の教職関係者など延べ44名

③平成 29 年度 研修教員の学部研修「教育に関する研修」

「E S D (Education for Sustainable Development) からとらえる学びの姿」

- ・目的
現職教員が学校でおこなっている授業と ESD の関連について考えることのできる力を身につけること
- ・開催日時
平成29年10月4日(水) 13:00～14:30
- ・開催場所
信州大学教育学部 E201 (長野県長野市)
- ・講師
安達 仁美 氏 (信州大学教育学部現代教育コース 准教授)
- ・主催・共催
主 催: 信州大学教育学部、信州 ESD コンソーシアム
- ・参加者
信州大学教育学部附属学校園教員12名

④中部地方 ESD 活動支援センター主催「ESD 研究会～新学習指導要領と ESD 授業づくり」

- ・目的
地域の教育の核となる「学校」における ESD 取組の充実を図るために、平成30年度から順次施行される「新学習指導要領」の特色と ESD 授業づくりとの関連性について学びあいます。学習指導要領の改訂によってこれまでの教育体系や内容がどう変わるのか、ESD 授業づくりにどのような影響があるのか、今後の ESD 授業づくりのヒントやノウハウについての、実践事例を題材に研究会を行います。
- ・開催日時
平成29年10月28日(土) 14:00～17:00
- ・開催場所
信州大学教育学部 N101 (長野県長野市)
- ・講師
渋谷 一典 氏 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)
- ・主催・共催
主 催: 中部地方 ESD 活動支援センター
共 催: 信州 ESD コンソーシアム
- ・参加者
教員、学校関係者、NPO・団体・行政関係者など36名

⑤ESD 推進ネットワーク地域フォーラム 2017

「すべてをつなぎ、SDGs 達成、持続可能な地域をつくる」

- ・目的
中部地方 ESD 活動支援センターは、今年度、研究会、交流会など各地の ESD、SDGs の取組主体と出会い、学びあう場をつくってきました。ESD 推進ネットワーク地域フォーラムはその結集として、地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として開催。研究会や交流会の成果を反映するために、テーマを「新学習指導要領と ESD 授業づくり」、「SDGs 達成のための企業の役割」、「持続可能な地域をつくる公共人材」としました。
- ・開催日時
平成30年3月3日(土) 11:00～16:45
- ・開催場所
ウインクあいち (愛知県名古屋市)
- ・講師
渋谷 一典 氏 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)
伊藤 恭彦 氏 (名古屋市立大学理事・副学長/中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議座長)
黒田 かをり 氏 (一般財団 CSO ネットワーク事務局長・理事)
安彦 忠彦 氏 (名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授)
- ・主催・協力・後援
主 催: 中部地方 ESD 活動支援センター
協 力: 中部 ESD 拠点協議会、北陸 ESD 推進コンソーシアム、信州 ESD コンソーシアム
後 援: 富山県、富山県教育委員会、石川県、石川県教育委員会、福井県、福井県教育委員会、長野県、長野県教育委員会、岐阜県、岐阜県教育委員会、愛知県、愛知県教育委員会、三重県、三重県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会
- ・参加者
教職関係者など62名

平成29年度信州ESDコンソーシアム活動報告:平成30年1月26日名古屋

信州ESDコンソーシアム
平成29(2017)年度活動報告

信州ESDコンソーシアム
信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 水谷瑞希

1. 本日の説明内容

- 事業の背景と目的
 - 長野県におけるESDの現状
 - コンソーシアムが目指すもの
 - ユネスコエコパークとESD
- 本年度の活動
 - 研修会の開催
 - 国際交流
 - 教員・指導者の養成
 - 交流・成果発表会
- 今後の課題と対応策

2-1. 長野県におけるESDの現状①

- 3,000m級の山々と清流が織りなす雄大な自然に恵まれた長野県
- 学校登山をはじめとする自然体験学習や環境教育、そして「ふるさと学習」などの地域学習が盛ん
- このような学習をサポートする地域・団体も存在

2-2. 長野県におけるESDの現状②

ESDは普及していない。長野県内のユネスコスクール加盟校(平成29年9月現在)

県内620校以上の小・中・高校のうち、ユネスコスクール登録校は11校。

普及に向けて情報・人をつなぐネットワークが必要。

種別	校名
小学校(1校)	山ノ内町立東山小学校
	高山町立高山小学校
	山ノ内町立南小学校
	山ノ内町立南小学校
	茅野市立志賀小学校
中学校(2校)	信州大学教育学部附属松本中学校
	山ノ内町立山ノ内中学校
一貫校(1校)	高山町立高山中学校
高等学校(2校)	文化学園長野中学校・高等学校
	長野県立長野高等学校
	長野県立長野高等学校

3. 信州ESDコンソーシアムが目指すもの

- ユネスコスクールなどの教育組織でのESD推進
- ESDに関わる人たちの交流の場を創出
- 企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会を創出
- コンソーシアムや関係組織の成果の発信
- ESD関連情報を共有する場を提供

4-1. ユネスコエコパークとESD①

- ユネスコエコパーク(BR)は、豊かな自然環境や生態系を守りながら、その自然を有効活用し、地域社会が発展することを旨とした自然と人間社会の共生のモデル地区
- ESD実践の場として適しており、またESDがその理念を実現する手段でもあることから相乗効果を期待

4-2. ユネスコエコパークとESD

- 志賀高原BRの移行地域のすべての学校がユネスコスクールに登録
- 志賀高原BRでは、ガイド組合による環境教育プログラム提供など多様なステークホルダーによるESD実践が展開
- 県内ユネスコスクールのほとんどが志賀高原BRを訪問

5-1. 研修会の開催①

- ESD活動支援センター、ACCUなどと協力して、県内のESDに関わる様々なステークホルダーを対象とした研修会を開催

主催・共催によって開催した研修会

平成29年8月27日
信州ESDコンソーシアム 2017年度第1回ESD研修会(主催:信州ESDコンソーシアム)

平成29年10月1日
第1回「ESD推進の手引」を活用した研修会@長野県(主催:文部科学省、ACCU)

平成29年10月28日
長野地域ESD研究会「新学習指導要領とESD授業づくり」(主催:中部地方ESD活動支援センター)

5-2. 研修会の開催②

- 学校に出向いて全ての教員を対象に、教育にESDの視点を取り入れるための実践的な研修会を実施

山ノ内町の小中学校で開催した研修会

平成29年6月22日
第1回研修会(西小学校) 参加者19名

平成29年7月25日
第2回研修会(南小学校) 参加者19名

平成30年1月9日
第3回研修会(中学校、東小学校) 参加者37名

平成30年1月9日
第4回研修会(西小学校) 参加者15名

6-1. 教員・指導者の養成①

- 教育学部必修科目「環境教育」でESDを取り上げ、その実践に取り組むことができる教員・人材を育成

6-2. 教員・指導者の養成②

- 社会教育主事講習では4日間にわたり、ESDを題材とした講義・現地視察・演習を展開

社会教育主事講習 (ESDウィーク)

ESD特論①: ESDとは何か
ESD特論②: 地球時代の環境教育とESD
ESD特論③: 地域文化遺産を活用した社会教育活動 - 善光寺野原の史跡探訪
ESD特論④: 地域資源を活かした地域学習 - ユネスコエコパークの取り組み

演習Ⅰ: 社会教育事業の計画 - ESD事業を企画する
演習Ⅱ: 社会教育課題の実際 - ESDの視点から見た社会教育

7. 国際交流

- Jourdan教授(ブレス・パスカル大学・教育大学院 ユネスコグローバルスクールヘルス・コンソーシアムのメンバー)のユネスコスクールへの訪問視察をコーディネート
- 附属松本小、幼稚園、山ノ内南小、文化学園長野中・高でESD授業を視察・交流

8-1. 交流・成果発表会①

- ESD全国大会など県外のイベントに、長野県内の教員などESD関係者を派遣し、情報交換と交流を促進

8-2. 交流・成果発表会②

- 子どもたちが日頃のESDの学びの成果を発表しあい、交流を深める成果発表&交流会を信州大学長野(教育)キャンパスで開催。

9. 環境報告書

10. 今後の課題と対応策①

- 県内へのESDの普及推進
 - 地区ユネスコ協会、環境保全協会等との連携により地区ごとの支部を構築し全県をカバー
 - 県教育委員会との連携により学校現場へのESDの普及を推進
 - 附属学校のESD推進拠点としての機能を強化
- ESDに関する調査研究
 - ESDの普及・改善に向けた調査研究(教員や児童・生徒の評価、分析)
 - 現場教員の研究会の発足と実践事例の収集・公表

10. 今後の課題と対応策②

- グローバルな取り組みの推進
 - 海外視察・国際交流の調整
 - ユネスコスクールの国際交流をコーディネート
- コンソーシアム機能を継続するために
 - 関係団体との協働による事務局機能の維持・財源の確保
 - 大学全体で取り組む体制を構築

ご清聴ありがとうございました

VI ESD 通信



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **1**
2017.4.10
信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：設立総会/お知らせ/団体紹介

信州ESDコンソーシアム設立総会と成果発表&交流会が開かれました。

2月18日午前に総会、午後に成果発表&交流会が信州大学教育学部において開催されました。それぞれ、34名、129名の参加者によって有意義な盛会となりました。特に児童生徒による発表は相互に良い交流をもたらしたことがアンケートによってもわかりました。次年度のさらなる向上が期待されました。



第1部 <コンソーシアム設立総会> 10:00~12:00 中校舎 201

○基調講演：「信州ESDコンソーシアムに期待すること」

岡本 彩 (文科省ユネスコ振興推進係長)

○コンソーシアム活動事例紹介

「北陸における知の拠点形成によるESD推進事業」鈴木克徳(北陸コンソーシアム)

「東北の自然環境と防災および国際連携をコアとしたグローバル人材育成とESD地域モデルの創出」

小金澤孝昭 (東北コンソーシアム)

○信州コンソーシアム趣旨・規約案・活動計画説明

○支援機関コメント

ユネスコアジア文化センター、日本ユネスコ協会連盟、EPO中部、ESD活動支援センター

第2部<成果発表&交流会> 13:30~16:00 信州大学教育学部図書館2階大講義室

○基調講演：「地球の歴史、いのちとわたしたち」

柴尾 智子 (ESD活動支援センター)

○ユネスコスクールの成果発表

高山小学校、山ノ内西小学校、山ノ内南小学校、山ノ内中学校、信州大学附属松本中学校、中野西高校、長野西高校

○その他の学校のポスター発表

山ノ内東小学校、同北小学校、信州大学附属幼稚園、同長野小学校、同長野中学校、同特別支援学校、同松本小学校、同松本中学校、長野ユネスコ協会青年部つながる



全国のESDコンソーシアム拠点

文科省によるESD推進事業では以下13の地域が選定され、大学や教育委員会を核としてユネスコスクールや一般の学校へのESD推進と支援活動を実施しています。それぞれ特徴的なネーミングや多様な活動がホームページで紹介されておりますのでぜひ参考にご覧ください。

26年度開始 宮城教育大学(ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム)・金沢大学(北陸ESD推進コンソーシアム)・三重大学(三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム)・奈良教育大学(奈良ESDコンソーシアム)・大牟田市教育委員会(大牟田ESDコンソーシアム)

27年度開始 岡山市教育委員会(岡山ESDプロジェクト)・千葉大学(人間力を育む千葉ESDの地域展開)・中部大学(ESDコンソーシアム愛知)・新居浜市教育委員会(ESD推進事業協議会)

28年度開始 横浜市教育委員会(横浜市ESD推進コンソーシアム)・静岡大学(ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム)・広島大学(広島ESDコンソーシアム)・信州大学(信州ESDコンソーシアム)

ESD小辞典

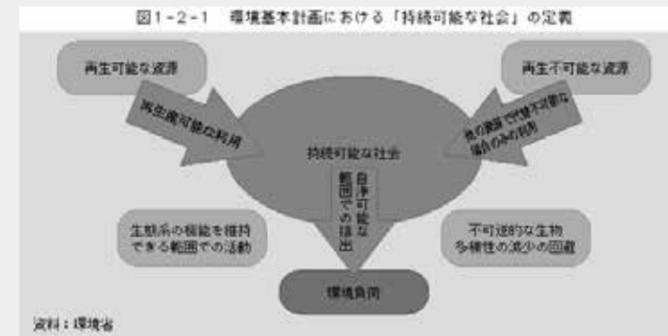
持続可能とは？



ESDにおける分かりにくさに「持続可能」とはどんな状態を言うのか?という疑問があります。様々な定義が提案されていますが、元々はサカナのように採りすぎれば減少してしまい、漁業がなりたなくなる状態を考えてみるのが分かりやすいでしょう。資源を維持するために、資源の量を継続調査し、採る魚の大きさや採る時期を制限したりして、漁業を持続させてきました。それでも思いがけない事態が生じることがあり、余裕を持った利用と保護とが必要とされます。また、ゴミのように一方的に増加するものは自然の分解能力内に収まるように

生産と消費とを考えなければなりません。

持続可能な社会=人々の生活を将来にわたって安全、安心に保障するためには、資源やエネルギーに限らず、貧困や経済格差が拡大することなく、人権が保障される



など社会制度や文化など様々な社会的活動が公正に維持されることも重要になってきています。これらは、国連の2030年目標であるSDGsに詳しく、後日紹介します。

お知らせ

いくつかの団体よりESD資料を提供いただいています。以下をご希望の方は事務局までご連絡ください。

- ・地域版ESD環境教育プログラムガイドブック(平成25・26・27年度各80p)、環境省発行
 - ・これからのESD実践への提案：自己肯定感を育む環境をつくる(7p)、EPO中部発行
 - ・教員のためのESDガイドブック(23p)、北陸ESDコンソーシアム発行
- 各50冊ほどありますので必要部数をご連絡ください。



信州ESD通信

No.1 2017.04.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **2**
2017.5.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：新ユネスコスクール/今年の予定/ESD小辞典/お知らせなど

今年度、早速、文化学園長野中学・高等学校(長野市)と永明小学校(茅野市)がユネスコスクールに承認されました。おめでとうございます。



長野マラソン招待モーゼス選手(ウガンダ)との国際交流会(H29 4月14日)：文化学園提供

これで信州のユネスコスクールは以下の学校を併せて11校となりました。今後とも情報交換、交流をとうしてより一層の発展が期待されます。今年も仲間が増えると良いですね。

信州大学教育学部附属松本中学校、山ノ内町立東小学校、同西小学校、同南小学校、同山ノ内中学校、高山村立高山小学校、同高山中学校、中野西高等学校、長野西高等学校

今年度の予定です。
8月6日 北信越ユネスコスクール交流会、2月3日 成果発表・交流会

盛況であった成果発表・交流会を2018年2月3日に開催します。ぜひ、今からご予定に入れておいてください。8月6日には北信越ユネスコスクール交流会が開催されます。こちらにもぜひご参加ください。9月にはESD研修会を予定しています。



ESD小辞典
SDGsとは



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2015年9月、全国連加盟国(193国)は、より良い未来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。SDGsは深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって『誰も取り残されない』世界を実現しようという大きなチャレンジです。その基本理念が「持続可能性」であり、ESDはまさにこの目標に向けての教育活動といえるでしょう。そして、この目標は先進国、途上国ともに協力して達成すべきものです。ユネスコスクールの様々な学習活動もまたこの理念に沿って進められています。

コーディネーター通信 活動の現状をお知らせします

●4月27日に飯田市役所に伺い、市教委・環境部さんと面会し、信州ESDコンソーシアムの説明とお誘いをおこないました。また、飯田市の環境活動などについてお話を伺い、意見交換をおこないました。飯田市はちょうど今年度から新たな「飯田市環境基本計画：いいだ環境プラン」が発足したところでした。巻頭には「環境文化都市宣言」があり、「環境学習の推進および環境人材の育成と活躍の場の創出」がすべての政策を包含する分野として高く位置づけられています。学校だけでなく公民館、市民、地域、企業も含めた幅広い世代が参加し、具体的なプログラムを整備するなど、まさにESD的な取り組みが進んでいます。これまでも先進的な環境への取り組みをおこなってきた飯田市の今後の進展が大いに期待されます(水谷・渡辺)

お知らせ

いくつかの団体からのお知らせです。詳細は各連絡先にお問い合わせください。

- みどりのカーテンの写真を募集します(主催：長野県地球温暖化防止活動推進センター)写真に簡単なコメント(エピソードなど)を添え住所・氏名・電話番号を明記してお送りください。締切は9月30日です。メール nccca@dia.janis.or.jp
- 長野市生ごみ減量アドバイザー養成講座・研修会(主催：長野市生活環境課)6月22日10:00~12:00、長野市吉田公民館(ノルテナがの)にて、参加費無料。講師：井出 留美
申込・問合せ：NPOみどりの市民 TEL026-235-5113 midori@midori-c.com
締切 6月20日



信州ESD通信
No.2 2017.05.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **3**
2017.6.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：総会/ユネスコ協議会/国際ユース環境会議/ESD小辞典/お知らせ など

8月27日に総会が開催されます

昨年の信州ESDコンソーシアムの活動を総括し、今年の活動方針を議論します。ご予約ください。

5月20日に長野県ユネスコ連絡協議会が開催されました

長野県には、長野ユネスコ協会、上田ユネスコ協会、松本ユネスコ協会、諏訪ユネスコ協会、木曾ユネスコ協会、飯田ユネスコ協会の6つのユネスコ協会があり、それらが合同して連絡協議会を構成し、県内の状況や連携など様々な意見交換を行っています。



今回の総会では、信州ESDコンソーシアムの意義や活動が紹介され、長野県内のESD活動の活性化に向けた意見交換が行われました。今後はそれぞれのユネスコ協会が信州ESDコンソーシアムに加入し、連携して活動に取り組む方向が確認されました。

8月6日北信越ユネスコスクール交流会が開催されます

金沢市で北陸ESDコンソーシアムの主催で、長野県と新潟県のユネスコスクールおよびESD関係者に呼びかけがあり、初めての北信越ユネスコスクール交流会が開催されます。信州ESDコンソーシアムからは、山ノ内町西小学校、中野西高校、長野西高校の先生方が参加し、より広域の交流、連携の輪が広がることが期待されます。

国際ユース環境会議が開催されます

6月30日～7月2日に第6回国際ユース環境会議が開催されます。本会議は、2012年からユース(中高大学生)を対象に毎年実施され、学校や学年の枠を超えて30名ほどの参加者が楽しく交流し、世界へ目を向ける場ともなっています。今回のテーマは「フードロス」、環境保全協会、直富、ミールケアさんなど信州ESDコンソーシアムの参加企業による講義もあります。ご参加、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(国際ユース環境会議実行委員会)



ESD小辞典

IYGUとは



をもたらすために、国際的協同と国家の活動との連携が必要である。

グローバルとローカルとをつなぐことが重要であり、日々の行動はグローバルな気候変動にとって重要である、日々の意思決定はライフスタイルに依存する、

グローバルな見方は地域におけるコンフリクトのリスクを減少させる。

グローバル問題は持続可能な解決を必要とする。持続可能な変化は下から現れるべきである。グローバルな課題は、迅速で、しかし周到な目標設定と、政治的行動を必要とする。

グローバルな理解が広く普及すれば、個々人の選択のグローバルな結果を深く心にとどめさせることになる。IYGUは下から始まる持続的な変化を望んでいる。

IYGUは国際山岳年(2002年)・国際淡水年(2003年)・国際惑星地球年(2008年)・国際生物多様性年(2010年)などの国際年の成果を生かし推進する。

(IYGUのホームページより)

2016年は国際地球理解年でした。手に負えない世界的な課題ととかく背を向けがちな地球温暖化などについても、人々の地球への理解を広げることで日々の行動が世界へと繋がっていることを強調しています。今後とも大事な視点であると思います。

国際地球理解年(IYGU)とは 人々の身近な行動がどう地球規模の影響をもつかについての理解を深め、気候変化、食糧安全保障、大規模人口移動に関する軋轢などの深刻な地球規模の問題に対するより良い改善策の追求に資することである。



IYGUが挑む課題 気候変化、生物多様性の喪失、エコシステムの喪失、異常気象の頻度と深刻さの増大、砂漠化や土壌劣化、乱獲や乱伐は、我々が直面する多くの環境上の課題のごく一部であり、地球システムの過程や人間行動における社会・文化的コンテクストの双方に対して、理解を強めていく必要がある。

グローバルな理解を育てることと国際的協働を推進することが必要である。社会と生態系に最良の結果

コーディネーター通信 活動の現状をお知らせします

●5月23日、信州型コミュニティスクールのアドバイザー連絡会があり、助言者として出席をした。そこでの資料中に【自然教育】ESD教育の推進という文言が出てきます。協働による学びについてコンソーシアムとリンクできる方向性のように感じました。

●5月12日(金)に大牟田市教育委員会が中心となって進めている大牟田ESDコンソーシアムを視察してきました。教育長はじめ、教育委員会の担当の先生方から、大牟田市の取り組みについてお話をうかがうことができました。大牟田市は、平成23年度から市立の全小中特別支援学校全がユネスコスクールとなっています。各学校にユネスコスクールの担当教員が決められており、大牟田市長を本部長として市全体でESDを推進する仕組みづくりができていました。



ユネスコスクール支援センターの設置



ユネスコスクールの日を制定

今後の大牟田市でのユネスコスクール関係の事業としては、8月23日(水)にユネスコスクール・ESD研修会、1月13日(土)にユネスコスクール子どもサミットが開催されます。また、今年度のユネスコスクール全国大会も大牟田市で開催されることが決まりました。全て他県からの参加が可能なイベントです。遠方ではありますが長野からも参加できるという情報交流ができそうです。

なお、8月27日(日)に開催される信州ESD

コンソーシアムの総会には、大牟田市教育委員会の安田教育長にお越しいただけることになりました。午前中に大牟田市の取り組みについてご講演いただきます。ぜひお越し下さい。(安達)



信州ESD通信
No.3 2017.6.10

発行:信州ESDコンソーシアム事務局 編集:渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局:白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 4
2017.7.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：西小学校ESD研修会/ユネスコスクール交流会/ESD支援センター/ESD小辞典/お知らせ など

7月22日学びセンターで信州ESDコンソーシアムの紹介がされます、ご参加ください

8月27日研修会に大牟田ESDコンソーシアムから市教育長さんをお招きし活動の紹介をいただきます

大牟田市は、市長を本部長として市全体でESDを推進する仕組みづくりができています。どのような活動が学校で行われているのか、どのように仕組みが構築されたのかなど貴重なお話が伺えます。また、信州ESDコンソーシアムの活動を総括し、今後の活動方針を議論します。ご予約ください。

- ◎午前10時より12時：ESD研修会（無料公開）：信州大学教育学部大講義室
- ◎午後1時より3時：信州ESDコンソーシアム通常総会：信州大学教育学部中校舎2階

8月6日北信越ユネスコスクール交流会に、長野から6名が参加します

金沢市で北陸ESDコンソーシアムの主催で、長野県と新潟県のユネスコスクールおよびESD関係者に呼びかけがあり、初めての北信越ユネスコスクール交流会が開催されます。信州ESDコンソーシアムからは、信州大学教育学部・山ノ内西小学校・中野西高校・長野西高校の教員が参加し、より広域の交流、連携の輪が広がるのが期待されます。

6月18日「タビビトーク!!vol.1」が開催されました

長野ユネスコ協会青年部つながる主催の夢サミット企画「世界一周した高校生に感化された学生がこの春日本を飛び出した!!タビビトーク!!vol.1」が開催されました。参加者は社会人3名、大学生9名、高校生2名の14名でした。「旅人×トーク」をテーマに、この春休みに海外へ旅に出た学生三人がスピーカーとなり、旅での体験談や感じたことをそれぞれ紹介し、そこから生まれた疑問をアットホームな雰囲気の中で考え、みんなで異文化理解について深めました。旅大好きな高校生や海外経験のある社会人の方、

第4回 学びセンター フォーラム
2017年7月22日 13:30~16:30
信州大学教育学部 附属次世代型学び研究開発センター【201室】

第1部 ... 基礎講演 ...
テーマ：「ESD教育における協働学習の展開 - 信州ESDコンソーシアムの取り組み -」
講師：渡辺 隆一 (信州大学教育学部特任教授)

第2部 ... プロジェクト紹介 ...
発表されたプロジェクトの発表は「発表」を依頼ください。

13:00 受付開始
13:30 開会 (センター前)
13:40 基調講演 (信州大学教育学部特任教授)
14:20 休憩

14:30 第1部 基調講演 (信州大学教育学部特任教授)
14:35 第2部 プロジェクト紹介 (学びセンター)
14:35 分科発表 (信州大学教育学部特任教授)
15:00 グループディスカッション
15:15 休憩
16:30 閉会

お問い合わせ先
信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター
TEL/FAX: 027-238-4342 (受付 10:00~16:00)
E-mail: esd@edu.shizuoka.ac.jp
http://esd-shizuoka-u.jp/

ふらっと寄ってくれた大学生、いろいろな人に来ていただきました。また、今回はFacebookでのライブ配信も行い、遠方の当日来られない方にもイベントの様子を発信しました。以下学生旅人3人の紹介です。

●大内瑠寧 (教育学部英語教育コース3年生)：イギリス、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンに約一か月、自身の英語力を高めるため各地のミートアップイベントに参加しながら旅をした。北欧の美しい景色を写真に撮った時に気づいた「写真加工問題」や、観光地に行ったときに気づいた「本物に初対面すること」等、参加者みんなと考えました。

●宮脇祐貴 (教育学部英語教育コース3年生)：文部科学省のプログラム「カケハシプロジェクト」に参加し、アメリカへ約一週間滞在。現地の高校生や大学生と交流、日本文化の素晴らしさを発信しました。現地の学生にどの日本文化を発信するかを選ぶときに気づいた「誇れる日本文化とは…?」や、旅費や滞在費を文部科学省から出してもらったことから「もらった返す」など様々なことを語り合いました。

●水戸和義 (教育学部現代教育コース3年)：発展途上国や国際協力に興味を持ち、現地で人々がどのような生活をしているか体験するためにネパールに一週間強滞在。日本人の行ったことのない村の生活の様子を伝えながら、「発展するって…」を参加者と考えました。

6月22日山ノ内町西小学校でESD研修会が開催されました

ユネスコエコパークの山ノ内町では、すべての小中学校がESD活動に取り組んでいます。ESDはエコパークの目指す「持続可能な地域づくり」の鍵になると考えているからです。そこで教職員向け第一回ESD研修会を山ノ内西小学校で開催しました。講師は、中部地方ESDセンターにご紹介いただいた目白大学人間学部児童教育学科教授の石田好広先生。以前に東京都内の小学校の校長も務められていた方で、「ESDカレンダー」の仕掛け人でもあります。参加者は西小学校教員12名他計19名でした。



研修では、ESDのこれまでの経緯と必要性、ESDの構成概念や重視する能力や態度、グローバル・アクション・プログラム (GAP) と学校教育との関わり、新しい小学校学習指導要領とESDとの関連、小学校での教科連携と地域の特色を活かしたESD実践、国連持続可能な開発目標 (SDGs) との関わりなど、盛りだくさんの内容について解説いただきました。

中でも印象に残ったのは、ESDカレンダーの活用についてで、ESDカレンダーを職員室の壁に貼り、授業の度にコメントを書いて、見直すというもの。教科横断的なカリキュラムの中で、ESDの視点を意識するための「見える化」ツールとしての位置づけと、子どもの自発性を引き出す『予定調和的ではない』授業の両立は、目からうろこが落ちる思いでした。

最後の挨拶の中では教頭先生が、ESD大賞を目指すと宣言され、信州ESDコンソーシアムは西小学校のESD大賞受賞を全力で応援していきます。

6月30日～7月2日国際ユース環境会議が開催されました

6月30日～7月2日に第6回国際ユース環境会議が長野市小田切の青少年練成センターで「フードロス」をテーマに開催されました。長野市内を中心にしたユース(中高大学生)23名と講師スタッフ17名、計40名で大雨でしたが、「英語で話そう」「未来への手紙」など20ものワークショップをこなし、「野生動物の現状と課題」の講義を聴いてからのジビエによるBBQなどで楽しく交流しました。異年齢集団だからこそその効果がみられた今年の国際ユース環境会議でした。

長野ユネスコ協会青年部 つながる 夢サミット企画
世界一周した高校生に感化された学生がこの春日本を飛び出した!!
タビビトーク!! vol.1
旅人×トーク=タビビトーク!! 3人の旅人の話を聞きながらワイワイ語り合いませんか?
イギリス ノルウェー スウェーデン フィンランドへ!!
ネパールへ!!
アメリカへ!!
参加型ワークショップもやるよ!

7月3日中部地方ESD支援センターが開所しました

環境省と文科省の共同事業として、昨年「ESD活動支援センター」が開設されました。それを受けて、本年度は全国8箇所に「地方ESD支援センター」が設置されました。これにより長野県と北陸3県、中部3県のESDの取組をつなぎ、全国世界と連携して各地域の実践が豊かになるようなサポート体制が構築されました。



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 5
2017.8.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：通常総会のお知らせ/学びセンターで紹介/オープンキャンパス/研修会報告/ESD小辞典など

8月27日通常総会が開催されます、午前のESD研修会には大牟田ESDコンソーシアムから安田教育長さんをお招きし、ESD活動の紹介をいただきます

大牟田市は、市長を本部長として市全体でESDを推進する仕組みづくりができています。どのような活動が学校で行われているのか、どのように仕組みが構築されたのかなど貴重なお話が伺えます。ぜひご参加ください。また、午後には信州ESDコンソーシアムの構成団体の活動を総括し、今後の活動方針を議論します。

- ◎午前10時より12時：ESD研修会（無料公開） 信州大学教育学部大講義室
- ◎午後1時より3時：信州ESDコンソーシアム通常総会 信州大学教育学部中校舎2階



7月21日学びセンターで信州ESDコンソーシアムの紹介がされました



信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センターでは、実践的指導力を持った教員の養成及び現職教員の研修を目的としており、年に4回のフォーラムをおこなっています。今回は「ESD教育における産学官共同の展開」として信州ESDコンソーシアムの取組を渡辺隆一が紹介しました。多くの教員に参加いただき、近年教育現場にも浸透し始めたESDについてその由来や現状、課題などについて紹介し、理解を進めることができました。

7月23日信州大学教育学部オープンキャンパスで信州ESDコンソーシアムの紹介パネルが展示されました

信州大学教育学部を受験生と父兄などに紹介するオープンキャンパスにおいて信州ESDコンソーシアムの活動を紹介するパネルが展示されました。参加者は1270名と多数でした、どれほどの受験生が興味を持って見ていただけたのでしょうか。



7月25日山ノ内町南小学校でESD研修会が開催されました

ユネスコエコパークの山ノ内町では、今年度よりすべての小中学校がユネスコスクールになり、ESD活動に積極的に取り組んでいます。今回は南小学校より「ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会」の依頼があり、先月に続き目白大学人間学部児童教育学科教授の石田好広先生に講師をお願いしました。参加者は南小学校教員14名他山ノ内中学校より校長先生など4名もご参加

ESD小辞典 企業によるESD宣言



企業もその社会的責任として、「持続可能な発展」の理念の実現に立ち上がるべくESD宣言をおこなっています。まだ少ない数ではありますがCSRの中心的活動として今後とも広げることが期待されます。以下、その基本認識と行動指針です。

1. 基本認識 (1から6) (1)「持続可能な発展」の理念の実現には、すべての組織や個人が参画し、共通認識のもとにそれぞれが主体的に行動することが必要である。組織を担う主体は「人」であり、従ってすべての人に対する教育＝ESD(持続可能な開発のための教育)が、そのカギを握る。(2)とりわけ、企業が社会や環境に与えるインパクトが増大するにつれて、企業に責任ある行動や持続可能な発展への積極的な行動を求める声が高

まっている。略(4)ともするとESDは、学校教育の枠内のみでとらえられがちであるが、それ以外の幅広い社会教育・生涯学習の視点も同様に重要である。特に、持続可能な発展に果たす企業の役割の重要性が高まるに連れて、「企業とESD」は、重要な視点となっている。

2. 行動指針 (1から6) (2) 未来を担う若者・子どもや一般市民などを対象に、学校教育や生涯教育においても、企業ならではの

リソースを生かした多様な社会貢献活動を通じて、ESDへの実践を積極的に行う。略(6)志を同じくする国内外の他のステークホルダーと連携する。とりわけ、NPOやNGOなどの市民社会組織との対話や協働を積極的に行う。



コーディネーター通信

活動の現状をお知らせします

- 2017.6.17 立教大学ESD研究所の10年 記念講演会に参りました。以下講演内容と感想、提案です。



1998年IGES(国際地球環境教育研究)、1999年TEMM(日中韓環境大臣会議)、2003年ESD-J設立、その提言により2005年国連ESD10年始まる、2007年立教大学ESD研究センター設立、HESDフォーラム(岩手など50大学参加)開始、2015年GAP開始、2016年国連SDGs開始・2012年研究所に改称、地域におけるESD導入(池袋学など各地と連携、飯田市とも連携予定)、HESD研究および学内ESD推進、など多様な活動を展開している。今後の課題として、資金や大学間ネットの維持拡大などがあげられた。

感想 様々なESD活動を当事者から聞くことができ、ESDの日本センターとしての役割を果たして尽力されていることが理解できた。当コンソーシアムとして、立教大学ESD研究所と共同研究が実施できれば双方にメリットがあるのではないかと思います。(渡辺隆一)



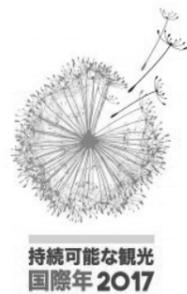
信州ESD通信
No.4 2017.7.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoeshd@shinshu-u.ac.jp

ただ計19名でした。研修では、ESDのこれまでの経緯と必要性、ESDの構成概念や重視する能力や態度、グローバル・アクション・プログラム（GAP）と学校教育との関わり、新しい小学校学習指導要領とESDとの関連、小学校での教科連携と地域の特色を活かしたESD実践、国連持続可能な開発目標（SDGs）との関わりなど、盛りだくさんの内容について解説いただきました。さらに、南小では、石田先生には、急遽ワークショップも構想いただき誠に苦労さまでした。テーマは、「現在の児童活動をESDカレンダーに落とし込む」というかなり実践的なもので、1時間という短い時間でしたが、熱心な意見交換がおこなわれて、2学期以降のESD活動にめどがつけると先生方には好評でした。山ノ内の各学校はすでに来年2月3日の信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会に向けて実践活動がスタートしており今から楽しみです。

8月3日山ノ内町教職員ESD/環境教育野外研修会が開催されました

「ユネスコエコパークの核心地域である志賀高原の信州大学志賀施設の自然観察路を踏査して、悠久の森の魅力を実感するとともに、児童生徒の今後の教育実践の場としての活用をESDの視点から探る」を目的として実施された。当日は天気も良く、16名の教職員を渡辺隆一・水谷瑞希が案内した。学生時代に志賀施設での野外実習を受けた人もあるが当然その中身は忘れていた。たっぷり1日の時間をいただいたので、改めて志賀の自然の素晴らしさとその意味を理解していただけたようである。ただ、園内での最後の下りでサルに群れに出くわしてしまっただけで逃げたのだが、ボス猿は寝そべり脅すと逆に威嚇してきた。サルは弱い者を襲うこともあり、児童などの引率の祭は安全第一として遠回りではあるが止む無く別ルートを通ることとした。サルに限らずクマやシカなど野生動物との共存は今後の大きな課題でもあることを実感させられた研修であった。



持続可能な観光
国際年2017

ESD小辞典

持続可能な観光の国際年

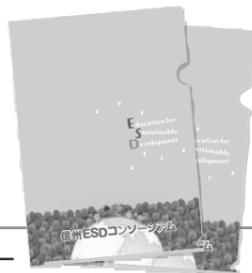


国境を越えて観光する人の数は毎年およそ12億人にのぼり、この15年間で倍増と急成長しています。このように膨大な人の移動をもたらしている観光は、経済と社会、環境での持続可能な開発に大きく貢献する可能性を秘めています。国連は、2017年を「開発のための持続可能な観光の国際年（International Year of Sustainable Tourism for Development）」と定め、観光の役割に対する認識を広めていきます。観光は開発途上国の経済成長を支え、貧困撲滅や雇用創出につながります。旅先での異文化交流は相互理解を深め、多様性と平和をもたらします。さらに、自然との触れ合いを通じて、資源の有効活用や環境に対する問題意識を高

め、地球規模の課題について考える機会を得ることもできます。また、国連世界観光機関は「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光、つまり、環境、経済、地元社会の3つの側面において適切なバランスが保たれることが持続可能な観光であり、将来の観光に影響を与えると考えられる要因について、今、私たちが解決していかなければ、持続的な観光を続けていくことはできません。」と述べています。信州にとっても大きな産業分野である観光においてもSD（持続可能性）が国際的にも重要な概念になっており、先に紹介した「国連の持続可能な開発目標：SDGs」が世界全体の様々な産業分野にまで広がり、新しい時代の目標となっていることがわかります。

お知らせ 信州ESDコンソーシアムのクリアファイルができました！

ESD研修会やユネスコスクールのお誘いに活用されます。
入用の方はご連絡ください。



信州ESD通信

No.5 2017.8.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoeshd@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 6
2017.9.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ユネスコスクール交流会 / 社会主事講習 / 研修会・総会 / ESD 条例

8月6日北信越ユネスコスクール交流会に参加しました

金沢市にて初めての北信越ユネスコスクール交流会が開催されました。石川県、福井県、富山県、長野県から約40名の参加者が集い、信州ESDコンソーシアムからは、山ノ内西小学校・中野西高校・長野西高校・信州大学教育学部の教員が参加しました。交流会では、はじめに、金沢大学の鈴木克徳教授より、ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向について説明があり、その後、アートマイルプロジェクトやティディアプロジェクト等の国際交流事業や富山市奥田北小学校の実践事例が紹介されました。後半は、スモールグループに分かれ「ユネスコスクールまたはESD推進校として直面している最大の課題・困難について」「そのような課題・困難を克服するため、どのような方法が考えられるか」というテーマでワークショップを行いました。約60分のディスカッションの後、各グループからの発表を全体共有しました。ユネスコスクールとしてスタートして間もない学校から、活動が定着し次のステージを迎えている学校まで…、共感し合える課題もあれば、新たに知る気づきもあり、多様な学校が集まったからこそその充実した交流会となりました。今後、広域の交流、連携の輪が広がることが期待されます。（安達仁美）



8月8-11日社会主事講習でESD講義/演習が行われました



社会教育主事とは、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で、社会教育を行う者に対する専門的技術的助言・指導に当たる役割を担います。具体的な役割として、・地域の学習課題やニーズの把握・分析、・企画立案やその企画の運営を通じた地域における仕組みづくり、・関係者・関係機関との広域的な連絡・調整、・当該活動に参画する地域の人材の確保・育成、・情報収集・提供、相談・助言等、・学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て行う教育活動に対する助言、・地域の生涯学習のコーディネーター、などがあります。まさに、地域における持続可能社会形成ESDの主体とも言える専門職です。そのための講習を本年度は信州大学教育学部が担当しており、長野県と新潟県から27名の方が受講されました。講習は毎日9時から6時まで18日間というかなり厳しいものです。その中の4日間を信州ESDコンソーシアムのコーディネーター4名が担当しました。ESD関連の講義と善光寺界隈、ユネスコエコパークの志賀高原のフィールドワーク、これらをふまえた2日間のESDプログラム作成演習でした。受講生は5グループに分かれてそれぞれが地域のニーズを基盤にした実現可能かつ特色ある魅力的なプランを作成するのに苦労していましたが最後には立派に仕上げ発表し、ESD学習4日間の締めくくりとしました。社会教育主事講習は日本各地の大学で実施されていますが、ESDについて体系的に実施するのは今回が初めてのことと思われ、長野・新潟地方にESDを広める貴重な機会になりました。（渡辺隆一）



8月27日信州ESDコンソーシアム第1回研修会と通常総会を開催しました

夏の暑さが残る中、本年度第1回の研修会を開催しました。今回は大牟田市教育委員会の教育長である安田昌典氏をお招きして市全体でのコンソーシアムとして学校への支援体制や具体的な活動についてのお話を具体的な事例を示されながらお話しいただきました。ご自身が教員であった経験からお話しいただき、ESDとの出会い、さらに市内全ての学校がユネスコスクール登録を目指す過程やそれぞれの学校での特色ある活動の様子や、それを支援する行政組織の体制作り等、多岐にわたるものとなりました。ご講演の中で繰り返し話されていたのは「他人の不幸の上に自分の幸せを築かない」という言葉であり、ESDが目指す具体的な活動の精神や体制のあり方等、本コンソーシアムの運営にも有効な話題が示されました。ご講演終了後には、行政と市民活動との関係作りについての質問等が参加者から出されました。また具体的な教育現場での考え方や実践については教育実習で奮闘する参加学部生から出される等、終了時間を越えて意見交換の時間となりました。散会後も参加者同士での情報交換や安田教育長への質問など途切れることがありませんでした。コンソーシアムメンバーを中心として参加者は40名ほどでした。



午後は会場を移して本年度の通常総会が行われました。本格的な初めての総会となる今回は、冒頭でコンソーシアム委員長の永松学部長から挨拶があり、役員を選出の承認をいただき議事を進めることとなりました。活動面・予算面で活発な意見が出され、5年後10年後の活動についても、建設的な意見が出されました。議事終了後は出席の団体からそれぞれの紹介と活動報告をいただきました。また午前中の研修会で講演いただきました安田教育長もオブザーバー参加いただき有益なコメントをいただきました。(西一夫)



ESD小辞典 ESD 条例



ESDの推進のためには多様な関係者が協力、協同することが必要である。岡山市は「岡山ESD推進協議会」が2005年にできているESD先進地である。さらに岡山市は行政としてESDを推進する条例を制定し、地域での中心的役割を果たしている。以下に条例の一部抜粋を紹介する。

○持続可能な開発のための教育の推進に関する条例

私たちは、持続可能な発展のために欠かすことのできないESDに真摯に取り組み、国内外の地域や組織と連携し、協力しながら、地域全体でESDに対する取組をさらに強化し、平和で持続可能な社会の実現に貢献するまちづくりを推進することを決意し、この条例を制定する。

(目的) 第1条 この条例は、豊かな環境と調和のとれた経済の発展を図りながら持続的に発展することができる社会(以下「持続可能な社会」という。)を構築するため、ESDの推進に関し、基本理念を定め、それぞれの責務を明らかにすることにより、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(定義) 第2条 (1) ESD Education for Sustainable Developmentの略であり、持続可能な社会の構築に向け、社会課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観を生み出し、行動を変革することを目指す学習や活動全般をいう。

(基本理念) 第4条 ESDは、世代を超えた私たち一人ひとりが、将来世代や地球環境との関係性の中で生きていることの認識とともに、それぞれの地域の自然環境の保全、市民の生活の安定及び福祉の向上並びに文化や歴史の継承に資するとの認識の下に、環境、経済、社会文化その他の持続可能な社会の構築に関わるあらゆる分野において、それぞれ適切な役割を果たすとともに、協働と連携を図りながら、体系的かつ総合的に推進されなければならない。

(市の責務) 第5条 市は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)に基づき、ESDに関する施策を総合的かつ計画的に策定し、及び実施しなければならない。

(教育機関の責務) 第6条 教育機関は、基本理念に基づき、自らの教育活動全体の中で総合的にESDに関する取組を行うよう努めなければならない。

(市民及び市民団体の役割) 第7条 市民及び市民団体は、基本理念に基づき、日常生活において持続可能な社会の構築に配慮した行動をとらなければならない。2 市民及び市民団体は、持続可能な社会づくりに係る諸活動に積極的に参画するとともに、市並びに教育機関若しくは事業者等と連携協力し、ESD活動に努めなければならない。



信州ESD通信

No.6 2017.09.10

発行:信州ESDコンソーシアム事務局 編集:渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局:白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 7
2017.10.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

信州大学見本市/桜枝町公民館連携事業/ESD研修事業/ESD小事典/お知らせ

8月21日に「第4回信州大学見本市」が伊那市役所で開催されました

信州大学では研究成果の研究交流と対外発信をねらいとして毎年「知の森総合展」を開催してきました。今年は90ブースが出展されその1つとして「信州ESDコンソーシアム」も昨年の研修会やユネスコスクールの成果発表会、交流会などの成果をパネル展示しPRしました。参加者は440名で盛況でした。



9月3日に桜枝町公民館との連携事業「触れる地球—みんなの未来を地球規模で考えよう」が共催されました。

ESDは学校のみでなく地域の様々なセクターの連携によってより良い明日を創る活動であり、今回は信州大学教育学部の地元公民館との初の連携事業が実施されました。参加者は長野市第一地区住民主体に41名でした。

長野市地球温暖化防止活動推進センターの堀池政史さんを講師に、「触れる地球」を用いて現在の地球の姿を様々な環境的視点から解説いただくとともに、手回し発電機を使った実験コーナーと、ESDについて紹介するポスターブースを設け、見て、触れて、考えることができる場としました。当日は地区の幅広い年代の方が参加され、環境問題を通じて人類の未来について深く考えるきっかけになりました。



10月1日に「ESD推進の手引」を活用した研修事業-長野県-が開催されました。

10月1日上記研修事業が伊那市役所において開催されました(主催:文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))。会場となっている伊那市は、ジオパークとユネスコエコパークに重複登録されている自治体です。この二つはいずれも持続可能な地域づくりを目指した制度で、その実現のためにESDに注目したそうです。研修会の参加者は、午前中の講演会が26人、午後のワークショップが18人。長野県内ばかりではなく、静岡県や横浜市からも参加者がありました。



午前中の講演は2題。静岡大学の山本隆太先生からは、ジオパークとESDとの関わりを中心に話題提供がありました。ジオパークネットワークでは昨年の全国大会でESDの推進を宣言したそうです。横浜市立永田台小学校校長の住田昌治先生からは、学校経営の中でのESDの推進について、経験に基づくご講演がありました。ESDに学校全体で取り組むためには、まず学校の先生が「幸せ」に取り組むことができないといけない、との問題意識から、教職員の働き方改革を推進されたお話は、多くの教育関係者が共感していたようです。また午後には「持続可能性」について考えるため、グループに分かれて「持続可能な村とはどんな村か?」「それには何が必要か?」というお題でワークショップを行いました。「自然豊かな場所で、きれいな農地や牧場があるといいよね」「村には学校も図書館も警察署も必要」「電気はグリーンエネルギーでまかなおう」「お年寄りばかりでなく、子どもがいる村がいい」「地域だけですべての運営費をまかなえるのかな?」... 財源の制約を無視してもなお、持続可能な地域社会への道は険しそうです。

さて、1日のプログラムを通して、実は一度も「ESD推進の手引」の冊子を使っていませんでした。不思議に思って企画側の方にはたずねてみると、ESDは知識を詰め込んで理解するものではなく、考えさせてはじめて身につくものなので、あえてテキストは一切使わない研修会の設計にしたとのこと。こういう考えかたもあるということが、私にとっては一番の発見でした。(水谷瑞希)



ESD小辞典



RCEとは (Regional Centre of Expertise on ESD)

国連大学が推進する「持続可能な開発のための教育に関する地域拠点」です。「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD) とは、環境、経済、社会、文化を包括的に考慮した持続可能な社会づくりのための担い手づくりです。

DESDの先導機関であるユネスコ(国連教育科学文化機関)は、2005年から始まった国連・ESDの10年(DESD)のビジョンとして、「誰もが質の高い教育により恩恵を受ける機会があり、持続可能な未来や前向きな社会への変革に向けて要求される価値観、行動、ライフスタイルを学ぶ機会があるような世界」を提示しています。

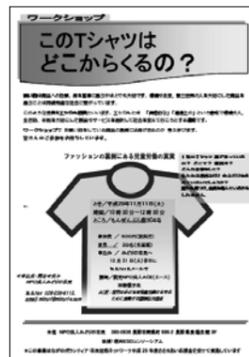
国連大学では、このビジョンの独自の解釈として「世界的な学習の場(グローバル・ラーニング・スペース)」の形成を提唱しました。国連大学高等研究所のESDプログラムでは、ESDに関する地域拠点(Regional Centre of

Expertise on ESD: RCE) づくりを通して、誰もが世界のどこにいても持続可能な開発について学び実践して行く場を形成することが、DESDの目に見える成果となり、その成功に貢献すると考えています。そのためにRCEを世界各地に設けています。各RCEが地方レベルで達成した成功は、世界中のRCEネットワークを通じてスケールアップされています。地元知識、専門知識、ベストプラクティスは、ネットワークを通じて世界中で共有され、他の地域でも適用され、適用されます。RCEはまた、プログラムや活動を通して、地方レベルでのグローバルな技術、知識、経験の移転に中心的な役割を果たしています。日本国内のRCEは、以下の6つがあります。RCE北海道道央圏、RCE仙台広域圏、RCE横浜、中部ESD拠点、RCE岡山、RCE北九州です。



お知らせ

11月11日(土)に「ワークショップ: このTシャツはどこからくるの?」が開催されます。1枚のTシャツ、誰がどこで、どんな作業で作られているのでしょうか、ファッションの裏側には児童労働など世界と未来の課題が潜んでいます。みんなで考えてみましょう!



目次: ESD研修/HESDフォーラム/ESD研究会長野/ESD小事典/お知らせ

10月4日に附属研修教員のESD研修が行われました

教育学部において附属学校園の研修教員の先生方に向けた学部研修の中で「ESD(Education for Sustainable Development)からとらえる学びの姿」というテーマで講義を行いました。附属松本中4名、附属長野中3名、附属松本小2名、附属長野小2名、附属特別支援1名の計12名の先生方が受講しました。講義の中では、ESDが始まった経緯や理念、ESDを取り巻く社会の動きについて説明した後、先生方がこれまでされてきた授業や、現在、構想している授業についてESDの視点で見つめなおすグループワークを行いました。ESDを初めて知る先生もいらっしゃいましたが、ユネスコスクールである附属松本中学校の先生方にとっては馴染みのある言葉のようでした。ESDに対する率直な疑問点もたくさん出していただき、とても有意義なディスカッションができました。(安達仁美)



10月7日にHESDフォーラムに参加しました

11回目を迎えるHESD(Higher Education for Sustainable Development)フォーラムは本年度は立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催され、初日の参加者は約35名でした。キャンパスは琵琶湖を望む高台に造成されており、開発前の森林を残す地域もあり、自然環境の保持につとめている。

フォーラムは、HESDフォーラム代表の阿部治(立教大学ESD研究所所長)、中島淳(立命館大学名誉教授)両氏の挨拶で開催された。引き続き、①立命館大学の山中司による「立命館大学におけるグローバル化の模索: 「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト」の試みを通して」、②滋賀県総合政策部企画調整課の望月敬之氏による「サステナブル滋賀の取組×SDGs」、③立命館大学アジア太平洋学部復学部長のMAHICHI Faezeh氏による「Utilization of Multicultural Collaborative Learning(MCL) for Sustainable Development in Higher Education: HESD Strategies in Ritsumeikan Asia Pacific University」の3氏の講演が行われた。

休憩をはさんで・立教大学、琉球大学、国連大学、北九州市立大学、北陸ESDコンソーシアム、立命館大学など各大学・活動団体からの事例報告が行われた。最後に特別講演として立命館常任理事の建山和由氏による「立命館における学びとEDGE+Rの取り組みについて」が行われた。

翌日の午前は、大阪工業大学、芝浦工業大学環境システム学科、京都大学特活プロジェクト、琉球大学エコロジカルキャンパス学生委員会、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおけるSustainable Weekなど学生を中心に各大学・活動団体からの事例発表が行われた。(西一夫)

10月28日にESD研究会長野「新学習指導要領とESD授業づくり」開催されました

中部地方ESD支援センター主催、信州ESDコンソーシアム共催で信州大学教育学部で開催された。教員・学校関係者やNPO・団体・行政関係者などの参加者のほか、スタッフ(中部地方ESD支援センター、信州ESDコンソーシアム)、講師をあわせて36名が参加した。

講義は文科省教科調査官の渋谷一典氏による「新学習指導要領とESD授業」でそもそも学習指導要領とはの解説から始まり、今回の改訂での大きな以下のような変化について紹介いただいた。ESDという言葉は直接には採用されなかったが「持続可能な社会づくり」が繰り返し記述されており、また「2030年の社会と子どもの未来」を想定

したSDGsと関連した内容となっている点がESDの視点からは重要である。氏は「総合的な学習の時間」を担当しており特にそこでの特徴として、目標は各学校が独自に定めるものであること、内容は「(現代的、地域の特色、児童の関心などに基づく)探求課題を通して(知識、表現力、人間性などの)具体的資質・能力を育成する」ことなどをあげ、カリキュラムマネジメントや具体的なカレンダーなども紹介して実にかかりやすく解説いただいた。質問では評価についてなど現場での苦心もあった。



事例紹介は山ノ内町立西小学校の須山千才氏による「西小学校でのESD授業」で、自然豊かな山ノ内北小学校での児童との防災教育にもつながる自然体験と、地域の特色であるユネスコエコパークやユネスコスクールとしての活動など多々興味深い事例を紹介いただいた。

後半は、6グループに分かれての討論で多様な立場からの意見で大いに盛り上がりそれぞれの簡単な紹介で締めくくった。今回は学校関係者外もおおく、普段は触れることのない学習指導要領など専門的ではあるが教育制度の基礎的な部分も知ることができ大いに有意義な会であった。(渡辺隆一)

「RCE エスポー (フィンランド)」の紹介 (2017年9月に訪問)

ESD コンソーシアムのワールドクラスバージョンであるフィンランドのRCE(国連大学が認定するESDの地域拠点)エスポーをご紹介します。RCE エスポーは、エスポー市全体でESDに取り組んでいる世界トップクラスのRCEです。エスポー市では、初等教育から高等教育まですべての教育機関においてESDが実施されており、すべての保育園と学校にはESDの実施計画があり、教育を受けた1人以上のエコサポーターが配置されています。また、いくつかの小学校と保育園で実施される教育プログラムでは、子供たちが意思決定に参加し、より持続可能な方向へと自らの行動を変化させています。RCE エスポーの先進的な取り組みは、信州ESD コンソーシアムの今後の活動にも大きなヒントを与えてくれるものと思います。(株丹洋一)



ESD 小辞典

ふるさと学習、地域学習、信州学

新学習指導要領にESDという字句はありませんが、「持続可能な社会づくり」としてしっかりと位置づけられています。地域の課題を捉え、地域と協力してともうたわれています。小学校では米作りに限らず地域の特産野菜の栽培や干し柿作りなどの体験や伝統芸能の継承など地域との協働でふるさとの特徴や誇りを学ぶ活動はほとんどの学校が取り組んでいます。中学生では人口問題を地域、日本、世界の3視点から調べ、地域の過疎をどうしたらよいかと討論して文化祭で具体策まで発表する



例もあります。高校では2016年から、「長野県の風土を理解し地域に参加する『人財』育成」として信州学の資料集が全生徒に配布、活用され、地域の課題を高校生の方で解決しようとする提案も多数生まれています。また、信州型コミュニティスクールなど地域と協働する様々な教育制度も進んでおり、長野県では先のような既存の実践とうまく調整、連携、協働することで学校でのESDを無理なく進めることができるのではないのでしょうか。

お知らせ

12月2-3日にユネスコスクール全国大会が大牟田市で開催されます。信州ESD コンソーシアムからは長野県のユネスコスクール教員など17名が参加し全国のユネスコスクールと交流してきます。大きな成果が期待されます。



信州ESD通信

No.8 2017.11.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoeshd@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 9

2017.12.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ユネスコスクール訪問/ESD国際シンポ/ユネスコスクール豊橋大会/ESD全国フォーラム

11月10日・13日ユネスコスクールにフランスから研究者が視察に訪れました

フランスから Jourdan 教授が信州ESD コンソーシアムの紹介によりユネスコスクールである山ノ内南小学校と長野市の文化学園中高等学校を訪問しました。氏はブレーズ・パスカル大学・教育大学院教授で現在、ユネスコのグローバル・スクール・ヘルス・コンソーシアムのメンバーでもあり、ユネスコESD活動における環境と健康教育の融合の在り方について研究を進めています。



10日に山ノ内南小学校を訪問し、養護教諭の仕事内容などの聞き取りとESD活動である6年生の町の子ども議会での発表練習を見学した。高齢者との交流活動をもとに、地域の高齢化について考え、若者が高齢者と交流することができる企画をPPを使って提案していました。13日は文化学園を訪問し、中学生の3Rの発表や英語での長野の紹介などの授業見学の後、Jourdan教授からフランスの学校制度とESDの紹介があり、生徒は興味深く聞いた。生徒へのコメントとしては批判的精神や生徒間のアライアンスを強調していたのが印象的でした。

11月11・12日国際シンポジウムに参加しました

立教大学池袋キャンパスで開催された国際シンポジウム「ESDによる地域創生の可能性と今後の展開」に参加しました。国内外の話題提供者から多くの事例紹介がなされ、約40名の参加者がありました。ここで強調されていたのは、ESDには人づくりを通じた地方創生力がある、ということ。ESDは、持続可能性に関わる、あらゆるテーマやステークホルダーをつなぐ装置であり、このために地方創生において重要なキーワードということができます。このことは、自然と人間活動が調和した持続可能な地域づくりのモデルとなるユネスコエコパークについても同様で、報告者からは「ESDがユネスコエコパークのドライバーである」との力強い発言も飛び出しました。とはいえ、その実践はまだプロセスの途中であり、客観的な評価は今後の課題です。ユネスコエコパークを活かしたESDを特色とする信州ESDコンソーシアムでも、その実践と成果の発信を目指していきたいと思えます。(水谷瑞希)



11月15日山ノ内町で、「子ども議会」が行われました

子ども議会は全校がユネスコスクールである山ノ内町内の3小学校の6年生全員が参加する行事で、子どもたちの視点から将来のまちづくりについて町に意見・提言するもので、地域学習を主体とするESDのまとめの機会としても位置づけられています。議会では子どもたちから、環境保全や観光振興、福祉施策など様々なテーマについて提言がなされ、実際の体験や主体的な学びにもとづいた具体的な提案には大人顔負けの説得力が



ありました。このような「子ども議会」は近隣の複数の市町村でも行われており、自治体側が実際にその提言を検討し、実現した例もあります。今後は山ノ内町でも、提言に対して町側から答弁するだけでなく、提言を町政に反映させるよう具体的な検討を行ったり、あるいは子どもたちが主体的に参画できるような活動に結びつけたりといった、実践に向けた発展が進むことを期待しています。（水谷瑞希）

11月24・25日ESD推進全国ネットワークフォーラムに参加しました

立教大学で2日間にわたって延べ240名の参加者あり盛況でした。また、各支援センターやコンソーシアム、NPOなどからの報告書も多数提供、配布されていました。初日は、①地域でのESD展開の紹介、②各地センター・団体の紹介ポスターでの自由交流、③関係省庁(文科省、外務省、消費者庁、環境省)の施策紹介、そして軽食の懇親会でした。①では長野にいらしていただいた大牟田市教育長の安田さんが発表で、教員研修などについてはやや詳しく紹介されました。③で文科省は専らユネスコスクールとSDGs、外務省はODAでのカンボジア・ベトナムでのESD支援、消費者庁はエシカル消費、環境省は支援センターやモデル事例、環境教育等促進法について紹介しました。懇親会では環境教育学会のメンバーも多く見受けました。2日目は4分科会があり、私は「地域と学校をつなぐ」に参加、ここでは北海道の石狩市環境部の海浜保護センターの活動と板橋区成増小学校でのボランティアコーディネーターによる多彩な学校支援が紹介されました。後者では市民200名以上が支援にかかわっており今後は予算化もされる予定とのこと長野県でも参考になる事例でした。まさに全国でのESDの状況と課題とが粗上りのった大きな集会となりましたが、主題であったESD支援センターへの要望などはあまりに多様で具体化しなかったように感じました。また信州ESDコンソーシアムのパンフなどPRせずに残念でした。（渡辺隆一）



12月2・3日第9回ユネスコスクール全国大会に参加しました

大牟田市で開催された本大会は913名と過去最高の参加者数であった。信州ESDコンソーシアムはブース展示とESD通信などの資料配布を行い、長野からはユネスコスクール教員など17名が参加し以下のような大きな成果が得られました。

高等学校

成果は二点。一は「SDGs」からESD活動の広さを再確認でき、新しい視点を獲得することができた。二は他校の実践例から「まとめ」に力を入れる必要性を再確認できたことだ。今後の取り組みは、一はまとめの時間の確保と参加生徒の幅を広くすること。二は教員側の意識の統一の徹底で、多くの教員が関わるよう工夫すること。

中学校

「ESDの授業を始めて参観できた」ことで、ESDの授業のあり方、目指す生徒の姿が理解できた。これによって、本校のESDに対する自信が持てた。教員間での共通理解等の新たな課題も見え、ESDを推進していく勇気を持つことにつながった。SDGsに照らし合わせて職員研修を行い、先生方のSDGsをつなぎ合わせることで、ESDカレンダーづくりになるのではないかと考えている。年1回の交流ではなく、生徒が主体的に日常的な交流ができるシステムづくりを考えたい。

小学校

すべてのプログラムにおいて、ユネスコスクールの役割、新学習指導要領とESDの関係、学校教育だけではなく、様々な立場の人がともに学び合い、つながることでSDGsの17の目標にせまっていくということが確認できた。ホールスクールアプローチの重要性や、教職員、保護者、地域の理解を得ることの必要性、ESDを研究の窓口とすることの難しさなどを語り合い、有意義な時間を過ごすことができた。今後は、カリキュラムマネジメントを大事に考え、ESDカレンダーを充実させたい。

吉野小学校の授業参観からは、一年間の活動の見通しを課題設定・行動・発信・振り返りとしたストーリーマップ(単元計画)の実例を提示してもらった。学校全体でESD学習を進めていくことで学年学級が一つの方向に向かってPTA・地域・諸団体と協力しながら学習が成り立っている様子がよく感じられた。ESDをよりいっそう推進することが「誰一人取り残さない」社会の実現のための持続可能な開発目標(SDGs)17の目標達成に直接・間接に貢献することが理解できた。急激な変化を遂げるこれからの社会を生き抜くために、ネガティブ思考ではなくポジティブ思考ができる子どもたちに育てたい、というディスカッションが印象に残った。

このように非常に大きな成果と今後への意欲を強めることのできた大会であり、県内ユネスコスクールの今後にも大いに役立つ大会であった。



ESD小辞典 エシカル消費とは

私たちは日々、何かしら消費をして生きています。食料、洋服、エネルギーなど1日の生活を振り返ってみても、多くのモノを消費しています。では、それらが誰の手によって、どこで、どのように作られたか、考えたことはあるでしょうか？自分で意識的に調べない限り、それを知ることはありません。けれども、私たちが消費しているモノの生産背景を知ること、とても大事なことです。なぜなら、それが世界中で今緊急課題とされている、「貧困問題」、「人権問題」、「気候変動」を解決するための、大事なきっかけとなるからです。

11月11日に、持続可能な社会の構築を目指しているNPO法人みどりの市民は、エシカル消費(倫理的・道義的消費)を広めようと、ワークショップ「このTシャツはどこからくるの？」を長野市のもんぜんぶら座で開催しました。講師は児童労働の問題に取り組む認定NPO法人「ACE」の田柳優子さん。参加者は短大生など18名でした。ワークは、講師のこんな問いかけから始まりました。「皆さんは自分の着ている服はどこで作られているか「タグ」を見たことがありますか?」。回答は「インド」「バングラディッシュ」「チャイナ」などアジアの様々な国です。参加者は、綿が服になるまでの流通の過程で、綿の栽培に従事する女児とその母親、縫製会社やアパレル会社の社員、消費者(OL)の視点に立って、問題点や課題などを考えました。講師の田柳さんは、綿の生産地インドの児童労働の背景には、「貧困や教育への意識の低さ、加えて商品の価格の低さにより、正当な賃金が支払われない」という現実があると指摘されました。児童労働の実態を改善するために、私たちは何が出来るかのワークでは、参加者から「フェアトレードの商品を買う」「エシカルについて学び、広める」「ACEの活動を応援する」などの提案がされました。このワークを通して、私たちの暮らしは世界と繋がっていること。私たちが日常的に買う商品の裏側に何かあるのかについて深く考え学ぶことができました。田柳さんの「フェアトレードは買える時に買しましょう。プレッシャーを感じないように」の言葉に「できることからより多くの人に広めよう」という思いを強くしました。(みどりの市民:渡辺ヒデ子)



信州ESD通信
No.9 2017.12.10

発行: 信州ESDコンソーシアム事務局 編集: 渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局: 白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 10

2018.1.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：成果発表交流会/ユネスコスクール全国大会/ESD研修会/ESD小事典

2月3日に信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されます

ユネスコスクールやNPO、企業の1年間の活動の成果の発表や紹介と交流会が開催されます。ぜひ広報いただき多数のご参加をよろしくお願いいたします。

平成30年2月3日(土) 10時00分~15時30分 信州大学教育学部 図書館2階大講義室

1.成果発表(午前) 山ノ内町立西小学校、高山村立高山中学校、山ノ内町立山ノ内中学校、信州大学附属松本中学校、長野県長野西高等学校:講評

2.交流会・休憩12:00~13:00 ポスター展示やパンフの紹介があります。

- ・ポスター展示:長野県環境保全協会、NPO 法人みどりの市民、長野県ユネスコ連絡協議会、附属6校園、長野ユネスコ協会青年部つながる、国際ユース環境会議ほか
- ・パンフレットコーナー:信州ESDコンソーシアム、長野県環境保全協会、北陸コンソーシアム、ESD活動支援センター、日本ユネスコ協会連盟、ユネスコ・アジア文化センター、EPO中部ほか

3.成果発表(午後) 高山村立高山小学校、山ノ内町立東小学校、山ノ内町立南小学校、長野県中野西高等学校、文化学園長野中学・高等学校:講評



12月2日ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会に参加しました

大牟田文化会館(福岡県大牟田市)で開催された「第9回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会」に参加しました。今大会には900人以上(なんと昨年の1.5倍!)の参加があり、大盛況でした。大牟田市は人口11万人の地方都市で、先に紹介した豊橋市と同様、自治体を挙げてESDを推進しています。大牟田市では持続可能な地域づくりへの期待から、市長が本部長、各部署の部長が推進員となってESDを推進していますが、決して行政主導だけで進んでいる訳ではありません。「学びのストーリー」を柱とするカリキュラムデザインとして組織化・体系化された大牟田市のESDは、教育実践を通じて練られた成果であり、教育現場の想いが十二分に反映されています(このあたりは、8月のコンソーシアム総会の際の、大牟田市教育委員会の安田教育長の講演を聴講された方はご存じですね)。今大会においてESD全国大会で初めて、公開授業が企画されたのも、大牟田型ESDへの自信の表れでしょう。



信州ESDコンソーシアムは活動内容を紹介するブース展示を行うとともに、コンソーシアムに参加しているユネスコスクールの先生12名を派遣し、情報収集と交流を行いました。このほか、志賀高原ユネスコエコパークなどが参加する日本ユネスコエコパークネットワークも初めてブース展示を行い、志賀高原でのESDの取り組みなどを発信しました。(水谷瑞希)

12月27日山ノ内西小学校でESDカリキュラムデザイン研修会を行いました

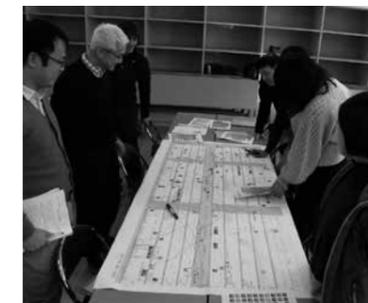
西小学校の教員13名のほか、山ノ内町ユネスコエコパーク推進室などから3名が参加し、水谷が講師を務めました。この研修会は1月に計画しているESDカレンダーのワークショップに先立って、地域の教育資源を



洗い出し、共有することを目的として開催したものです。あらかじめ職員室に掲示していた校区の地図に付箋で貼ってもらった、自然や歴史、文化などに関する地域資源を整理し、校区内の教育資源を確認しました。そして、これらの教育資源を踏まえてESDカレンダーの見直しに着手しました。(水谷瑞希)

1月9日山ノ内町でESD研修会を開催しました

山ノ内中学校と西小学校で、それぞれ「ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会」を開催しました。山ノ内中学校では中学校のほか、東小、南小の先生方、町職員も加わり、計35名の参加がありました。また西小学校では西小の先生と町職員の、計15名が参加しました。講師は今回も、目白大学の石田好広先生です。



中学校の研修会では、ESDに関する講演に続き、ESDカレンダー作成のワークショップを行いました。あらかじめ準備していただいた学年ごとの年間カリキュラムに、SDGsの各ゴールをシールでタグ付けし、教科の単元ごとにESDの視点を意識した上で、総合の時間を中心に展開しているESD学習との連携について話し合いました。とくに教科ごとに担当が変わる中学校では、このように教員が一堂に会してカリキュラムを俯瞰するワークショップは、情報共有と意見交換の貴重な機会となったようです。

山ノ内西小学校の研修会では、12月末から検討を始めたESDカレンダーについて、石田先生から講評と助言をいただき、さらにブラッシュアップするワークに取り組みました。教科教育との連携について、社会や理科以外の教科とのつながりの発見に苦労する場面もありましたが、石田先生からは、国語、音楽、道徳はESDと連携しやすい内容が含まれているので、教科書の内容をよく検討すると良いとのアドバイスをいただきました。

今回の研修会で、山ノ内町のすべての小中学校の教員を対象に、ESD研修会を実施したことになります。来年度からのさらなるESDの発展に、期待です。(水谷瑞希)

ESD小辞典 信州大学環境報告書

信州大学では毎年、組織のエネルギー使用状況や環境対策等についての現状を調査し「環境報告書」を作成して報告しています。今年度は信州ESDコンソーシアムが特集として6pの記事となっています。信州大学のHPから取り寄せることができますのでぜひ一読ください。以下は本報告書巻頭の学長メッセージです。

信州大学では、3つの「G」(Green, Global, Gentle)と3つの「L」(Local, Literacy, Linkage)をキーワードとして設け、大学運営の基本方針を定めております。Greenを最初のキーワードとしている理由は、信州大学がこれまで教育・研究・社会貢献など、あらゆる活動を通して、地球環境保全に取り組んできており、最も重視しているキーワードだからです。中略 本報告書では、教育学部が核となって取り組んでいる信州ESDコンソーシアムが特集されております。ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で、日本語訳は「持続可能な開発のための教育」です。日本ユネスコ国内委員会のウェブページには、ESDとは、環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動、つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育と記されています。信州ESDコンソーシアムの活動が次代の担い手を育成する核となることを期待しております。以下略



信州ESD通信

No.10 2018.1.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 11
2018. 2.10

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ESD 交流会東海／全国 ESD コンソ報告会／SDGs 会議／ESD 小事典／お知らせ

1月19日にESD交流会 in 東海に参加しました

交流会は「一人ひとりが主人公。出会い、学びあい、つながっていく…！」が副題で、幅広い地域の方々との出会い、学びあい、つながることができた会でした。「in 東海」となっていますが、富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・愛知県・三重県が対象で、複数の県から多くの人々が参加されました。参加者は教員よりも行政関係者が多く、その方々に向けての文部科学省の渋谷一典氏の「学校教育におけるESD実践～新学習指導要領改訂を踏まえて」の講演が行われました。ESDを政策に盛り込むためには、担当者も正しく理解しておくことが非常に重要であることから今回の講演が行われ、多くの参加者が真剣に耳を傾けていました。次のセッションでは、「環境学習／ESD施策の現状と今後の展開・可能性」をテーマに、参加している5県1市の環境学習施策が紹介され、いずれも行政が主体となって様々な団体・機関と連携することで多様な学びの場が提供され、積極的な活動が行われていることがわかりました。その後のグループディスカッションではそれぞれが感じている現在の課題をテーマに積極的に意見が交わされ、有意義な会でした。(本間喜子)

1月26日に全国ESDコンソーシアム活動報告会で発表しました

名古屋市のJRゲートタワーカンファレンスで『「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」活動報告会』が開催されました。この会合は、全国で活動している13のESDコンソーシアムが一堂に会して、活動を共有するとともに、ESDの普及と深化に向けた課題と対応について議論を深めることを目的として、今年初めて企画されたものです。信州ESDコンソーシアムからも3名が参加し、口頭とポスターで日頃の活動を報告しました。意見交換では、ESDによる学びを深化し、それ自体を持続可能にしていくために、「活動ありき」に陥らないようESDの価値を明確にして共有することが必要である、学校現場では「ESDの学び」として何をしているかというコンテンツ重視から、どのような能力を涵養するのかというコンピテンシー重視への転換が必要である、などの意見が出されました。信州ESDコンソーシアムでは、この会合で得たアドバイスや意見などを参考に引き続き長野県におけるESDの推進に取り組んで参ります。(水谷瑞希)



1月27日に山ノ内中学校の皆さんが地域学習の成果を発表しました

山ノ内町文化センターで『第3回ユネスコエコパークセミナー「志賀高原ユネスコエコパーク内の地域資源を考える」』が開催されました。このセミナーは、町内のほぼ全域がユネスコエコパーク地域に登録されている山ノ内町の皆さんと一緒に、地域の魅力や地域資源の活用について考えるものです。ワークショップ

プではまず、山ノ内中学校1年生の皆さんが、総合的な学習の時間に取り組んだ「地域自慢」の学習成果について発表し、続いて地区ごとに分かれて、地域の方と一緒に地域資源を活かした地域活性化の取り組みについて議論しました。山ノ内中学校ではESD学習として総合の時間に、3年間を通して地域学習に取り組んでいます。ワークショップで発見した新たな地域の魅力が、これからの学びに繋がっていくことを期待しています。(水谷瑞希)



2月10日に「SDGsを知って今始めよう！」に参加しました



「長野で活動するNPOが持続可能な社会を考え、活動を見直しゴールを発表！」をねらいにNPOの新たなポータルサイト開始記念会議がNPOセンター主催で開催されました。「SDGsを知って行動を起こそう！」の講演が東京の「SDGs市民社会ネットワーク」理事の星野氏よりあり、個々の内容より開発と環境を統合した目標として「世界を変革するSDの2030年アジェンダ：SDGs」に至る経緯と日本での政府やNPO、企業、自治体での動きが分かりやすく紹介されました。その後グループ毎での意見交換がありNPO毎に目標が異なっているが、経済も社会も自然も関連していてどれも社会や世界のより良い変革につながっていることを確認した。総勢40名ほどであったが多様なNPO関係者が参加して信州ESDコンソーシアムの紹介もできた。(渡辺隆一)

の内容より開発と環境を統合した目標として「世界を変革するSDの2030年アジェンダ：SDGs」に至る経緯と日本での政府やNPO、企業、自治体での動きが分かりやすく紹介されました。その後グループ毎での意見交換がありNPO毎に目標が異なっているが、経済も社会も自然も関連していてどれも社会や世界のより良い変革につながっていることを確認した。総勢40名ほどであったが多様なNPO関係者が参加して信州ESDコンソーシアムの紹介もできた。(渡辺隆一)

ESD小辞典



ユニブネット (ASPUnivNet)

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) とは、ユネスコスクールを支援する大学のネットワークです。ASPUnivNetはユネスコスクールに対して、①ユネスコスクールへの加盟支援、②大学の持つ知的財産を活かした活動の支援、③教育に関わる地域の様々なステークホルダーとの連携の支援、④国内外のユネスコスクールとのネットワーク作りの支援、などの支援活動を行っています。またESDについては、その推進拠点として位置づけられているユネスコスクールに対する様々な取り組みを通じて、そのESD活動の質的向上を

支援するとともに、多様なステークホルダーと連携しながらESD推進のコーディネーターとしての役割も担っています。ASPUnivNetには、17校(平成27年4月現在)の大学が参加しています。信州大学教育学部は現在、参加の準備を進めています。

* ASPnetとは1953年に Associated Schools Project Network としてユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するために発足したユネスコスクールのネットワークのことです。(渡辺隆一)



お知らせ

2月23日に「ESD交流会 in 北陸・長野」が金沢勤労者プラザで開催されます。中部7県(富山・石川・福井・長野・岐阜・愛知・三重)で実施されているESD施策の現状を共有し今後の発展に向けて意見交換します。ぜひご参加ください。



信州ESD通信

No.11 2018.2.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩／大山 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp



目次：ESDワークショップ/成果発表&交流会/ESD交流会北陸長野/ESD小事典

1月23日 中野西高ESD倶楽部と長野ユネスコ協会青年部がESDワークショップを行いました



中野西高校において、長野ユネスコ協会青年部つなぶるのメンバー4名が中野西高校のESD倶楽部を中心とした高校生13名と、ESDに関するワークショップ「中野西×つなぶる 語り合おう！つながりあおう！～今日からはじめるESD～」を行いました。本企画は中野西高等学校において毎年行われているUNESCO - Week (1月22日～26日)の企画の1つとして実施されたものです。ワークショップでは、グループに分かれて自分の現在、過去、10年後の未来を考えながら、自分自身とESDの関わりについて考えま

した。ワークショップ終了後にも話に花が咲き、高校生やつなぶる(大学生)のメンバーからは「また一緒に何かをしたい」という声もあがりました。信州ESDコンソーシアムでのつながりを生かした、このような学び合いの場がこれからも広がっていくことを期待しています。(安達仁美)

2月3日に信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されました

開会前より発表の小学生、生徒や父兄、ゲストなどで会場はにぎやかになり、会場後ろの関連団体の紹介ポスターにはさっそく人だかりがしました。10時より運営委員長の挨拶で開会、以下各発表の概要です。

●山ノ内西小学校の5年生15名による「私たちの米づくり」は、田起こしからしらかき、田植え、雑草取り、田んぼの生き物調査、稲刈り、脱穀、収穫祭、わらのしめ縄づくりまで全員で1年間全力で取り組んだ記録です。無農薬で作ることの苦労やその意味、思ったより大変だったこと、泥の中を転がって楽しかったことなど率直な感想もあり、何よりも体験して考えること、そして話し合うことの大事さを学んだという大きな成果が伝わってきました。



●高山村中学校の3年生5名による「総合的な学習：故郷 高山村と私」の3年間を通したESDの取り組みです。1年は「高山村を知る」、2年は「桜の保全」、3年は「ブドウ栽培から学ぶ」と年ごとにテーマを決めて取り組み、村の未来に大きな希望がもてたとSDGsにつながる学びの成果を大きな声で発表してくれました。



●山ノ内中学校の1年生12名で「地域自慢」として地元の多彩な名産、名物を実際に探り、普段身近な温泉が7世紀からの日本でも最古ではないかと驚いたり、改めて地域の良さや課題を知りました。皆で調べ、考えることで地域のこれからの大きな期待が持てた学びとなりましたという感想がとてもESD的でした。



●信大附属松本中学校は遠路1年生3名がヒートパックの開発、志賀高原エコパークトレッキング、松本城の清掃ボランティア活動、英語でのインタビュー、ピザ窯の製作など多彩な活動を紹介しました。その中で環境教育が人権や地域貢献などにも繋がっていることを実感し、地域貢献したいとの意欲が高まったとのことでした。



●長野西高校は3年生1名が代表でアフリカでのボランティア活動の紹介でした。村でのトイレ作りや奴隷城の見学など貴重な体験から「貧しくても笑顔で乗り越えるアフリカ流！」を学び、世界の広さと夢を持つことができました。

昼にはポスターブースなどで交流会が行われました。以下午後の発表概要です。



●山ノ内東小学校は4年生17名で素敵なコカリナの演奏を聞かせてくれました。



ただ吹くだけではなく、長野五輪で伐採された木からコカリナが生まれたという人と自然との素敵な歴史を学び、それをクイズにするなど楽しい地域学習になりました。

●山ノ内南小学校は1年生10名でのウサギとの1年を楽しく発表してくれました。小さな子どもたちの大きな声での歌と踊りは本当に素敵でした。そしてウサギのうんちを大根の畑に入れて、大根の葉はウサギさんに、大根は私たちが食べて、グルグルまわるのでグルグル大根と名付けました、では自然の循環を体験的に学んでいることに皆感心して会場一杯の大きな拍手でした。



●高山小学校は3年生19名での「わくわく村」の紹介でした。わくわく村は地域の方々との協同学習で、今年にはホテルの飼育やサバイバル炊飯、綿の栽培から製品製作、ミソダマ作り、リンゴ栽培から選果場の見学などの様々なふると学習から「高山村が大好きになりました！」とまさにESDとしての素晴らしい発表でした。



●中野西高校は4名のESDクラブ員と青年会議所4名による「おごっそフェア」などの企画運営を漫才もはさんでの楽しい発表でした。特にESDは本来学校だけでなく、地域の人々や企業との連携、協働が重要でありながらなかなか環が広がらない中でこの活動はモデルとなる貴重な事例でした。地域にとっても子どもや青少年の意見や参加の重要性が意識されつつあると希望がもてました。

●文化学園長野中学・高等学校は生徒10名が本年加盟したユネスコスクールとしての活動を毎月紹介してくれました。英語による日本文化の紹介など豊かな国際活動の中で表現力が養われ、自己評価が高められてゆく様子がよくわかりました。



こうした発表に対して、ゲストの方々からの暖かい評価と適切なアドバイスがあり今後の活動の励みになったものと思われます。ただ、発表した学校間の交流の仕組みは今後の課題ではないかと宿題もいただきました。ユネスコスクールの活動の内容も充実し、発表も楽しく工夫されESDの成果が向上しています。また、参加数は名と昨年を大きく上回るだけでなく一般の参加者も多くて、ESDが少しずつ普及しつつあるのを感じました。さらなる発展が期待されます。(渡辺隆一)

2月23日 ESD 交流会 in 北陸・長野に参加しました



北陸の大雪が心配でしたが当日は駅前の巨大なガラス屋根も無事でした。ここ数日で通りの雪がやっと処理されたとのことでした。本交流会は「中部7県の環境学習 ESD の現状と展開」をテーマに各県・市の環境担当者からの施策説明とそれを受けてのグループ討論でした。以下各県の報告です。

富山県は小学4年生に「チャレンジ10」という温暖化学習と家庭での省エネ実践を呼びかけ今年66校で実施された。石川県は「学校版環境ISO」を提供し小学校で69%、中学58%、高校100%で省エネ等に取り組み優れた活動にエコギフトを贈呈している。岐阜県は「清流の国ぎふ推進事業」で推進委員を学校に派遣、県費で発表会を実施しアンケートで評価をおこなっている。福井県は「里山里海湖研究所」で研究、教育、実践をしている。特に水月湖年縞は7万年の世界標準で資料を全小中に配布。「ふるさと学びの森」を全市町33か所に設け体験活動の場を提供している。三重県は「環境学習情報センター」で展示や出前講座、指導者養成のほか、年3回の環境フェアなどを実施、年間3万人が利用。長野県は環境保全研究所の「サイエンスカフェ」「自然ふれあい講座」などを紹介、質問で環境カレッジも計画中。愛知県は「地域資源を生かし、各世代に応じた次世代の育成」を目標に幼児・小中校・大学・社会人への多彩なエコアクションを提供している。名古屋市は「なごや環境大学」を実施、150講座、2万人が参加、環境学習センターもあり、150名の環境サポーターを学校に年500件派遣している。

それぞれに様々な資料やパンフを提供いただいた。それぞれの担当者は環境教育に熱心に取り組んでいるが近県でも事業の相互交流はないそうで貴重な機会だったようです。それぞれの事業が全国で展開されればESDも大きく前進するだろうと思われ、実践事例の交流はますます大事になるだろうなと感じました。各県の資料は「図書2階の室 ESD コーナー」にあります、ご覧ください。(渡辺隆一)

ESD小辞典 ユネスコスクールとは

ユネスコスクールの設立や加盟については「ユネスコスクール加盟申請の手引き」に詳しいので以下に引用で紹介いたします。

ユネスコスクールになるということ：日本国内では平成20(2008)年から、ユネスコスクールを持続可能な開発のための教育(ESD)推進の拠点と位置づけ、ユネスコスクール加盟を促進する方針を提起しています。ユネスコスクールになるということは、学校がユネスコスクールという承認を得ることに加えて、ユネスコスクールという国内外の学校間ネットワークに加盟することです。

文部科学省が示した「ユネスコスクールガイドライン(2012)」には、ユネスコスクールとして大切なこととして、以下のように記載があります。また、日本ではユネスコスクール加盟の前提としてESDをすでに実践に取り入れていること、ユネスコスクール加盟後はESD推進拠点として機能することが求められています。

・国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互



いに交流相手の良さを認めあい、学び合うこと。・地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。・校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的発展するよう心がけること。・学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。・ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。・必要に応じ、ASPUnivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

(ユネスコスクールガイドライン(名称一部変更)ユネスコスクールとして大切なこと)から

(渡辺隆一)

事務局より

信州ESDコンソーシアムに、新たに「いづな学園グリーン・ヒルズ小学校」「NPOやまぼうし自然学校」「長沼公民館」が参加しました。県内ではユネスコスクール申請を希望する学校もあり、今後とも活動の広がりが期待されます。

信州
ESD

信州ESD通信

No.12 2018.3.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoese@shinshu-u.ac.jp

平成30年度 文部科学省
グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

信州ESDコンソーシアム
成果報告書2017

平成30年8月

編集・発行 信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局
〒380-8544 長野市西長野6-口
TEL:026-238-4034
E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp